

阪大 一地域に生き世界に伸びる一

NOW

80th ANNI^{VER}SARY
原点へ
未来へ
2011
OSAKA UNIVERSITY

OSAKA UNIVERSITY
12
2010/No.121

トピックス

大阪大学 上海教育研究センター 開所式

クローズアップ

大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室



2010 **12月号**
No. 121

目次

トピックス 2
 クローズアップ 4
 役員室だより 8
 80周年 21
 ナウススペシャル 22
 キャンパスニュース 24
 表彰等 56
 人事 64
 討報 66
 インフォメーション 67
 職員インタビュー 71
 海外拠点だより 72
 交流協定大学 74
 クラブ&サークル 75
 トピックス 76



表紙写真：経済学関係の刊行物と高札及び銭箱

経済学研究科資料室は、『大阪大学経済学』など研究科の刊行物をはじめ経済学・経営学に関する内外の雑誌・書籍類を収集している。表紙にある雑誌等はその一部であり、大阪大学と世界とのつながりを表現している。

同研究科の経済史経営史資料室には近世及び近代の日本に関する重要な歴史的資料が多数保管されている。表紙に掲げた、幕末の慶応4年3月に堺県役所が建てた高札（「五榜の掲示」の一部）と、三和銀行（現三菱東京UFJ銀行）の戦前期の銭箱（貨幣の収納に用いた容器）は、過去から現在へのつながりを表している。

表紙デザイン：株式会社ココティエ





大阪大学上海教育研究センター開所式

10月21日(木)、中国・上海市において上海教育研究センターの開所式が執り行われました。

本開所式には、本学から鷺田総長、辻理事・副学長を始め本学教職員の出席のほか、本学の海外拠点形成に尽力された名誉教授の先生方、中国の学术交流協定校、上海に事務所を置く日本の関係機関の代表者等を招き、また、大阪大学、及び大阪外国語大学の同窓生や上海滞在中の本学学生なども含め、約130名の出席者を得て盛大に行われました。

式典では、辻理事・副学長の開会の辞に始まり、鷺田総長が大阪大学を代表して挨拶を行い、続いてご出席の関連機関代表者の方々から祝辞をいただくほか、平松大阪市長からのメッセージも届けられました。続いて開催された記念講演会では、鷺田総長が「大阪大学の原点と未来」と題して大阪大学の紹介を行い、続いて国際公共政策研究科山内教授とレーザーエネルギー学センター斗内教授が最新の研究成果を発表する講演を行いました。

また、祝賀会では、威勢よく鏡開きが行われた後、終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われ、現地ボランティアグループによる和太鼓演奏が披露され、大いに盛り上がりました。

翌22日(金)には、上海交通大学において第15回大阪大学・上海交通大学学术交流セミナーが開催されました。毎年恒例の本セミナーを、今回は上海教育研究センター開所式に日程を合わせて開催し、両大学から100名を超える関係者が参加しました。

さらに、22日(金)午後には、上海市内の同済大学を鷺田総長一行が訪問し、両大学長により大学間学术交流協定及び学生交流覚書の調印式が行われました。

今後も、上海教育研究センターの活動を通じ、中国との交流がより一層推進されるものと期待されます。

大型教育研究プロジェクトの 獲得と運営をトータルに支援

Support Office for Large-Scale Education and Research Projects

大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室

大型教育研究プロジェクト支援室は、研究・産学連携担当理事を室長として、平成21年7月に設置されました。そして、翌平成22年4月に事務部門として研究推進部大型教育研究プロジェクト支援事務室が設置されました。ここでは、本支援室および支援事務室設立の目的と現在までの取り組みを紹介させていただきます。

関連リンク

大型教育研究プロジェクト支援室 <http://www.lserp.osaka-u.ac.jp/>

支援室の設置とこれまでの取り組み

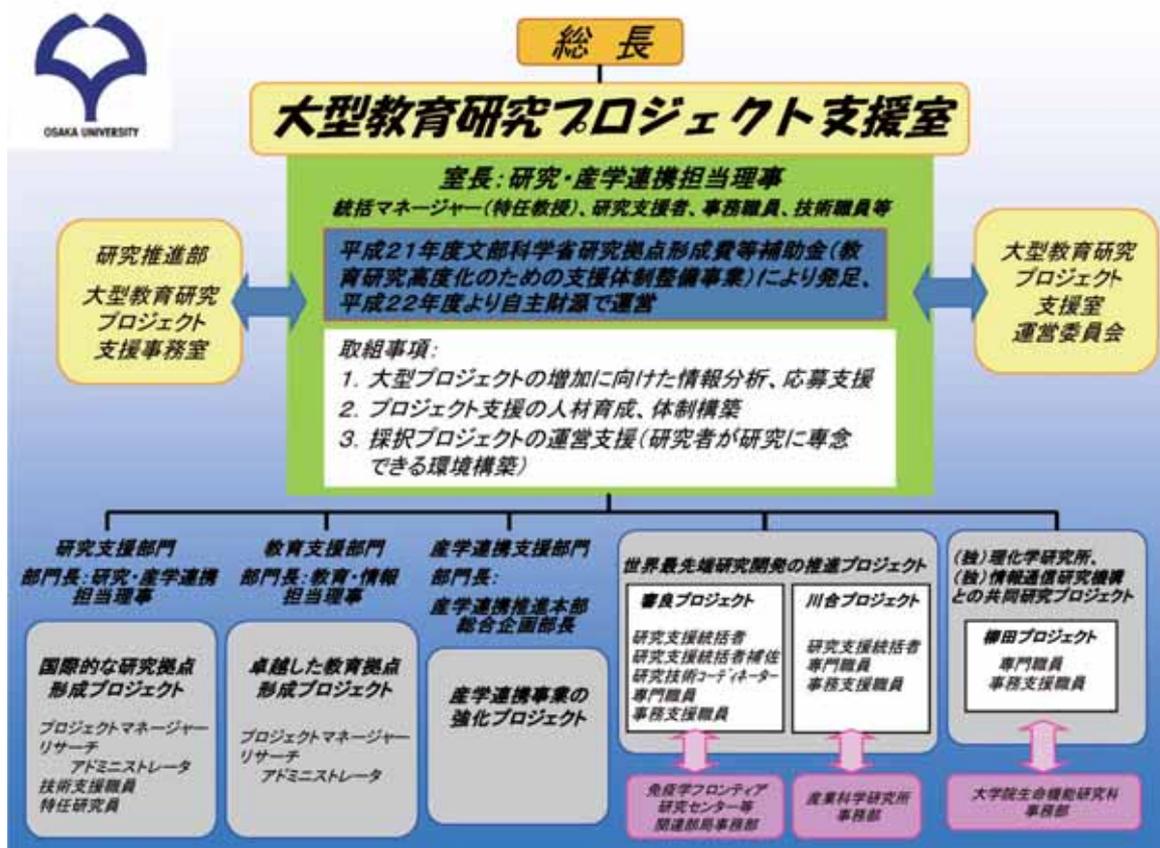
大型教育研究プロジェクトの獲得と運営を支援しています

大型教育研究プロジェクト支援室設置の目的は、本学が推進する大型教育研究プロジェクトの獲得に係る支援体制の整備と企画戦略機能の強化です。

本室では、大型教育研究プロジェクトの獲得支援として、後に述べる大型プログラムの情報収集と学内への周知活動とともに、外部資金獲得に係るヒアリング出張への旅費支援や、模擬ヒアリング等の活動に取り組んでいます。平成22年11月

末現在の実施状況は、旅費支援 54 件、模擬ヒアリング 74 件でした。今後は、プログラムへの応募企画も含め、より積極的な活動を進める予定です。

プロジェクトの運営支援としては、平成21年度文部科学省研究拠点形成費等補助金（教育研究高度化のための支援体制整備事業）により特任教員及び特任事務職員等の支援職員を雇用し、「国際的な研究拠点形成プロジェクト」及び「卓越した教育拠点形成プロジェクト」等を担う部局への配置を行いました（平成22年度は大学経費により実施）。このほか、下に述べる大型プロジェクトの支援を行っています。



支援室事務部門（支援事務室）の役割

統括、審良、川合、柳田の4チームで研究支援に取り組んでいます

研究推進部大型教育研究プロジェクト支援事務室では、統括マネージャーのリーダーシップのもと、次の4チームが担当プロジェクトの特性に応じた研究支援に取り組んでいます。

①(統括チーム)

新たな大型教育研究プロジェクトの企画・調査及び申請・評価に係る支援

②(審良プロジェクト支援チーム)

最先端研究開発支援プログラム（中心研究者：審良静男教授、研究費：25億2000万円、研究期間：H22.3～H26.3）の支援

③(川合プロジェクト支援チーム)

最先端研究開発支援プログラム（中心研究者：川合知二特任教授、研究費：28億7700万円、研究期間：H22.3～H26.3）の支援

④(柳田プロジェクト支援チーム)

(独)理化学研究所との共同研究プロジェクト及び(独)情報通信研究機構との共同研究プロジェクト（研究代表者：柳田敏雄特任教授）の支援

業務の紹介

プロジェクト獲得と研究支援に取り組んでいます

■大型プロジェクト獲得支援事業

平成22年度の大型プロジェクト獲得支援事業として、日本学術振興会の「最先端・次世代研究開発支援プログラム」及び科学技術振興機構の「先端的低炭素化技術開発事業」獲得に係る支援事業を行いました。主な活動は下記のとおりです。

①最先端・次世代研究開発支援プログラム

公募情報等の学内への周知のほか、日本学術振興会との共催などで公募説明会を開催しました。応募書類の点検とアドバイス、ヒアリング対象者に対する模擬ヒアリングを実施しました。本学から271件の応募があり、そのうち37名がヒアリング対象者として選ばれています。

②先端的低炭素化技術開発事業（ALCA）

公募説明会を開催したほか、公募に係る情報収集とビデオクリップ情報等の学内への周知を行いました結果、本学から30件の応募がありました。

③日本学術振興会特別研究員の申請に係る支援

日本学術振興会特別研究員の申請書類に係るチェックリストを作成し、申請者へのアドバイスをを行いました。また、面接対象者53名中の希望者36名に対して模擬面接を実施しました。

大型教育研究プロジェクト支援室においては、さらなる大型プロジェクト獲得のため、平成23年度政府予算案の動向に注目しつつ、文部科学省や(独)科学技術振興機構、(独)日本学術振興会等からの情報収集や意見交換等を積極的に進めています。

また研究推進部研究推進課においては、科学研究費補助金の申請に対し、チャレンジ支援プログラムや相談員の配置等を行っており、同産学連携課においては、共同研究や受託研究の推進等、産業界からの資金導入の支援を行っています。以上のように、研究推進部全体として様々な外部資金の獲得推進に努めています。

■研究支援事業レポート

平成22年12月現在、内閣府/日本学術振興会の最先端研究開発支援プログラム2件ほか計3件の研究支援に取り組んでいます。各担当チームからのレポートを掲載します。

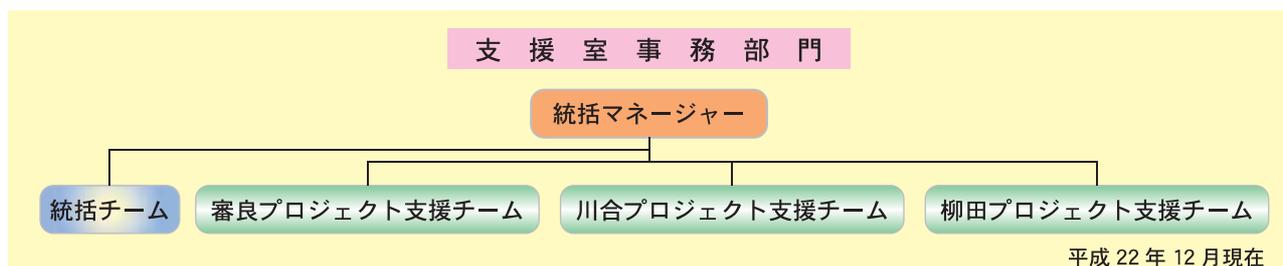
審良プロジェクト支援チーム

特任教員と事務職員の協力体制で審良プロジェクトをサポートしています

最先端研究開発支援プログラム「免疫ダイナミズムの統合的理解と免疫制御法の確立」(中心研究者：免疫学フロンティア研究センター 審良静男拠点長・教授) (以下、審良プロジェクト) の支援体制の特色は、研究支援統括者補佐と研究技術コーディネーターの教員を配置することにより、研究者の間接業務を軽減し、研究に専念できる環境を確保する体制を強化していることにあります。

具体的には、研究計画調書や報告書等の作成、研究装置の導入に伴う仕様策定・技術審査等の業務、知的財産権の申請・管理業務、公開活動の企画運営、研究内容の広報など、これまで研究者自らが携わってきた専門的知識が必要とされる業務を研究支援担当教員が担い、円滑な研究遂行を支えています。

4月以降の支援活動として、研究者等への事務説明会の開催、内閣府の最先端研究開発支援プログラムの加速・強化事業による追加資金と公開活動の申請業務（設備導入経費1.95億円と国際シンポジウム開催経費990万円の獲得）、Webサーバ



クローズアップ

の構築やホームページ (<http://akira-pj.lserp.osaka-u.ac.jp/>) の開設等に取り組んできました。

また、審良プロジェクトの研究内容や成果を一般市民にも分かりやすく解説することを目的に、研究者と市民との対話の場としてサイエンスカフェ「カフェ・オンザエッジ-先端の研究者が見ているコト・モノ-」を実施しています。第1回は「生体ライブ映像の主演『蛍光プローブ分子』の開発者が追っていること」(ゲスト:菊地和也教授)、第2回は「細胞ライブカメラが追う、まだ誰も見ていない世界」(ゲスト:石井優特任准教授)のテーマで開催し、毎回50名程度の参加者を得ました。第3回「免疫の不思議」(ゲスト:審良静男教授・黒崎知博特任准教授)は、平成23年1月18日に開催する予定です。

現在、平成23年3月1日～2日に開催する国際シンポジウムに向けて準備を進めるとともに、大阪大学創立80周年記念国際シンポジウム(5月2日～3日開催)についても共催の立場で協力しています。



第1回サイエンスカフェ(11月9日18:30～20:30開催、於:大阪市北区アートエリアB1)ゲストの菊地和也教授(右)とファシリテーターの難波美帆 早稲田大学准教授(左)



第2回サイエンスカフェ(11月16日18:30～20:30開催、於:大阪市北区アートエリアB1)オワンクラゲの蛍光について説明する石井優特任准教授(右)

川合プロジェクト支援チーム

複数の大学と民間企業からなる研究プロジェクトを支援しています

最先端研究開発支援プログラム「1分子解析技術を基盤とした革新ナノバイオデバイスの開発研究-超高速単分子DNAシーク

エンシング、超低濃度ウイルス検知、極限生体分子モニタリングの実現-」(中心研究者:産業科学研究所 川合知二特任教授)(以下、川合プロジェクト)の研究支援を担当しています。

川合プロジェクトの特色は、多数の大学と民間企業で構成されている点です。そのメンバーは、大阪大学、名古屋大学、東レ、東芝、パナソニック、特定非営利活動法人バイオチップコンソーシアム(JMAC)、物質デバイス領域共同研究拠点(北海道大学電子科学研究所・東北大学多元物質科学研究所・東京工業大学資源化学研究所・大阪大学産業科学研究所・九州大学先導物質化学研究所)です。

川合プロジェクト支援チームでは、研究者が研究に専念できる環境を提供するために、大阪大学の職員の他に(独)科学技術振興機構から、企業との調整に長じた技術マネージャーの参加を得ています。会計系、総務系業務に加え、研究者からの種々の要請に迅速・的確に対応しようと日々の様々な業務に取り組んでいます。

これまでの主な業務としては、最先端研究開発支援プログラムの強化・加速事業への追加申請(1.95億円を獲得)、公開活動事業への応募(国際シンポジウムの開催経費1,187万円を獲得)、ホームページの開設(平成22年6月)などがあります。

また、中間報告会の準備と当日運営支援(平成22年9月3日～4日 岐阜県恵那市・かんぼの宿)も行いました。

現在、国際シンポジウム(平成23年1月24日～26日 国立京都国際会館)、公開シンポジウム(平成23年2月17日 東京都江東区・パナソニックセンター東京)、2010年度末報告会(平成23年2月18日～19日 東京都港区・アジュール竹芝)、大阪大学80周年記念事業における国際シンポジウム(平成23年5月1日～2日 大阪国際会議場)の開催に向けて準備を進めています。



川合プロジェクト中間報告会(9月3日～4日、於:岐阜県伊那市・かんぼの宿)



最先端研究開発支援プログラム 川合プロジェクトホームページ <http://www.kawaisaitan.osaka-u.ac.jp/index.html>



京都国際シンポジウム (ISSMA) ホームページ
<http://www.kawaisaiten.osaka-u.ac.jp/ISSMA2011/index.html>

こうした広報の展開に必要な高性能な Web サーバーやメールマガジン発行管理システムを、情報推進部の協力によって学内ネットワーク上に設置することができました。



テンプレート化を念頭に制作された審良プロジェクトのホームページ

柳田プロジェクト支援チーム

2プロジェクトの支援をスタートしました

柳田チームでは、生命機能研究科柳田敏雄特任教授が(独)理化学研究所(理研)、(独)情報通信研究機構(NICT)それぞれと連携して実施する2つのプロジェクトの研究支援を行っています。

理研とは「生命動態システム科学」に関して共同研究を行っており、その一環として最先端研究開発戦略的強化費補助金(最先端研究基盤事業)(平成22年度～24年度)を連携して実施するため、現在、吹田市古江台にある大阪大学バイオ関連多目的研究施設の改修整備に取り組んでいます。また、同事業の予算執行や報告書作成などを生命機能研究科事務部と協力して行っています。今後3年間で同事業による約30億円をかけて設備を導入し、研究を発展させていくことになっています。同時に、連携を一層推進するために、平成24年度以降の体制を整えるべく準備を進めています。

一方、NICTとは「脳情報通信分野」において共同研究を行うこととなり、そのために本学が提供する学内の土地にNICTが実験棟を新設し、大型非侵襲脳機能計測設備等の大型設備を導入するための準備を進めています。

■ 広報支援

支援室には研究広報専従のスタッフが配置されています

「わかりやすく、届きやすい」インターネット広報の準備 学内のリソースをフル活用

支援室では、大阪大学の研究に関する情報の量を増やし、研究内容を今以上に多くの人に届けるために、タイミングよくインターネット上に格納できるようなウェブサイトの制作を支援しています。自らが情報発信できるような仕組みを備え、制作と運用の効率を高めることも重要視しています。

また研究内容をわかりやすく伝えるために、生の研究情報をベースに、例えばサイエンスカフェに向けて研究者自らが作成した説明資料や映像を加えつつ、研究のエッセンスを誰もが理解しやすい形に編集することにも取り組んでいます。こ

サイエンスカフェの企画と実行をシステム化 支援事務室にカフェ実施ノウハウを蓄積中

支援室では審良プロジェクトのサイエンスカフェを通して、カフェの企画と実行のシステム化に取り組んでいます。特任教員と事務職員が並んで仕事をしていることにより、サイエンスカフェの実施方法に研究者と事務職員双方の視点を反映できることが強みです。本稿執筆の11月末段階で、審良プロジェクトの研究者をゲストに招いたサイエンスカフェを2回開催しました。事後のアンケートを通じて、プロジェクトの有力な広報手段になり得るという感触を得ています。実施に当たっては、大阪大学内でサイエンスカフェなどの運営に関して豊富なノウハウを持つコミュニケーションデザイン・センター(CSCD)や21世紀懐徳堂の多大な協力を得ています。

今後は、サイエンスカフェで提供された話題やスライドを素材として、一般向けの「分かりやすい広報コンテンツ」の制作に着手します。また、学内の方の同様な活動の参考になるように、カフェの様子を撮影した録画データや実施マニュアルなどの情報提供も検討しています。



サイエンスカフェの実施マニュアル、アンケート用紙、質問カード

役員室だより

2010.12 Vol.39

各室の検討状況

総合計画室

学内措置による教育研究組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による教育研究組織の整備として、10月の役員会で次の事項が承認されました。

- 医学系研究科内科系臨床医学専攻の分子イメージング解析学連携分野の設置（平成22年12月1日）
- ・連携機関名 独立行政法人放射線医学総合研究所

大学留保ポストについて

平成23年度大学留保ポストの配分については、各部局等からの要望を受け、来年1月の総長・理事によるヒアリングを実施し、2月の役員会で決定する予定にしております。なお、今回から、教員に加えて教室系技術職員の要求も可能となりました。

また、大阪外国語大学との統合に伴い、関係センターに配分した大学留保ポストについて、見直しを行った結果、10月の役員会で下位ポストへ移行することを前提に配分することが承認されました。

省エネルギー対策の徹底について

大阪大学では、教育研究活動の質を低下させることなく、エネルギー消費量を削減するために、無駄の排除を中心とした対策を進めています。しかし、教育研究活動の高度化に伴いエネルギーの消費量は年々増加する傾向にあり、この夏の猛暑により4月から9月までのエネルギー需要量が昨年に比べ増加しております。各部局におかれましては、年間を通じて、より一層の省エネルギー活動に取り組んでい

ただくよう、お願いいたします。

また、これからの省エネルギー対策を徹底するためにも、各部局の担当者におかれましては、省エネチェックシートを活用した省エネ実施状況の確認を確実に行っていただき、その確認状況について本年度下半期に開催を予定している省エネ推進会議の場で報告いただくこととしています。

大阪大学バリアフリーとサインのフレームワークプラン

大阪大学では、キャンパス空間の全体像のあるべき姿や方向性を示す「大阪大学キャンパスマスタープラン」及びこの下位にあたる指針として、「大阪大学バリアフリー・サインのフレームワークプラン」を公開しています。

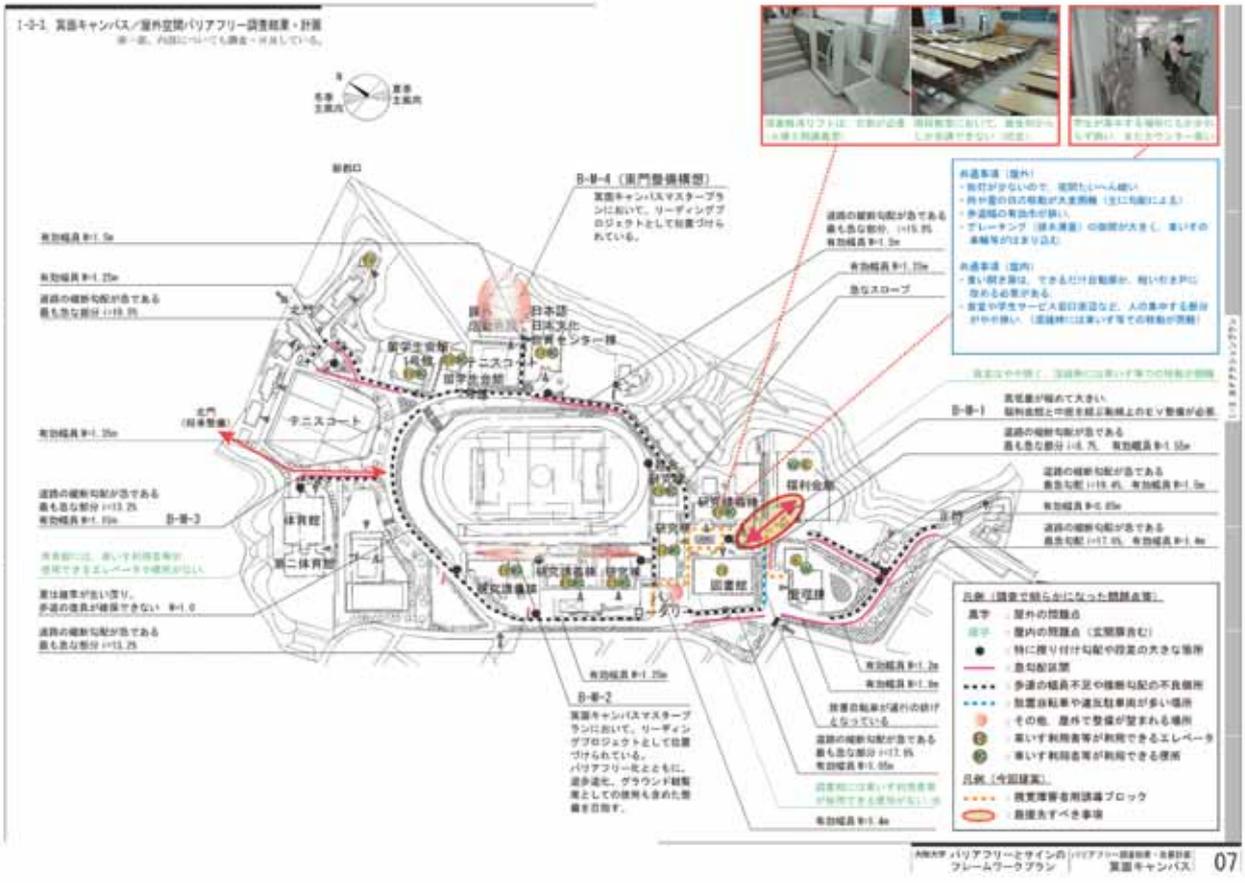
このたびの「大阪大学バリアフリー・サインのフレームワークプラン」では、吹田キャンパスと豊中キャンパスに加えて、箕面キャンパスに関する調査や計画、及び建物等の名称表示のガイドライン等についても新たに言及したものと改訂しました。

今後、本指針に基づき、全体像をイメージしながら、

個別のかつ柔軟な対応も可能とする考えのもと、高齢者や子ども、肢体・視覚・聴覚等の不自由な方々、外国人等言語的バリアをかかえる人々まで含めた多様な人々にとって、そして、徒歩・自転車・車椅子・自動車など多様な移動手段の人々にとって、安心して移動や利用のできる、わかりやすく、真に開かれたキャンパスの整備を目指します。

大阪大学ホームページにも全文を掲載しましたので、詳細は以下のURLをご参照ください。

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/committee/index.html>



教育・情報室

学部新入生を対象とする新奨学金制度の開始

大阪大学未来基金による事業の一環として、学部新入生を対象とする本学独自の新しい奨学金制度を創設し、平成23年度から開始します。この奨学金は一般入試（前期日程）合格者で、学力がとくに優れ

経済的な支援を必要としている学生に対し、入学時に必要とされる学資の一部を給付するものです。概要は以下の通りです。

大阪大学未来基金奨学金（仮称）の概要

[平成22年11月26日現在]

1. 目的	この奨学金は、学力がとくに優秀で経済的な支援を必要としている学生に対し、入学時に必要となる学資の一部を給付するものです。
2. 財源	大阪大学未来基金
3. 奨学生数	40名程度
4. 助成額	一人あたり25万円
5. 申請資格	一般入試（前期日程）合格者で、入学試験の成績がとくに優秀であり、定められた家計基準を充たすことが必要です。 合格発表後、対象となる方に申請方法をお知らせします。
6. 申請期間	平成23年3月中旬～3月下旬
7. 結果通知	平成23年4月上旬

なお本学では、平成17年度から学部2年次学生に対して「教養教育奨学金」が設定されており、教養（共通）教育において優秀な学業成績を収めた学生

約50名を全学部から選んで、一人あたり20～25万円程度の奨学金を授与し表彰しています。

大阪大学におけるダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー等の取り扱い

この度、本学におけるダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー等の取り扱いについて決めました。各研究科には既に通知をお送りしています。

阪大NOW10月号(2010/No.120)にも掲載しましたが、ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー等については、学位の質保証と大学院教育の質保証の双方の観点から慎重に対応する必要があります。

国際化の進展とともに、ダブル・ディグリー関連の制度について検討することが増加すると思われませんが、現時点においてはこの制度の標準化は進んでおらず統一性も欠いていますので、以下の取り扱い方針を参照のうえ、個別に適切に対応して下さるようお願いいたします。新しい制度の導入を検討する場合は、必ず教育・情報室にご連絡ください。

教育・情報室長(理事・副学長) 小 泉 潤 二

大学教育のグローバル化とともに、海外の大学と日本の大学の間で共同の教育プログラムが検討されるようになり、また連携して学位を授与する例が増加している。しかし、このような学位の授与の方式については国際的にも用語、定義が統一されていないのが現状であり、その質を保証する仕組みについても確立していない。そこで、大阪大学は、このような学位の授与に対して、当面以下のような取り扱い方針で対応することとする。

海外の大学と連携して教育プログラムを構築し、当該プログラムの成果をもって学位を授与しようとする際には、以下の点に留意すること。

1. 日本の現行の学位制度と整合していること。
2. 学位及び教育プログラムの質を保証するものであること。
3. 中央教育審議会大学分科会 大学教育の検討に関する作業部会 大学グローバル化検討ワーキンググループ 平成22年5月10日付の「我が国の大学と外国の大学間におけるダブル・ディグリー等、組織的・継続的な教育連携関係の構築に関するガイドライン」に準拠していること。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1294338.htm)
4. 海外との連携による学位授与を含む教育プログラムの開始に際しては、原則としてその6か月前までに教育・情報室と連絡を取り、全学的な了解を得ること。

中教審「大学院教育の実質化の検証を踏まえた更なる改善について 中間まとめ」

平成22年10月29日に、中央教育審議会大学分科会大学院部会により、「大学院教育の実質化の検証を踏まえた更なる改善について 中間まとめ」と題する報告が公表されましたのでお知らせします。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1298894.htm)

中教審は平成17年9月に「新時代の大学院教育」を発表し、「大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)と国際的な通用性、信頼性(大学院教育の質)の向上を通じ、国際的に魅力ある大学院教育を構築していくこと」を求めました。これに基づき文部科学省は、5カ年の振興計画として「大学院教育振興施策要綱」(平成18年3月)を策定し

ました。この施策要綱によって、人材養成の目的等の公表、成績評価基準の明示等を課す大学院設置基準の改正や、グローバルCOEプログラム、大学院GPなどの支援が行われてきました。

平成18年の施策要綱の策定から4年が経過したことから、平成23年度以降の大学院教育の方向性を明らかにするため、大学分科会大学院部会にワーキンググループ(人社系、理工農、医療系、専門職学位課程の各ワーキンググループ)が設置され調査と検討が行われました。標記の中教審「中間まとめ」は、本学を含め400以上の専攻に対して行われた調査や大学院教育全体の改善状況の検討について、中間報告を行ったものです。

高度教養教育の検討状況

4月に「高度教養教育準備ワーキング」を立ち上げ、高度教養教育の実現に向け検討を進めていますが、その一環として、8月に学内のアンケート調査を実施しました。

このアンケート調査は、各研究科において既に開講されている授業科目の中で、他の研究科の学生の履修が望ましいもの、可能なものを選定し、それらを高度教養教育科目として検討するために実施したものです。

今回の調査に基づき、既存開講科目の中から高度教養教育の候補を選定し、研究科の同意を得たものについて来年度から試行実施に入ります。

また、各研究科の既存開講科目以外に、高度教養教育科目として、コミュニケーションデザイン科目、全学共通教育科目、高度副プログラム開講科目の一部、及び知財関係の開講予定科目等を想定しており、関係部局と協議のうえ、開講の方策を検討して行く予定です。

学生交流学際融合教育セミナー、および学際融合教育シンポジウムの開催

平成22年10月15日(金)と16日(土)に、学際融合教育研究センターによる「学生交流学際融合教育セミナー」が開催されました。これは、大阪大学が全研究科の大学院生を対象に実施している「高度副プログラム」について、様々な研究科や学部の学生が一堂に会して語り合う機会を作ろうとしたものです。また12月3日(金)には、「学際融合教育シンポジ

ウム」が開かれました。このシンポジウムは、平成23年度から始まる「大学院副専攻プログラム」の目的や制度について考え、「副専攻教育制度」の確立を目指して企画されたものです。

詳細については、本誌の34、38ページをご参照ください。

大阪大学特別講義

10月22日(金)に吹田キャンパスのコンベンションセンター MO ホールで、大阪大学特別講義が開催されました。昨年に続いて建築家の安藤忠雄先生をお招きし、「夢に向かって走り続ける」と題してお

話しいただきました。超満員のMOホールのほか、映像が中継されたコンベンションセンター別室を含め、全学の学生など約1000人がこの特別講義に参加しました。

学内連絡バス

吹田・豊中・箕面の3つのキャンパス間の連絡を密にし、とくに異なるキャンパスでの授業への出席を容易にするため、学内の連絡バスを運行しています。

利便性を高めるため、12月1日から箕面発(吹田経由)豊中行的の臨時便を一旦追加しました。平成23年4月からは、同区間についての増便を検討しています。

附属図書館の開館時間の試行について

12月1日より豊中キャンパスの総合図書館において、授業期の平日について開館時間を20分間早め、8時40分からの開館を試行しています。参考調査と相互利用以外の全ての窓口サービスを8時40分から開始

しています。平成23年2月16日に試行を終了し、利用状況等を分析・評価するとともに、本格実施に向けて検討を進めていく予定です。

シンポジウム「ティーチングアシスタント制度とキャリア教育への展開」の開催

平成22年6月に教育・情報室の下に「TA・RAのあり方検討ワーキング」を設置し、本学のTA・RAの現状を把握し、あるべき姿や新しい制度について検討を進めている旨を本誌の6月号でお知らせしておりましたが、この度、その一環として、下記のとおりシンポジウムの開催を予定しておりますので、ご関心をお持ちの方は是非ご出席ください。

記

1. 日時：平成23年2月18日(金) 13:30～17:30(開場13:00)
2. 場所：大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館3階大会議室
3. プログラム：
 - (1) 開会の挨拶 13:30～13:40 小泉 潤二(大阪大学理事・副学長)
 - (2) 各大学報告 13:40～16:20 司会：服部 憲児(大阪大学大学教育実践センター准教授)
 - 「大阪大学におけるTA制度の現状と課題について」藤田喜久雄(大阪大学工学研究科教授、教育・情報室員)
 - 「学部学生の教育支援活動への参画について」庭崎 隆(愛媛大学教育・学生支援機構共通教育センター准教授)
 - 「TAに対する研修制度について」細川敏幸(北海道大学高等教育推進機構高等教育開発研究部教授、高等教育開発研究部門長)
 - 「筑波大学のTeaching Fellow制度とTA/TF研修会について」小笠原正明(筑波大学特任教授)
 - 「Preparing Future Faculty Program制度について」羽田貴史(東北大学高等教育開発推進センター教授、高等教育開発部長)
 各大学の報告は、現況報告20分、質疑応答10分を予定
 - (3) 全体討議 16:20～17:10
 - 司会：大阪大学 小林 傳司(大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授、教育・情報室員)
 - (4) 閉会の挨拶 17:10～17:20 小泉 潤二(大阪大学理事・副学長)
4. 懇親会 17:30～19:00 会場 銀杏会館2階レストランミネルバ

研究・産学連携室

「飛翔研究フェロー」授与式及び総長との懇談会について

10月6日(水)本部事務機構棟3階301会議室において、「飛翔30」若手プログラム」の採択者に「飛翔研究フェロー」を授与し、受賞者、鷲田総長並びに西尾理事との懇談会を実施しました。

懇談会では、西尾理事の司会により進められ、最初に受賞者から研究内容、抱負等について語られ、次に鷲田総長からは本学を代表する研究者が審査し選ばれた本学を代



表する若手研究者として、これからも自信をもって研究に取り組んで欲しいとの期待が寄せられ、和やかな雰囲気のもと懇談会が終了しました。



産学官連携・知的財産担当者等基礎研修を開催

産学連携推進本部では、10月19日(火)、21日(木)、22日(金)、11月14日(日)の4日間にわたり「産学官連携・知的財産担当者等基礎研修」を開催しました。この研修は、学内の産学官連携・知的財産関連業務に従事する教職員を対象に、業務に必要な知識の修得、実務能力の向上を目的として開催しています。

本年度の基礎研修では、学内外の講師により3日間で、「産学官連携の制度と意義」、「研究支援方策と競争的研究資金申請・獲得の実際」、「事務手続き上の留意事項」、「契約の基礎知識」、「知的財産管理」をテーマに講義・演習を実施し、4日目は修了試験として、知的財産管理技能検定3級を団体受検しました。試験結果は平成23年1月に発表される予定です。



産学官連携・知的財産担当者等基礎研修

国際産学官連携シンポジウムを平成23年3月に開催

産学連携推進本部では、平成23年3月8日(火)に、国際産学官連携シンポジウム「イノベーションを生み出すための国際産学官連携とは(仮)」を本学・中之島センターにて開催いたします。

スイスのIMD(経営開発国際研究所)の2010年国際競争力ランキングによれば、日本の総合順位は27位と、前年の17位から急低下しており、日本の国際競争力を強化するうえでも、イノベーションを生み出す源泉となるべき大学の果たす役割は重要といえます。ところが、日本の大学自身も、外国企業からの研究開発投資が少ない等の課題が指摘されています。

一方、文部科学省の産学官連携自立化促進プログラム「国際的な産学連携活動の推進」も開始後約3年を経過し、各大学の現状と課題も明確になりつつあります。

このシンポジウムでは、これらの課題を念頭に置き、「イノベーションの創出」と「国際産学官連携」をキーワードに、日本が国際競争力を高めていくためには、どうすべきかを議論します。

なお、詳細は決定次第、産学連携推進本部ホームページ(<http://www.uic.osaka-u.ac.jp/>)でご案内いたしますので、どうぞご覧ください。

評価室

21年度に係る業務の実績に関する評価結果の公表

平成21年度の業務の実績に関する評価結果が国立大学法人評価委員会から公表されました。

大阪大学では、これまで教育研究の質の向上と業務運営の改善に積極的に取り組んでまいりました。その結果、平成21年度の業務の実績に関する評価結果で、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標」に関しては、“順調に進んでいる”との評価を受けましたが、残念ながら、「その他の業務運営に関する重要目標」に関しては、“やや遅れている”との評価を受けました。第1期中期目標期間の最終年度である平成21年度の評価結果としては、厳しい評価と受け止めております。

各室・各部局におかれましては、本年度から始ま

りました第2期中期目標・中期計画の達成に向けて、各年度計画を着実に実施していただけますようどうかよろしく申し上げます。

なお、同評価結果全文については、大学のホームページに掲載されていますので、ご覧ください。

(HP アドレス http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/files_hyouka/hyoka_h21)

また、第1期中期目標期間(平成16～21年度)の評価結果(確定評価結果)につきましては、(独)大学評価・学位授与機構が行う教育研究評価の結果と併せて、平成23年3～4月頃に決定し、公表される予定となっています。

各室・各部局におかれましては、平成21年度業務実績報告書の作成にご協力いただき、ありがとうございました。

【評価結果抜粋】

1 全体評価

大阪大学は、教育・研究・社会貢献を通して国民と社会の信託に応えることにより、「地域に生き世界に伸びる」という理念の実現に向けての取組を積み重ね、業務運営、教育研究等のさらなる推進に取り組んでいる。

業務運営については、大学経営等の視点から総長が戦略的に活用できる大学留保ポストを効果的に活用している。また、教員の定年退職年齢の引き上げに当たり、経営協議会からの意見を踏まえ、早期定年退職制度の整備を行っている。この他、業務改善提案制度による事務合理化の効果が上がっている。

財務内容については、企業への技術移転、共同研究の活性化等に積極的に取り組み、特許料収入等が増加している。

自己点検・評価及び情報提供については、ウェブサイトのコンテンツの見直しやターゲットの明確化等によるリニューアルに取り組み、アクセス数が増加している。

その他業務運営については、外国人留学生や共同研究者等に対する基礎化学実験等の安全のための英語版DVDの配布、カフェを備えた学習支援スペースの活用等に取り組んでいる。

一方、医学系研究科において研究費の不正使用が行われていたことから、再発防止のための着実な取組が求められる。

教育研究等の質の向上については、教員の全学ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修の充実、学生が主体的に学ぶための「ラーニング・commons」の開設等に取り組んでいる。また、世界トップレベル研究拠点(WPI)での研究が進展し、世界的に著名な学術雑誌に論文が掲載されるなど成果が現れている。

2 項目別評価

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標	4
(2) 財務内容の改善に関する目標	4
(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	4
(4) その他業務運営に関する重要目標	2

5：特筆すべき進捗状況にある
4：順調に進んでいる
3：おおむね順調に進んでいる
2：やや遅れている
1：重大な改善事項がある

財務室

平成22年度予算補正(第2次)について

財務室において策定した平成22年度予算補正(第2次)案が、役員会において承認されました。その概要は、第1次補正後における収入見込額(収入予算額)に比して、約44億円の増収が見込まれ、当該

増収に伴い必要となる診療経費をはじめとする各事業費を追加して措置する等の補正を行ったものであります。

平成22年度 予算補正(第2次)

(単位:千円)

区 分	予算額 (1次補正後)	補正額	改予算額	備 考
収 入				
運営費交付金	49,891,496	0	49,891,496	
授業料、入学料及び検定料収入	13,344,414	47,770	13,392,184	減少傾向にあった博士後期課程の入学者に係る授業料の増等
附属病院収入	29,995,203	890,569	30,885,772	診療報酬改定に伴う増(医病 911,677) 入院患者数及び手術件数の減(歯病 21,108)
雑収入	1,088,264	38,931	1,127,195	資格試験実施に係る建物貸付の増、他機関による研究施設利用の増等
計	94,319,377	977,270	95,296,647	
寄附金収入	3,597,546	2,022,697	5,620,243	大学会館設立募金、未来基金、寄附講座の増等
産学連携等研究収入	24,922,657	1,323,598	26,246,255	受託研究費の増、科学研究費補助金に係る間接経費の増等
著作権及特許権等収入	65,387	56,694	122,081	医学、ナノテクノロジー分野に係る特許権実施料収入の増
計	28,585,590	3,402,989	31,988,579	
施設整備費補助金	7,599,199		7,599,199	
国立大学財務・経営センター施設費交付金	122,000	26,000	148,000	
長期借入金	1,419,130		1,419,130	
計	9,140,329	26,000	9,166,329	
合 計	132,045,296	4,406,259	136,451,555	
支 出				
人件費	46,773,158	880,000	45,893,158	戦略的経費等へ充当 880,000千円
役員人件費	216,058	5,703	210,355	
教員人件費	28,419,108	672,024	27,747,084	
職員人件費	14,347,561	202,273	14,145,288	
退職手当	3,790,431		3,790,431	
物件費	49,888,485	2,208,702	52,097,187	
管理運営経費	8,014,994		8,014,994	
教育研究基盤経費	6,911,301		6,911,301	
診療経費	18,407,777	890,569	19,298,346	附属病院収入より 890,569千円
事項指定経費	541,271		541,271	
個別収入対応経費	1,414,239	72,828	1,487,067	授業料等収入より 4,289千円 雑収入より 68,539千円
概算要求事項経費	10,453,198		10,453,198	
戦略的経費等	4,145,705	1,245,305	5,391,010	人件費より880,000千円 雑収入より 29,608千円 産学連携等研究収入(全学間接)より351,432千円 授業料等収入より43,481千円
計	96,661,643	1,328,702	97,990,345	
寄附金支出	3,567,546	2,022,697	5,590,243	寄附金収入より 2,022,697千円
産学連携等研究費	22,610,391	972,166	23,582,557	産学連携等研究収入より 972,166千円
著作権及特許権等経費	65,387	56,694	122,081	著作権及特許権等収入より 56,694千円
計	26,243,324	3,051,557	29,294,881	
大型特別機械整備費	150,000		150,000	
病院特別医療機械整備費	373,960		373,960	
施設整備関係経費	8,616,369	26,000	8,642,369	国立大学財務・経営センター施設費交付金より 26,000千円
計	9,140,329	26,000	9,166,329	
合 計	132,045,296	4,406,259	136,451,555	

資金運用について

資金運用ワーキング・グループでは、資金需要を考慮した適切な運用金額、運用期間及び運用形態を検討し、長期・短期の資金運用の組み合わせによる効率的な余裕資金の運用を行っております。

本年5月には、運用資金を正確に把握するため、複数の口座情報（預金残高等）を即時に把握できか

つ各口座間の資金移動が即時に行える「トータル資金移動サービス」を導入しました。

キャッシュフローに基づいた積極的な運用計画を策定し、効率的な資金運用を行った結果、11月末現在の平均運用額は前年と比較して62.1億円増加し198.97億円となっています。

平成23年度教育研究等重点推進経費及び全学強化経費の公募

平成23年度教育研究等重点推進経費及び全学強化経費の要求を、平成23年1月7日までに提出していただくよう、平成22年12月7日付で、各室及び各部署等宛てにお知らせいたしました。

今後、提出のあった要求事項について、財務室員による書類審査及びヒアリング審査を踏まえ、執行計画案を策定し、平成23年3月の役員会で審議・承認していただく予定です。

平成22年度教育研究等重点推進経費の追加公募

平成22年度教育研究等重点推進経費の追加公募については、今後の財政状況を鑑みて、将来的なコスト削減につながる事業等を対象としました。

執行計画案については、12月の役員会で審議・承認していただく予定としており、次回の役員室だよりで配分決定事項を報告いたします。



財務室員によるヒアリング風景

第1期中期目標期間において戦略的経費等で措置した事業における検証報告書について

第1期中期目標期間において戦略的経費等で措置した事業の検証結果をとりまとめ、部局長会議に報告しました。

財務室においては、本学における教育研究等活動

の更なる向上のため、この検証結果を、戦略的経費等の要求に対する採択決定の際の貴重な情報として活用していく予定です。

第1期中期目標期間に戦略的経費等で措置した事業における検証報告書

1 財務面からの検証に向けて

(1) ワーキングの設置

財務室では、平成21年度に策定した「学内予算の在り方等に関する基本方針」に基づき、本学で行われる教育研究等活動の向上のため、効果・効率的な予算配分となっているかなどについて検証し、次年度以降の予算の有効な活用を図ることを目的として、財務室の下に「財務面からの検証検討ワーキング」（以下「ワーキング」という。）を設置した。

(2) 検証方針の策定

ワーキングでは、検証における全体の方向性及び仕組みを検討することとし、その検討結果を踏まえ、管理的経費、戦略的経費等及び診療経費の検証方法について議論を重ねているが、まず第1期中期目標期間に戦略的経費等で措置した事業における検証方針を策定し、本年7月の部局長会議に報告した。

(3) 検証の目的及びその実施

第1期中期目標期間に措置した事業が本学の教育研究等活動の向上にどのように寄与したかの観点から検証を行うことにより、第2期中期目標期間における戦略的経費等の配分案の策定に資することを目的として、8月から10月初旬にかけて、「複数年度継続して実施され既に終了している事業」(16件)及び「設備を導入した事業」(75件)について、検証を行った。

2 「複数年度継続して実施され既に終了している事業」の検証について

(1) 検証の方法

以下の方法により検証を実施した。

事業計画(要求書)と執行実績(報告書)との比較により、事業全体が当初の目的を果たせたかなどを確認する。書類だけで検証することが困難な場合は、ヒアリングも併せて実施する。

(2) 検証の結果

概ね事業計画どおり実施され、初期の目的が達成されていると認められるため、戦略的に実施する事業として適切な予算措置であったと思われる。

なお、一部の事業については、当該年度及び前年度とも全く同様の内容で部局から報告書が提出されていたが、財務室として、この点についての指摘もしておらず、事後の検証という意識が希薄であった。

3 「設備を導入した事業」について

(1) 検証の方法

以下の方法により検証を実施した。

各部局等に出向いて設備の現状及び稼働(利用)状況等を確認する。

検証対象は、配分額が1,500万円を超える事業で導入した設備とするが、必要に応じてそれ以下のものについても検証を行う。(66件)

平成19年度から平成21年度にかけて、科学教育機器リノベーションセンターが実施した「リユース可能な基盤機器整備事業」は、各年度毎に、修理費が高額な上位3機種を検証する。(9件)

(2) 検証の結果

各事業計画に沿った設備が導入されているものの、様々な課題も見受けられ、今後、事業を採択する際に、十分留意をして、その判断を行う必要がある。

[利活用されている設備等の例]

- ・超高压電子顕微鏡センターでは、カメラのみを最新のものに更新する等して、20年以上前に購入された装置が現在でも活用されており、費用対効果が十分に認められる。
- ・低温センターのヘリウム液化関連設備は、全学で有効利用されており、大幅な経費削減に繋がっている。
- ・極限量子科学研究センターに導入された装置は、当初はセンター内の利用であったが、その後改良整備を施し、学内共同利用設備として活用されている。
- ・生命機能研究科では、研究科内のいくつかの設備情報をWeb化し、共同利用を促進している。

[今後の課題等]

- ・導入の必要性
インターネットテレビ会議システムが導入されているが、本学とマヒドン大学の2ヶ所間で、一月に1、2回程度の交信に限られた現状の利用では、カメラ付きパソコンでの対応も可能であったと思われ、利用計画を詳細に確認する必要があった。
- ・事業の計画性
平成18年度に病院情報管理システムの増設用機器として導入されたパソコン14台が、平成22年1月の現システムへの移行に伴い、診療科等への貸出用パソコン等に転用されていた。
導入時だけでなく、全体の利用計画を詳細に確認する必要があった。
- ・事業内容の妥当性
『免疫イメージング技術開発における生体内の免疫反応可視化のための設備』のうち、「絶対PL量子収率測定装置」と「共焦点顕微鏡用インキュベータ」については、相互の関連性が薄いのではないかと認められた。
装置一式という申請については、それぞれの装置の関連性をより詳細に確認すべきであった。
- ・費用対効果
平成16年度に放射性有機廃液焼却装置を導入したが、当時は想定できなかった実験方法の変遷により有機廃液の発生量が減少し、結果的に外部委託により焼却処理の方が安価になる可能性が出ているが、財務室としても、費用対効果の面から他の手法による処理方法の確認を行っておらず、将来的な使用頻度を可能な限り詳細に調べるなどして、その業務を行う可能性について十分な検討を行う必要があった。
- ・資産活用
情報データを保管するサーバーが分散して配置されているが、一元管理による資産の有効活用の可否についての検討が必要であった。
- ・経費の種類妥当性
附属病院に係る装置のうち、直接的に診療に関わるものについては、病院収入にて購入すべきであると考えられ、

その購入財源の検討を慎重に行うべきであった。

汎用性のある現有機器を修理し、部局間等の共同利用を目的として実施された『リユース可能な基盤機器整備事業』については、経験豊富な技術補佐員が常駐している「固体 NMR 測定装置」や「荷電粒子測定アナライザー」など、機器の維持管理及び測定補助に必要な体制が整っている場合は、機器が最大限に利用されているが、そのような体制が充実していない「電子スピン共鳴装置」や「四軸型 (CCD 検出器) 単結晶 X 線回折装置」などは、稼働率が上がらない状況となっており、サポート体制の有無を十分に確認したうえで採択する必要があった。

また、全学的な共同利用を目的として導入した「単結晶自動 X 線構造解析装置」は、整備後 2 年半に亘り当該研究室 (部局) 以外に使用実績がなく、共同利用化が図られていない状況にあった。

まず当該研究室 (部局) が共同利用に供する機器を所有していることを積極的に周知するとともに、財務室においても、共同利用可能な機器の一覧を作成し学内配布するなどして、より一層の有効利用を促す必要があった。

4 まとめ

以上のように、今回初めての試みとして検証を行ったが、「設備を導入した事業」については、課題等が多数見受けられる結果となった。

財務室としては、この検証結果を、今後の戦略的経費等における採択検討の際の貴重な情報として活用し、より効果・効率的な予算配分を目指すこととする。

以上

人事労務室

大阪大学第 4 回男女共同参画シンポジウム「大学におけるワーク・ライフ・バランスを進めるために」開催

多様な人材活用推進本部及び男女共同参画推進オフィスは、12月10日(金)、情報科学研究科 A 棟において、大阪大学第 4 回男女共同参画シンポジウム「大学におけるワーク・ライフ・バランスを進めるために」を開催しました。

当日は、本学の教職員や学生をはじめ、他大学、民間企業等の男女共同参画担当者など、100 名を超える参加がありました。

シンポジウム開催にあたり、頼本維樹本部委員 (男女共同参画推進オフィス室長) の総合司会のもと、鷲田清一総長から開会の挨拶がありました。次に、基調講演として、文部科学省からお迎えした、板東久美子生涯学習政策局長に「大学におけるワーク・ライフ・バランスの実現を目指して」と題してご講演いただきました。その後、同志社大学からお迎えした川口章政策学部教授に「データに基づく男女共同参画」と題してご講演いただきました。続いて「大阪大学における男女共同参画の取組状況」と題して、頼本委員から本学の現状報告がありました。

さらに、大阪大学研究支援員制度を利用している教員・研究員から、支援を行っている研究支援員とともに、この制度の利用状況等についての報告がありました。同制度は本年度から、新たに男性の研究者、

文系の研究者も利用できることとしたことから、利用を始めた文系の教員・研究員からも報告があり、参加者は、熱心に耳を傾けていました。

また、板東局長・川口教授にもご参加いただき、松繁寿和本部委員の司会によりパネル・ディスカッションが行われ、ワーク・ライフ・バランス実現への大学の取組みについて討論がなされました。参加者を交えた活発な質疑応答も行われ、最後に頼本委員からの挨拶により、盛況のうちに幕を閉じました。



パネル・ディスカッション (左から松繁委員、篠原委員、板東局長、川口教授、大野委員)

広報・社会学連携室

阪大スタイルをホームページに公開しました

このたび、大阪大学は、教育・研究から社会連携、大学運営まで、自他ともに認める、そして、全国の諸大学のモデルとなりうるような特色ある活動と運営のスタイル「阪大スタイル」としてまとめ、分かりやすく広く皆様にお知らせするコンテンツを公式ホームページ上に公開いたしました。

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/oumode>



「OSAKA 光のルネサンス2010」に今年も参加しました

2003年から開催されており、今年で8回目となる「OSAKA 光のルネサンス2010」に、今年も参加しま



した。本学としては、2008年の初めての参加から3回目となります。

12月11日(土)から12月25日(土)までの15日間にわたって、中之島界隈がライトアップされたり様々な催し物が開催されました。

今年も、センター東側外壁をライトアップし、大阪大学のスクールカラーやクリスマスカラーによるカラーチェンジ演出により、冬の中之島を彩りました。さらに、窓の内側にLEDをちりばめ、星屑が輝くような雰囲気も演出しました。

また、去年と同様に、1階ホールにおいて演奏会などを実施しました。

「国民との科学・技術対話」の推進について

本年6月19日に内閣府から、「「国民との科学・技術対話」の推進について(基本的取組方針)」が大学等各機関に向け発出されました。

<http://www8.cao.go.jp/cstp/output/20100619taiwa.pdf>

この方針の中では、研究活動の内容や成果を社会・国民に対してわかりやすく説明する、未来への希望を抱かせる心の通った双方向コミュニケーション活動を「国民との科学・技術対話」と位置付け、公的研究費を受けた研究者が行う「国民との科学・技術対話」について、具体例が示されたものです。

中でも、当面、1件あたり年間3千万円以上の公的研究費(競争的資金またはプロジェクト研究資金)の配分を受ける研究者等には積極的に取り組むよう

指導がなされ、大学においては、研究者等が適切に実施できるよう、支援体制の整備、地域を中心とした連携・協力体制を整備する必要性が述べられています。

本学では、21世紀懐徳堂を地域社会との連携窓口として、総合学術博物館、CSCD等アウトリーチ活動に実績のある部局等の協力も得ながら、適切に活用するべく、効果的な実施に向け検討を進めることとしています。

この検討を進める上において、前述の公的研究費の配分を受ける研究者等に対し、現状を把握するとともに今後の具体的支援に向け、活動状況等についてアンケートを実施いたします。

国際交流室

AEARU（東アジア研究型大学協会）の総会および理事会

標記の会合が10月27日(水)、28日(木)と北京の清華大学において開催されました。以前阪大NOW6月号(2010/No.118)でお知らせしたとおり、本学はAEARUの理事大学であり、本学からは総長の代理として辻 毅一郎理事・副学長と他2名が参加しました。今回は加盟17大学のうち学長9名が出席、それ以外の大学についても副学長クラスが出席し、加盟大学全てが出席するという事は珍しく、活動の活発化への期待が膨らんでいます。特に来年度の行事については、以下のように各種イベントのホスト校に多くの大学が名乗りを上げました。

Energy and Environment Workshop (国立台湾大学：ソウル大と共催)

Advanced Material Science Workshop (中国科学技術大学：香港科学技術大学と共催)

Development and Collaboration of Asian Business Schools Workshop (韓国 KAIST：香港科学技術大学と共催)

Science and Technology Parks Workshop (韓国 POSTEC)

Network Education Workshop (南京大学)

Microelectronics Workshop (韓国 KAIST：国立台湾大学と共催)

本学がホスト校を務めたことのある Student Summer Camp については、この場では決まらず、次回の理事会までに事務局に申し出ることとなりました。このサマーキャンプは学生主体の交流イベン

トとして大変評判が良く、今回は文化・スポーツのイベントを盛り込んでどうか、との意見も出ています。

AEARUは今年から年額2,000米ドルの会費を徴収するようになりましたが、加盟大学全てから既に納入され合計34,000ドルが集まったことが報告されました。この会費の使途についても審議され、2件(京都大主催：Web Technology & Computer Science Workshopへの学生(日本以外)参加費用の補助、香港科技大主催：Molecular Biology and Bio Technology Workshopにおける発表賞の賞金)の申請が認められました。

また、総会・理事会の開催に合わせてAEARU Annual Thematic Flagship Eventを開催したいとの香港科技大学学長のチャン議長より提案があり、来年12月開催予定の総会・理事会のホスト校である京都大学からの発案で「漢字文化に関するシンポジウム(詳細は未定)」を併催することとなりました。東アジアの漢字文化に関心のある方には積極的に参加していただきたいと思います。

冒頭にも書きましたが、今回はAEARUというコンソーシアムをベースに、参加大学からは、東アジアの文化・高等教育・科学技術を世界に発信しようという意欲が強く感じられました。今後本学がこのコンソーシアムの活動にさらに積極的に関与し、東アジアの学术交流・相互理解の進展に寄与してゆくことを期待しています。

第2回日英学長会議

標記の会合が11月18日(木)から19日(金)にかけて九州大学医学部百年講堂で開催されました。本学からは辻 毅一郎理事・副学長と亀岡 雄国際部長が出席しました。今回のテーマは「高等教育の国際化」で出席者総数は92名(うち英国から24名)でした。開会にあたり、JACUIE(国公立大学団体国際交流担当委員長協議会)を代表して有川節夫九州大学総長をはじめ小野元之日本学術振興会理事長、British Council代表及び加藤重治文部科学省大臣官房審議官より挨拶がありました。

木村 猛前大学評価・学位授与機構長の基調講演では、国際化は高等教育の本質である多様性の実現に不可欠であり、産業界からも世界的に通用する人材養成が求められているのに、我が国政府の支援は

将来的にもおぼつかないという悲観的観測が述べられました。

また、サザンプトン大学学長の基調講演では、大学の国際化は英国でも求められているが、一方政府の緊縮財政により、大学の教育経費に対する政府の補助金が削減され、ほんの10数年前まではほとんど無償であった学生の授業料が短期間のうちに引き上げられ、貸与にもとづく全学学生負担制に移行しようとしている状況について説明があり、このことが大学教育の質に与える懸念が示されました。

引き続き分科会が開かれ、本学の参加した分科会では、「大学の国際化とは何か」というテーマで議論が行われました。清家 篤慶応義塾大学塾長は、帰国子女など英語に堪能な学生を獲得するグローバ

ルな競争が起きており、日本の大学は英語で教育するコースを増やすだけでなく大学内の支援体制も英語で対応できるように改善をする必要がある、また気候温暖化などグローバルな課題に取り組むためにも多様なバックグラウンドを持つ人々と一緒に働ける人材の育成が必要であると述べ、グローバル30事業の意義を強調されました。一方、英国側からは、学生交流の促進方策に関連して、制度的な単位互換は英国内でも機能していないので国レベルでの質の

保証は困難であり、大学の部局レベルでの相互信頼に基づく交流が重要であるとの意見が出されました。最近では日本の大学と提携する英国の大学が増え、共通理解が深まったためか、共通の関心を呼ぶ議論が多かったようです。

このような2国間の学長会議はこの2、3年の間に、日中、日越、日仏、日独など活発に行われています。本学としてもこうしたいわゆる外交に積極的に参加して人的ネットワークの形成に努めてゆく方針です。

Transferrable Skills ワークショップ

標記のワークショップが11月29日(月)に、先端科学イノベーションセンターにて開催されました。講師は英国エディンバラ大学のジョン・ターナー氏、参加者は本学の博士課程在学学生、ポスドクなど24名、その他学内の教職員、プリティッシュ・カウンシル(BC)の職員および学外からの参観者など10名程度が参加しました。このイベントはBCから本学への提案を受け、産学連携本部イノベーション創出部(CLIC)が実務を担当して開催されたものです。加えて、本学の教育・情報室、国際交流室、大学教育実践センター、国際教育交流センター、コミュニケーションデザインセンターの共催を得ました。

Transferable Skills (TS) とは専門家が専門以外の人々への専門技術等の移転を如何に行うか、言い換えるといかに専門の枠をこえたコミュニケーションを行うか、の能力の総称と考えられます。このワークショップではまずTSとは何かの解説から始まり、

その後、mind mapping、drilling down、risk management といった作業を実際に行うという形でTSへの理解を深めました。ターナー氏は、イギリスでもTS養成の専門家として高名で、教材、助言の各面にわたり練達した指導をされました。博士後期課程の修了者が専門的知識に過度に特化してしまい、周りとのコミュニケーションがとりにくくなるとの指摘がある中、その状況を打開するため、高等教育におけるTSあるいは汎用的スキル generic skills の重要性はいよいよ高まっていると言えます。今回は、ターナー氏の来日を機会に設定された、いわば単発のイベントでしたが、参加者の反応は大変好評で、また、参観した教職員にとっても大変有意義であったので、これを契機に、特に高度教養教育の展開に沿って、何らかの形でこの方面への取組を定着させて行くことが望まれます。

Workshop: Effective Teaching and Supervision to International Students

標記のワークショップが、国際企画推進本部と国際教育交流センターサポートオフィスの共催で12月21日(火)に開催されることになりました。大学のグローバル化にともない、多様な文化背景を持つ学生が、自由に学び、豊かな成長を遂げることができる環境作りが必要となっています。このワークショップでは、日本人学生とは異なる特性を持つ外国人留学生の学業的・研究的パフォーマンスを促進する指導、ウェルビーイングの向上に必要な支援、良好な教員-学生関係の構築の実現の方法などについて、本学教員が継続的に話し合うきっかけを作ることを目的としています。荻原哲学理学研究科教授の挨拶に続き、3

名による話題提供とラウンドテーブルディスカッションが予定されています。

- ・ Kihō TANAKA (国際教育交流センター)
“ Student Counseling to Encourage Independence ”
- ・ Ehssan SAKHAEI (情報科学研究科)
“ Learning Thorough Mutual Mentoring ”
- ・ Kiyoshi HIGASHIJIMA (理学研究科)
“ 国際化の中での教員の新しいまなび ”

今後このような活動を継続し、留学生のかかえる問題についての理解を深め、彼らの高いレベルでの目標達成が可能となる大学環境を整えることが望まれます。



創立 80 周年記念事業

原点へ 未来へ

大阪大学は 2011 年に創立 80 周年を迎えます



イ号館改修工事の仮囲いへシートを設置しました。

このたび、創立 80 周年記念事業委員会では、豊中キャンパスにあります「大阪大学会館」へ改修中のイ号館改修工事現場の仮囲いに、大阪大学の略年表と 80 周年記念のロゴマーク、及び改修後の予想図を印刷したシートをデザインし、設置しました。

未だご覧になっていない方は、近くを通られた際にはぜひご注目ください。



バナーの設置箇所をさらに増やしました。

80 周年記念のバナーについては、すでに昨年度から各キャンパス内に設置しており、「赤・青・黄色」のバナーを目にされたことがあるかと思いますが、さらに大学全体で 80 周年の気運を盛り立てていた

きたいと、豊中キャンパスの多くの教職員・学生等が通行する道路からよく見える場所等に追加設置いたしました。



総合図書館正面玄関から見えるバナー



大学教育実践センターパラソル下のバナー



サイバーメディアセンターの窓ガラス越しに見えるバナー

創立 80 周年記念事業パンフレットを配布しました

教職員の皆さまに、11 月上旬創立 80 周年記念事業パンフレットを配布いたしました。お手元に届きましたでしょうか。

同封のシールシートについては、名刺、職員証、ご利用の文房具、車両入構証等に貼っていただき、大学全体で創立 80 周年をアピールし、各々が 80 周年を意識していただくきっかけになればと作成いたしました。ぜひご活用ください。

またパンフレットの英語版も大学ホームページに掲載いたしました。

さらに、第 2 弾として、創立 80 周年記念のイベントを詳しく紹介するプログラムも現在作成中です。

同封のご寄付の申込についても随時受付中ですので、何とぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

春日丘ハウス

施設部企画課



平成22年6月1日より、外国人研究者や学内の共同利用研究員・附属病院利用者のニーズをカバーすることを目的とした全学的な研究者宿泊施設として供用を開始しました。

約半年経った現在、利用者からの声も聞きつつ部局単位への年間貸出、ウィークリー利用の開始、利用者の制限の緩和など、フレキシブルな対応により開館当初に比べ稼働率も上昇してきました。

利用者からも沢山のありがたいお言葉をいただき、これからも、サービスを落とさず利用しやすい環境を整えつつ運営していきたいと考えております。

宿泊者の声

外国人研究者

英語対応が可能な管理人さんに満足です

私は、研究のため何度か来日したことがありますが、大阪大学でお世話になるのは今回が初めてです。日本の研究者の研究に対する熱意と、人材の豊富さにはいつも驚かされます。

私は母国で研究している際には問題なかったのですが、日本に来て間もないころ、他の日本人研究者のように没頭できないことがありました。当時私の研究を手伝ってもらっていた日本人研究者に私の抱えていた問題を話したところ、私を悩ませていたものが分かりました。

例えば、以前日本に滞在中、夜遅くに研究を終えた私は頭痛を抱えて帰宅したことがありました。痛み止めを買いに行きたかったのですが、周りにどこで買うことができるか訊く人がいませんでした。また別の日には夜遅くまで営業しているレストランを探そうにも人に訊けないということがありました。日本語を習熟していない外国人研究者がいろいろな場面で、このように不安になるのは私だけではないと思っています。

今回大阪大学での研究が決まったとき帰国していた私は、宿泊施設を探していました。以前の経験から大学内だけではなく帰宅後も安心できる何かが必要だと感じていたとき、「春日丘ハウス」の情報を得ました。セキュリティは万全で家具や食器などが揃っており、すぐに生活ができる部屋を提供してくれるという説明があり、ホームページ

を見る限り素晴らしい施設だと思いました。何よりも、24時間管理人が常駐していて英語対応が可能というのが気に入りました。家賃が少々高いように感じたのですが、管理人の対応・サービス・部屋を考慮すれば、妥当な値段かなと思いました。

海外からの研究者はフライト時間によっては深夜に到着することもあります。今回の私の場合も夜遅くのチェックインではありましたが、管理人の方には笑顔で対応していただき、さらには各家電や



キッチン使用方法まで丁寧に説明していただきました。様々な説明書が英文でも用意されていたことには驚きました。また、後日家電製品の使用方法がわからず同じ質問をしても、とても親切に対応してくれました。

今まで私が宿泊した施設は大学事情に宿泊者が合わせていましたが、「春日丘ハウス」は宿泊者の事情に大学が合わせてくれる宿泊施設だといえると思います。困ったことがあれば、いつでも近くに頼れる管理人がいて、早朝や深夜のように時間帯に関係なくチェックイン・チェックアウトができるので、フライト時間を気にせずに予定を組めるのは非常にありがたいことです。中庭で子供たちが遊んでいるのを見かけたことがあります。その芝生の手入れもできており、景観にも気を配っていると感じました。

大阪大学は日本を代表する大学の1つです。世界のトップレベルの研究を推進させる大学において、春日丘ハウス

は海外から優秀な人材を招くにふさわしいサービスと環境が整った宿泊施設だと思います。日本における国際化の拠点として発展していくことを願っています。

(Bタイプ利用、男性)

患者家族

24時間対応の管理人さんのおかげで安心して過ごせました

心臓疾患を抱えた子供が阪大病院に入院しているのですが、「春日丘ハウス」ができるまでは近隣のホテルに宿泊をしていて長期間滞在すると経済的にも負担が大きく、病院との距離もあることから心身ともに疲れ果てていました。今は、長期間滞在しても以前より負担が軽くなり歩いて5分ほどの距離にあるので、夜中でもすぐに病院に駆けつけられ安心して過ごせるようになりました。一番良かったと感じられたのは、管理人の方が24時間常駐してくれていますので、昼夜問わずトラブルに対応していただけたことです。



中庭を眺めてはいつも思っているのですが、芝生や植木

が綺麗に手入れされていて心が和みます。毎日、水まきや草取りをされていて大変苦労されているなど感じました。夜の巡回もされているようで、住む者としては安心ですが、「一体、いつ休んでいるのかな？」と考えたりします。部屋も綺麗で食事に必要な物まで揃っているので、快適に過ごせる宿泊施設を造ってくださった大学の方々に感謝します。

(Aタイプ利用、女性)

アンケートの声

経営改善のため、ご利用の方々にアンケートに御協力いただきました。なお、アンケート結果はご利用の方々がより快適に過ごせるよう役立てていく予定です。

100人以上の方から色々な声がありました。その中で多かったのが以下のことでした。

- ・管理人の対応が親切・丁寧で親しみやすかった。
- ・英語対応してくれるので安心した。
- ・24時間管理人がいるので利用しやすい。
- ・駐車場をつくってほしい。
- ・料金を安くしてほしい。

その他の声も一部紹介します。

- ・長期施設の各部屋に炊飯器がほしい。
- ・市内への交通機関や買い物する場所を教えていただき、時間を有意義に使えた。
- ・大学・病院に近いので助かる。
- ・短期施設の食事室に、調理器具がほしい。
- ・部屋や廊下も綺麗に掃除してある。
- ・滞在に必要な備品も揃っていて過ごしやすい。
- ・夜中に子供が熱を出したときに、救急車をよんでくれた。管理人がいてくれて助かりました。

管理人からのメッセージ



【中島英治リーダー】
宿泊者が心地よい安らぎを得られるよう楽しんで仕事しています



【小坂洋二】
居心地の良い宿泊・居住を提供できるように、ハード・ソフト両面から皆様を支援したく思っています



【坂下和修】
[改善][カイゼン]により、業務効率を高め、少しでも皆様のお役に立ちたいと思っています



【池末章】
皆様の快適なご滞在のためにベストを尽くします

平成23年4月以降の長期利用(1か月以上)空室状況

Aタイプ(32㎡)	7室
Bタイプ(家具有り)(65㎡)	7室
Bタイプ(家具無し)(65㎡)	2室
Cタイプ(97㎡)	4室

部屋タイプの詳細(間取等)は68ページ参照

お早めにお申込み下さい。

お問い合わせ

春日丘ハウス管理人室

茨木市南春日丘 7-12-17

TEL 072-626-6228 FAX 072-627-1337

大阪大学本部事務機構 施設部企画課 春日丘ハウス担当

TEL 06-6879-7948 FAX 06-6879-7139

【E-mail】kasugaoka-house@ml.office.osaka-u.ac.jp

【URL】http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/facilities/BandB/kasugaoka_house

「海外夏期研修」実施

工学研究科国際交流室留学生相談部は、海外夏期研修として学部学生、大学院生の英語力や科学技術のプレゼンテーション能力を高める海外夏期研修を、サンフランシスコ教育研究センターおよび基礎工学研究科国際交流委員会の協力を得て、8月から9月にかけて実施しました。この研修は約1か月間の“理工系学生”のためにカスタマイズした研修プログラムであり、この研修を実施することで英語でのプレゼンテーション及びコミュニケーション能力を高め、国際性を身につけるトレーニングを行う事ができました。本年度は、大学院博士前期課程の学生中心のプログラム（米国カリフォルニア大学デービス校で実施）や博士



米国研修（Hewlett-Packard 社訪問：
久保井サンフランシスコ研究教育センター長と共に）



豪州研修（クラスの様子）

後期課程の学生中心のプログラム（米国ワシントン大学で実施）だけでなく、学部学生向けの豪州研修プログラム（豪州モナシュ大学で実施）のコースも開設しました。海外へ出発する前は様々な不安を抱えていた学部生・大学院生が、英語力に自信をつけ、海外生活を堪能して帰国するなど、有意義な研修となりました。詳細は下記の URL をご参照ください。なお、海外夏期研修は工学研究科の GCOE および大阪大学学生海外研修プログラム等助成の支援を頂き運営されています。

http://english.fsao.eng.osaka-u.ac.jp/summer_prog/usprog2010.html（米国研修）

http://english.fsao.eng.osaka-u.ac.jp/summer_prog/ozprog2010.html（豪州研修）

（工学研究科・工学部）

高知県佐川町の小学校で出前授業を実施

工学研究科では9月6日(月)～8日(水)の日程で、連携協定を締結している高知県佐川町の小学校で出前授業を実施しました。

出前授業は「理科・科学を好きになってもらう」ことを目的に、工学研究科の久保 等技術専門職員が佐川町の4つの小学校の5年生 103 名を対象に、「コイルと磁石の不思議」という電磁気をテーマにした授業を行いました。授業の中ではコイルを使って黒板やテーブルから音を出す実



験や、モーターを回転させて電気を発生させる実験を実施しました。

授業を受講した子供達からは「普段の授業ではないことを教えてもらってとても勉強になった。」「家で家族と一緒にやってみたい。」「実験のことが好きになりました。」等の感想が寄せられ、近年問題となっている子どもの学習意欲の向上や、「理科離れ」問題の縮小に効果的な取り組みとなりました。



（工学研究科・工学部）

北京大学 - 大阪大学学術交流デー開催

本学と大学間学術交流協定を結んでいる北京大学との交流活動の一環として、初の試みである「北京大学 - 大阪大学学術交流デー」が、去る9月20日(月)に北京大学で開催されました。

本学と北京大学との交流は、1987年に蛋白質研究所が北京大学物理化学研究所と部局間の学術交流協定を締結したことによって始まり、2001年には大学間の協定を締結するに至りました。これまで、文系、理系を問わず多くの学問分野において、交流の実績が積み重ねられてきたことから、この機に、初となる学術交流デーを開催する運びとなったもので、本学からは、辻毅一郎理事・副学長、西尾章治郎理事・副学長を始めとする40名の教職員・学生が参加しました。

午前中の全体会合では、Yan Jun 北京大学国際合作部副



部長の開会挨拶に続いて、辻毅一郎理事・副学長から挨拶及び大学紹介、西尾章治郎理事・副学長から研究活動紹介が行われ、



続いて、本学両理事・副学長と北京大学 Li Yangsong 副学長との会談や北京大学の施設見学が行われました。

午後からは、「物理」「生物」「化学」「情報・電子」「中国語」「社会科学」「経済」「法学」「医学」の9分野に分かれてセミナーを行い、各々の専門分野での研究交流を深めました。

これを機に、双方の多くの研究者に、互いの研究活動に対する興味を持っていただき、両大学間での学術交流が、今後ますます促進されることを願うものです。

(国際部学生交流推進課)

平成22年度 大阪大学係長研修(新任)実施

平成22年度大阪大学係長研修(新任)が、9月28日(火)から30日(木)までの3日間にわたりコンベンションセンターで行われました。

本研修は、本学または出向先機関において新たに係長及び係長相当職になった者39名を対象として、「その職務遂行に必要な基本的・一般的知識を習得させるとともに、監督者としての能力及び識見を確立させ、大学行政の管理運営の重要な担い手として職員の資質の向上を図る」ことを目的として、実施されたものです。

開講式では、尾山眞之助理事・副学長から、常に自己研



開講式(尾山理事・副学長挨拶)

鑽に励み、果敢なチャレンジ精神を持って、主体的に業務に取り組んでいただきたいなど、激励の言葉がありました。その後、専門講師による講義・演習により研修が進められました。

受講生は普段



集合写真

と異なる雰囲気の中、講義、演習を通して、部下の指導方法、業務改善、リスク管理や交渉・調整力などについて学び、係長に求められる役割について認識を深めました。また、グループワークにおいては、討議や発表などを通じて活発な意見交換が行われました。

受講生全員が意欲的に課題に取り組み、所定の課程を修了しました。

(総務部人事課)

薬学部 新入生合宿研修

薬学部新入生合宿研修が、9月29日(水)、30日(木)の日程で、京都市右京区京北にある京都府立ゼミナルハウスで新入生88名、教職員19名が参加して実施されました。

これは、専門教育の授業が始まる1年次2学期の開始直前に、薬学部の現状と将来に対する認識の再確認とともに、学生と教職員の親睦を深めることを目的として行っているものです。

1日目は、島本町にあるサントリーの健康科学研究所を見学した後、ゼミナルハウスに会場を移しました。ここでは、初めに小林学部長から「大阪大学薬学部の目指すもの」と題し講話がありました。

夕食は野外テントでバーベキューを行い、京都の奥座敷と形容される素晴らしい自然の中、肉や野菜に舌鼓をうちながら、にぎやかに交流を深めました。

その後、中山准教授による海外留学経験談の講演があり、学生は真剣な様子で聞き入っていました。

2日目は、八木学務会議議長から履修に関する説明の後、



少人数のグループで分科会を行い、学生と教員が学生生活や薬学の未来などについて、自由なテーマで話し合いました。

このように、盛りだくさんな日程でしたが、実りある研修となりました。

(薬学研究科・薬学部)

「科学研究費補助金説明会」を開催

科学研究費補助金の申請件数の拡大及び採択率の向上を図るため、応募予定者及び事務担当職員を対象とした科学研究費補助金説明会を、去る9月21日(火)に豊中キャンパス、9月27日(月)に箕面キャンパス、9月28日(火)に吹田キャンパスにおいて開催し、約260名の研究者や事務担当者が参加しました。

説明会は、科学研究費補助金の相談員に登録している先生方が講師となりました。豊中地区は浜渦辰二



文学研究科教授及び荒木勉基礎工学研究科教授、箕面地区では森茂男言語文化研究科教授、吹田地区は畑澤順医学系研究科教授及び日比孝之情報科学研究科教授がそれぞれ講演し、科学研究費補助金制度の現状説明や審査体制、審査でポイントとなる点、研究計画調書を作成する上でのアドバイス等について詳細な説明が行われました。吹田地区及び豊中地区においては、より多面的に審査の傾向や対策等の情報に触れることができるように分野の異なる2名の教授に講演していただきました。また、研究推進課からは本学における応募手続きの流れや、今年度の研究計画調書記入要領を説明しました。

このほか、不正使用防止計画推進室から科学研究費補助金の不正使用にかかる説明があり、不正使用防止に対する意識向上を図りました。特に不正使用をした場合の措置等については、具体的に罰則を示し注意を促しました。

説明会後のアンケートでは、「科研費の内容、書き方の両方に関する話が聞けてよかった」、「講師が複数なので説明が理解しやすかった」、「貴重なノウハウを開示され実践的でしたらよかった」などの声が寄せられました。

(研究推進部研究推進課)

文学研究科 科学研究費補助金申請書作成セミナー開催

文学研究科では本研究科研究推進室主催で『平成23年度科学研究費補助金申請書作成セミナー』を9月30日(木)に開催しました。

本研究科では毎年、科研費をはじめとする外部資金の申請に関わるセミナーを複数回開いています。本年3月に開催した大学院生や若手研究者を対象とした申請書作成セミナーには非常に多数の参加がありました。今回は、研究計



浜渦教授とその説明に聞き入る参加者

画調書の作成にある程度慣れている中堅以上の教員を主な対象とし、研究計画調書をよりよいものとし、また、大型種目への応募の関心を高めることを目的としたセミナーを企画しました。

セミナーでは、まず日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員を務めている浜渦辰二教授より、科研費の制度や審査方法に関する紹介と、自分の研究計画を審査員に対してアピールするうえでの注意点などに関する説明が行われました。次に荒川正晴教授から、今年度基盤研究(A)(海外学術調査)を獲得した経験と科研費審査員としての経験に基づき、種目や応募分野の選び方、研究計画調書の書き方などについて具体的に詳細な助言が行われました。

その後、事務スタッフから科研費制度の変更点や例年質問や間違いの多い点について配付資料に基づく説明があり、最後に質疑応答を行いました。

セミナー後、非常に参考になったという意見が多数寄せられました。実際、今年度は大型種目への応募件数も大きく増え、その面で教員の意識を高める効果もあったものと思われま

(文学研究科・文学部)

文学研究科・大学院 進学ガイダンスを実施

文学研究科では、この夏(7月29日(木))初めての試みとして阪大生を対象とした「大学院進学ガイダンス」を実施しました。今回のガイダンスでは、主に文学部在学中の2~4回生を対象とし、修士課程・博士前期課程修了後の進路のさまざまな可能性を具体的に提示することで、大学院での修学の意義と実際を伝えることを目的としました。

当日は、教育支援室長の三谷研爾教授が司会進行を務め、同副室長の飯塚一幸教授による文学研究科・大学院修了後の進路データについての具体的な説明の後、修了生4人による大学院進学と現在の仕事の実体験についてのトークが続きました。4人の元院生は、それぞれ、企業や高等学校教員、公務員として就職したり、博士後期課程に進むなど、職種や進路も多様で、トークはバラエティに富んだ内容となりました。

当日実施したアンケート調査によれば、大学院修了後の進路についてほとんど見えていなかった在生たちにとって、修了生4人の話はリアリティに富み視野を広げたよう



修了生の話に熱心に聴く参加者

です。参加者の数も予想より多く、教職員にとっても今後の課題を明確にする一歩となりました。

(文学研究科・文学部)

文学研究科 多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム実施

文学研究科では、独立行政法人日本学術振興会の「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」による支援を得て、平成21年度から多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラムを実施しています。

独立行政法人日本学術振興会の標記プログラムは、若手研究者を対象に、海外の研究機関や研究対象地域において研究を行う機会を組織的に提供する事業に対して、助成されるものです。文学研究科では、異文化が混在し多元化する現代世界において、真に国際的視野を有する若手研究者の育成を目的とした、多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム（OVCプログラム）を展開し、3年間で述べ143名の海外派遣を予定しております。

OVCプログラムでは、世界的な調査研究機関の視察・利用方法の教授・調査研究の実践をさせる「横断的研究視察」、海外の大学等と共同でワークショップ・インターンシップ・フィールドワークなどを実施する「共同プロジェ



アメリカ議会図書館にて



大英図書館にて

クト」、海外研究機関等における研究・資料調査や国際学会での発表など個々の専門的研究課題の追求を支援する「個人リサーチ」を展開しています。

今年度の横断的研究視察では、アメリカ（アメリカ議会図書館・国立公文書館等）とイギリス（大英図書館、国立公文書館等）にそれぞれ5名ずつ派遣しました。参加者は渡航前からミーティングを重ねるなど入念な準備の上、渡航しました。渡航中は予定通りまたはそれ以上に研究を進めることができた者、渡航前の計画通りに進まなかった者等ありましたが、参加者からは「旅費の負担を考えずに海外へ研究に行けるのがよい」「また行きたい」との声が寄せられました。今後研究者としての経験を重ねていく中でひとつの重要なステップになったのではないかと思います。文学研究科では今後も、若手研究者に対する海外研究の支援を継続していきたいと考えています。

（文学研究科・文学部）

工学研究科・工学部がラジオ番組を開始

工学研究科・工学部は、その魅力をアピールするため昨年度に引き続き、10月から来年3月までの半年間、高校生、受験生及び保護者を対象に、朝日放送ラジオ（1008kHz）にてラジオ番組「どんなんかな？ 阪大工学部」を開始しました。

番組の内容は、工学研究科・工学部の教員による研究紹介のコーナーや、在学生等が現在の活躍分野や将来の夢を語るコーナー、研究室の生の声をお届けする突撃取材コーナー、教員らがリスナーの疑問に答えるコーナーなど、工学系学部への興味を引くものとなっており、工学系学部の志願者の増加につながることを期待しています。

初回の収録では、馬場章夫工学研究科長が出演し、「阪大工学部が求めている人材」について、「頑張れる人を求めています。大阪大学では、その気になって周りを見れば、色々な学問・研究・遊びがあります。経済的なサポ



収録中の馬場研究科長（右）

ートも色々あります。頑張る気持ちがあれば、必ず道は開けます。」と受験生へ熱く語りかけていました。

（工学研究科・工学部）

基礎工学部・基礎工学研究科 安全之碑除幕式

基礎工学部・基礎工学研究科では、10月2日(土)、関係者が出席して安全之碑の除幕式が行われました。

同碑は、平成3年に基礎工学部構内で起きた実験中のガス爆発事故を風化させず、また、同事故を通じて学んだ安全に対する意識を持ち続け、さらに向上させることを目的として、基礎工学部本館を望むことができる、国際棟(シグマホール)前の待兼池庭園の中腹に建立されました。



基礎工学部・基礎工学研究科では、今後も、安全の取組みについて、より一層の努力を行い、安全に対する意識徹底を図ることを目標としています。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

韓国安全協会視察団が本学を訪問

本学の安全管理の視察のため、10月4日(月)に韓国安全協会視察団約20名が本学を訪問しました。韓国安全協会は現代(ヒュンダイ)自動車をはじめとする韓国の大企業が加盟する団体です。当日は環境安全研究管理センターの廃液処理施設を案内後、医学部銀杏会館において安全衛生管理部の山本教授から本学の安全管理体制、安全教育、定期巡視システム等について概要を説明しました。

韓国安全協会の来校は今回が初めてですが、安全衛生管理部とソウル大学環境安全院では平成20年4月に安全管理に関する国際交流協定を締結しており、両大学間では緊密な連携協力体制を構築しています。安全衛生管理部では、今後とも国内外の研究機関等とも連携を深めつつ、快適で安全な教育研究環境の実現に向けて努力してまいります。



(安全衛生管理部)

平成22年度(第2回) 大阪大学新入職員研修実施

平成22年度(第2回)新入職員研修が、10月6日(水)から8日(金)までの3日間にわたり本部事務機構棟、コンベンションセンター及び中之島センター等において行われました。

この研修は、新入職員74名を対象として、「職員としての自覚と意識の確立を図り、新入職員として必要な基礎的知識・技能を身につけ、職場への適応力を養う」ことを目的として実施されたものです。

開講式では、鷲田清一総長から、法人化後の大阪大学に求められることについての話を交えながら、本学職員としての職務を認識するとともにスキルアップに努めていただきたい旨、激励の言葉がありました。その後、高杉英一理事・副学長から「大阪大学の歴史」の講義が、西田正吾理事・副学長から「法人化後の大阪大学の仕組みとめざす方向性について」の講義が行われ、午後からは、レーザーエ



開校式(鷲田総長挨拶) 本部事務機構棟401会議室にて

ネルギー学研究センターと総合学術博物館の施設見学が行われました。

2日目は、専門講師から「組織人として求められること」、「職場でのコミュニケーションの重要性」等について講義・演習が行われました。

3日目は、適塾と懐徳堂旧址の碑を見学し、その後、中之島センターに会場を移動して、中之島センターの概要の説明を受け、午後からは、綿谷茂一人事課長から「服務規律について」の講義が、辻毅一郎理事・副学長から「大阪大学の国際化について」についての講義が、尾山真之助理事・副学長から「大阪大学職員に求められること」の講義が行われました。

閉講式では、尾山真之助理事・副学長から修了証書授与の後、この研修で学んだことを実際の業務を行う際に活用いただくとともに、大阪大学のために活躍いただきたい旨、激励の言葉がありました。

この研修を通じて受講者は、お互いに親睦を深め合うなど有意義な時間を共有するとともに、3日間の研修を全員、無事修了しました。

(総務部人事課)



専門講師による演習
コンベンションセンターにて

平成22年度 工学研究科博士前期・後期課程10月入学式挙行

平成22年度工学研究科博士前期・後期課程10月入学式が、10月6日(水)に、医学部銀杏会館内阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて挙行されました。

当日は、文部科学省の「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム(前期課程、後期課程)」に入学した外国人留学生と、後期課程10月新入生が出席しました。

式は、馬場章夫研究科長、副研究科長並びに各専攻長等の出席のもと、掛下知行教育研究評議員(教務委員長)の司会により、すべて英語を使用して進められました。初めに、馬場研究科長から新入生歓迎の式辞が述べられた後、博士前期課程21名、博士後期課程55名の入学生全員の紹介がありました。その後、入学生を代表して、博士後期課程機械工学専攻のLee,SU-JINさんが代表挨拶を行い、10月入学式を閉会しました。



Lee,SU-JINさんによる入学生代表挨拶

(工学研究科・工学部)

豊中市に「ワニ博士」が親善大使として着任

大学教育実践センターのロゴマークにある「ワニ博士」は当センターの出版物や掲示物等に利用されてきましたが、最近はぬいぐるみとしても活躍しており、携帯ストラップをお見かけされた方も多いかと思えます。



そんな「ワニ博士」が、豊中市長の目にも留まりました。豊中市では、これまで独自のマチカネワニのキャラクターを使って広報などを行ってきたこともあり、大学教育実践センターで作成されたキャラクターにも強い関心を持たれています。

そこで「大阪大学と豊中市との連携協力に関する包括協定書」における知的・物的資源の相互活用の一環として、「ワニ博士」のぬいぐるみが10月7日(木)、工藤センター長



から武井副市長に親善大使として贈呈されました。現在、「ワニ博士」は市長応接室で執務しております。

(大学教育実践センター)

台湾行政院国家科学委員会(科学技術省相当)副大臣一行が蛋白質研究所を視察

台湾行政院国家科学委員会(科学技術省相当)張文昌副大臣一行が、去る10月13日(水)に表敬訪問・懇談等を兼ねて蛋白質研究所を訪問されました。

今回の訪問は、副大臣が、蛋白質研究所で行われている研究に大変興味をもっておられることから、科学技術振興機構(JST)の紹介により実現しました。

蛋白質研究所と台湾の大学・研究機関では、今までに共同研究や学生交流等の具体的な実績が積み上がっており、これに対する感謝の意が副大臣より表明されました。

関口教授による細胞外マトリックス及び再生医療のための細胞培養(特にES/iPS細胞や組織幹細胞の培養)に有



副大臣一行との記念撮影

用な培養基材の開発について説明が行われた後、副大臣から免疫組織化学画像データベースの紹介があり、研究交流に対する今後の取り組みについて活発な意見交換がおこなわれました。引き続き、長谷俊治所長から研究組織・内容や施設の概要説明が行われた後、一行は超電導核磁気共鳴実験棟を視察されました。

この視察には、副大臣のほか台北駐日経済文化代表処科学技術部課長の鄒旻槐氏、台湾行政院国家科学委員会国際合作所副研究員の鄭慧娟氏が随行されました。

(蛋白質研究所)



所長室での懇談の様子

平成22年度 近畿地区国立大学法人等会計事務研修実施

10月12日(火)～15日(金)の4日間にわたり、コンベンションセンターにおいて、「平成22年度近畿地区国立大学法人等会計事務研修」を開催しました。本研修は、近畿地区国立大学法人等において今後の会計に関する事務を担う中堅職員を対象として、国立大学法人等の会計実務に関する知識を授け、会計事務に係る理解と実務への応用力を身につけさせ、もって各職員の資質の向上を図ることを目的としています。

猿渡財務部長より開講式の挨拶及び「国立大学法人制度」について説明があり、その後、受講者より「各法人等の財務面からみた現状と課題」について発表が行われました。

2日目からは学内、外部の研修講師により、講義、演習



が行われ、2日目は「企業における業務改革」について講義があり、その後、「国立大学法人等の現状と課題及びその解決方法」についての演習が行われ、活発な意見交換が行われました。3日目は、「国立大学法人会計基準の特徴」について講義があり、その後、「国立大学法人等財務諸表の分析」について、講義、演習が行われました。4日目は「経営面から見た国立大学法人等について」の講義が行われました。本年は57名が受講し、受講者全員が意欲的に受講するとともに、親睦を深め合う機会にもなり、4日間の研修を無事終了しました。

(財務部財務課)

ベトナム保健省傘下の教育・研究機関と食の安全に関する連携を強化

グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)では、ベトナム保健省傘下の機関と食の安全に関する事業で連携を強めています。食の安全確保は、成長著しいベトナムが抱える重要な課題であり、国際的な視点からも解決への取り組みが必要になっています。

GLOCOLは8月末にベトナム国立栄養院、タイピン医科大学と学术交流協定を締結しました。これに基づいて、これまでに国際共同研究「ベトナムにおける食品保存料と食品衛生および関連する諸要因」を開始し、大学院GP「健康環境リスクマネジメント専門家育成」(薬学研究科と共同実施)の一環として学生のフィールド・スタディを実施しました。

また今年は、食や水を専門とするのべ15名のベトナム人研究者や専門家が、本学で様々な交流活動に参加しました。特に10月には、ベトナム保健省の新事業「食の安全専門家大学養成課程の構築」のために、Trinh Quan Huan保健省次官以下、食品安全管理局長、国立栄養院長らが本学を訪問され、教育・研究における協力について意見交換



国立栄養院との学术交流協定調印式(8月25日、ハノイにて)

を行いました。

GLOCOLは、今後も府下の大学や研究機関などとも連携しながら、ベトナムにおける食の問題に取り組んでいく予定です。

(グローバルコラボレーションセンター)

理化学研究所と連携・協力の推進に関する基本協定を締結

10月13日(水)に本学と独立行政法人理化学研究所との間で「連携・協力の推進に関する基本協定」を締結しました。

本学と理化学研究所は、従来より各種共同研究をはじめ、連携大学院(大阪大学医学系研究科、理学研究科、生命機能研究科)、大阪大学免疫学フロンティア研究センター(世界トップレベル研究拠点と理研免疫・アレルギー科学総合研究センターとの連携協力)、大阪大学蛋白質研究所への理研NMR施設の一部装置の移設・設置と連携協力の推進、SPring-8施設への専用ビームライン設置など幅広い分野で



左より、川合眞紀理化学研究所理事、野依良治理化学研究所理事長、鷲田清一大阪大学総長、西尾章治郎大阪大学理事・副学長

の協力関係を築いて来ました。

今回、基本協定を締結することにより、これらの取組に加えて、理化学研究所の持つ科学技術研究の能力及び最先端設備、国際的かつ柔軟な研究運営体制(または制度)等のポテンシャルと、大阪大学の持つ優れた教育機能とそれに係る総合的な学術研究能力等のポテンシャルを相互に有効活用することにより、単に人材の交流や施設設備の相互利用にとどまらず、双方の合意に基づいて、新たな連携・協力の枠組みを構築し、格段の国際的競争力を持つ自然科学の新しい研究領域・研究分野の開拓を目指すとともに、その過程を通じて将来に渡り、新しい研究領域・研究分野の開拓やその推進を担い得る人材の育成を目指します。

また今回同時に、上記基本協定に基づき「生命動態システム科学」に関する研究協力協定も併せて締結しました。複雑に変化する生命現象を定量的かつ統合的に解析し、生命現象の高度な予測・制御を目指す本研究分野は、近年急速に進展しており、生命科学の新たな潮流として注目されています。また両機関は、平成22年度から最先端研究基盤事業(文部科学省)の支援を受け、生命動態システム科学研究の基盤となる最先端基盤技術の整備を共同で開始しており、今後一層緊密に連携し、生命動態システム科学研究を推進して行きます。

(研究推進部産学連携課)

消防訓練実施

産業科学研究所では、10月の大阪大学安全衛生強化月間に合わせて、総合的な消防訓練を10月14日(木)に茨木市消防署の指導のもと実施しました。

今回の訓練は、ナノテクノロジー総合研究棟1階の研究室で火災が発生したことを想定した通報訓練及び避難訓練を実施した後、磯山教授(安全衛生管理委員会委員長)の司会により、山口所長(防火対策委員会委員長)からの訓示後、茨木消防署員に消火器を使用した初期消火について説明を受け、教職員・学生による消火訓練を行いました。あわせて、AED(自動体外式除細動器)の操作についての説明を受け、最後に茨木市消防署員による講評と、岩川事務部長(防火管理者)からの挨拶があり終了しました。

教職員及び学生等約200名が参加し、火災発生時の対処心得の習得、火災予防意識の高揚及び救急蘇生を要する際のAEDの操作方法の習得が図られました。



(産業科学研究所)

薬学研究科 消防訓練実施

薬学研究科では秋季全国火災予防運動の一環として、10月14日(木)13時より学生・教職員合わせて約300名の参加を得て、通報・避難・消火を連携した総合訓練を実施しました。



今回は、吹田市北消防署員立会いのもと、実際に119番通報を行い、初期消火訓練では屋内消火栓を使用し、さらに放水訓練も行いました。

恒例の消火器による消火訓練も実施し、5名の学生が積極的に参加しました。使用した消火器は、薬学研究科に実際に設置されているものと同じABC粉末消火器であり、参加者にとっては、実のある訓練となりました。

訓練終了後、小林研究科長から日頃より防火に努める心構えを持つこと、またこの訓練を活かし実際の火事に直面したときには冷静に対応するよう講話がありました。また、吹田市北消防署員からは、屋内消火栓を用いた訓練を行ったことなどに対し、高い評価を受けました。

今回の総合訓練で、火事に直面した場合の対応を学び、また防火への意識の向上が図られました。

(薬学研究科・薬学部)

学生交流学際融合教育セミナーの開催

学際融合教育研究センターによる、「学生交流学際融合教育セミナー」が10月15日(金)・16日(土)に開催され、多数の学生と教職員が参加しました。

このセミナーは、学際的で複眼的な視野を開くために、大阪大学が全研究科の大学院生を対象に実施している学際融合教育プログラム(高度副プログラム)を受講している、あるいは受講しようとする多様な分野の学生が一堂に会して語り合う機会を作ろうとしたものです。

10月15日は、コンベンションセンター(吹田キャンパス)で、現在の学際融合教育の紹介と受講促進のため「高度副プログラム見本市」が開かれ、引き続き、会場を関電プラントテクノセンター(三田市)にかえて、グループ討議を行いました。

今回のテーマは、現在の学びが将来のキャリア形成や将来の社会とつながっていることを認識することをねらいとし、グループに分かれて現在の自分の状況や社会情勢を考察した後に、10年後の自分の状況と社会情勢、製品、サ



ービスを予測しました。活発なグループ討議の後、夜遅くまで議論を交わし、翌日、各グループでの考えをパワーポイントにまとめ上げ、発表及び質疑応答を行いました。

セミナーを通じて、異なる専門分野の学生がグループ内、およびグループ間で議論を重ねることにより、密度の濃い、非常に有意義な交流をすることができました。

(学際融合教育研究センター)

「リサーチフェスタ2010」開催



全国の理数系の学部生が、日頃の研究成果を持ち寄り、発表しあう国内初の科学コンテスト「リサーチフェスタ2010」を10月17日(日)に大阪大学理学部にて開催しました。(主催：大阪大学、共催：文部科学省、協賛：(株)島津製作所)

本フェスタは、理数系の分野への学生の興味が低下していると言われる中、大学低学年の時期から意欲的に自主研究に取り組む学生に発表の機会を与え、やる気と能力をさらに伸ばすことを目的としています。初年度は、文部科学省の受託研究「理数学生応援プロジェクト」に採択された全国22大学の熱心な協力により、ここ大阪大学でコンテストの実現に至りました。

研究発表、活動報告の2部門に対し、学部2年生から4年生まで、29演題の応募があり、当日、口答発表ならびにポスター発表にわかれて、発表が行われました。自分の研究を人前で発表した経験がない者も多かったようですが、そうとは思えないほど、来場者である教員、学生との間で活発な質疑応答もあり、研究をとおして、大学、学部、学年の垣根を超えた交流が実現しました。

審査員は上述の理数学生応援プロジェクト企画評価委員9名の先生方にお引き受けいただきました。審査を2段階に分け、研究の目的、獨創性、考察などの点につき、事前に書面審査を行い、当日は、発表のわかりやすさ、内容の充実度などを審査し、最終的に金賞、銀賞、銅賞、奨励賞、発表参加賞を授与しました。(審査委員長：東京理科大学教授 坂口 謙吾先生)

大阪大学からは以下の4名が出場し、全員が好成績を取



左から勢力稔也君、高倉理君、今岡成章君、鎌倉恵太君

めました。

研究発表部門：

- 金賞 理学部物理学科3年 高倉 理君
「小型風向風速センサの開発と自律航行ヨットの製作」
- 奨励賞 理学部物理学科4年 鎌倉 恵太君
「角度可変減衰全反射赤外分光法による構造水の測定」

活動報告部門：

- 金賞 理学部物理学科2年 今岡 成章君
「質量分析計による気体の連続モニター」
- 奨励賞 理学部数学科2年 勢力 稔也君
「素数を表す方程式」

発表に参加した学生、見学に来た学生双方から、ぜひ自分も発表に値する研究を行い、来年のこの大会を目指したいという声もあがり、非常に手応えを感じる大会となりました。

(理学研究科・理学部)

海外体験型教育企画オフィス開所記念式典

大阪大学グローバルコラボレーションセンターでは、海外での実地体験型学習と実践をサポートすることを目的とし設置された海外体験型教育企画オフィス(FIELDO: Fieldwork, Internship and Experiential Learning Design Office)の開所記念式典を



鷲田清一総長、辻 毅一郎理事・副学長、小泉潤二理事・副学長をはじめ多くの方々のご出席のもと10月19日(火)16時30分より、豊中キャンパス スチューデント・commons 2階セミナー室1にて開催しました。記念式典ではFIELDOの目的、今後の計画、新ロゴの発表がされました。

海外体験型教育企画オフィス(FIELDO)では、今後、(1)海外インターンシップやフィールドワーク・プログラム、

スタディーツアーなどの海外体験型教育の企画、(2)海外でのフィールドワークとインターンシップの受け入れ先とのネットワーク形成と発展、(3)海外でのフィールドワーク、インターンシップなどをより効果的に行うための海外リスク管理やフィールドワーク倫理に関する科目整備とグローバル健康環境や国連システムにおける実践的政策エキスパート養成などに関わる教育プログラムの開発、を実施していく予定です。



(グローバルコラボレーションセンター)

平成22年度 大阪大学法人簿記研修実施

10月18日(月)、20日(水)、26日(火)、11月2日(火)、10日(水)の5日間にわたり、コンベンションセンターにおいて、「大阪大学法人簿記研修」を開催しました。本研修は、会計関係事務に従事している職員を対象として、国立大学法人会計の基本となる簿記の基礎知識を習得させ、国立大学法人会計基準及び大学の会計実務に則した講義及び演習を行うことにより、大学法人会計業務の理解と遂行能力の向上を図るとともに日商簿記検定試験3級に合格することを目的としています。



澁村財務課長による開講式の挨拶のあと、外部の研修講師により、初日から5日目の午前中までは簿記についての講義及び演習が行われ、5日目の午後には、



学内の研修講師により、国立大学法人会計基準の内容と実務上の留意点についての講義が行われました。

本年は53名が受講し、受講者全員が意欲的に受講するとともに、親睦を深め合う機会にもなり、5日間の研修を無事終了しました。

(財務部財務課)

手話講習会を開催

障害学生支援ユニットでは、平成14年度より毎年度、啓発や教育の一環として、手話講習会を開催しています。今年度も全13回の手話講習会が10月18日(月)に始まりました。今年度の受講者は20名です。受講理由は、「以前か



講習会の様子

ら障害者支援や手話への関心を持っていた」、「学内の聴覚障害学生への支援の際に役立てたい」、「聴覚障害のある家族や友人がいる」など、さまざまです。

講師を務めるのは、大阪聴力障害者協会の中塚智雄氏です。中塚氏自身も、聴覚障害者であり、日常的に手話を用いて生活をしておられます。第1回目の冒頭は講習会を受講する上で知っておく必要のある注意事項を伝えるために手話通訳者が付きましたが、第2回目からは中塚氏の手話のみで講習会が進みます。受講者には、当事者を講師とした講習会を通じて、単に手話を学ぶだけでなく、聴覚障害のある人たちの生活について知り、ひいては、各自が学び取ったことを自身の生活や将来へと活かすことが期待されています。今後の手話講習会の様子については、障害学生支援ユニットのHP (<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/shien/>) に掲載される予定です。

(学生支援ステーション/学生部キャリア支援課)

平成22年度 部局長等による合同巡視の実施

10月18日(月)～10月22日(金)にかけて、平成22年度部局長等による合同巡視を実施しました。合同巡視は、安全衛生管理の重要性について理解を深めていただくとともに、当該部局における危険箇所等の改善に役立てていただくことを目的に毎年1回実施しています。当日は、各事業場の総括安全衛生管理者をはじめ、各部局長、安全衛生委員会委員、安全衛生管理部が参加し、合同で安全点検を行



いました。

本学では、「安全衛生管理チェックシートを用いた各研究室等による自主管理」と「安全衛生管理部巡視員による第三者的チェック」を組み合わせた安全衛生管理システムを運用しています。今後ともチェックシートによる自主点検の継続と定期巡視へのご理解、ご協力をお願いします。

(安全衛生管理部)

平成22年度 本部事務機構火災・地震総合訓練実施

平成22年度本部事務機構火災・地震総合訓練を10月19日(火)、吹田市北消防署にご協力をいただき本部事務機構職員約150名が参加して実施しました。

訓練は、マグニチュード6クラスの地震により、本部事務機構の本部共通棟2階湯沸室から火災が発生したことを想定し、「通報訓練」、「消火訓練」、「負傷者救助訓練」、「避難訓練」を行いました。

引き続き、消防隊員のご指導により本部事務機構前庭に



水消火器による初期消火訓練

て「水消火器による初期消火訓練」を行った後、本部事務機構玄関前にて「屋内消火栓使用訓練」を行いました。

訓練後、吹田市北消防署東畑薫主査より今回の訓練についての講評があり、それを受けて、管理権限者である門田守人理事から吹田市北消防署へのお礼と、今回の消防訓練を踏まえて、今後は防火・防災に関して十分に対応できるようにしていきたいとの挨拶がありました。

当日は天候にも恵まれ、参加者全員、最後まで熱心に訓練に取り組んでいました。



屋内消火栓使用訓練

(財務部資産決算課)

保健センター豊中本室新装オープン・増改修竣工披露式開催

昭和46年に建てられた当センター豊中本室は、大阪外国語大学との統合以来、特に学生の増加による健康診断スペースの不足と、建物の狭隘・老朽化が顕著になったこと等により、平成21年8月から保健センターと学生相談室との間を増築し、既設の建物を改修し10月4日に新装オープンしました。このたび新装オープンを記念し、10月26日(火)に増改修竣工披露式開催を開催しました。

当日は、木枯らし一号が吹く中、鷲田清一総長、西田正吾理事、守山敏樹センター長三名によるテープカットが行われ、続いて出席された理事、豊中地区部局長、同事務長等による見学会が行われました。

増築された二階には、学生相談室の他、従来のセクシャル・ハラスメント相談室に、アカデミック・ハラスメント及びパワー・ハラスメントの相談室も新設されました。また、同一階のホールは、健康診断時以外は学生、教職員



に開放され、ウッドテラスから待兼池を望むスペースは、憩いの場として期待されます。

引き続き行われた祝賀会では、瀧原圭子副センター長の司会で、守山センター長からこれまでの経緯と、これを機に学生・教職員の健康をより一層サポートする旨のあいさつと、鷲田総長のお祝いの言葉と乾杯に続き懇談に入りました。出席者は歓談の中、新しくなった保健センターを祝いました。

なお、今回の改修では一年以上にわたり豊中地区における学生及び教職員の皆様にはご不便をおかけしました。これを機に、保健センタースタッフ一同、学生・教職員の健康を支えるため一層努力してまいります。健康上の気になることや困っていることについては、健康相談も実施していますので、気軽にお立ち寄りください。

(保健センター)



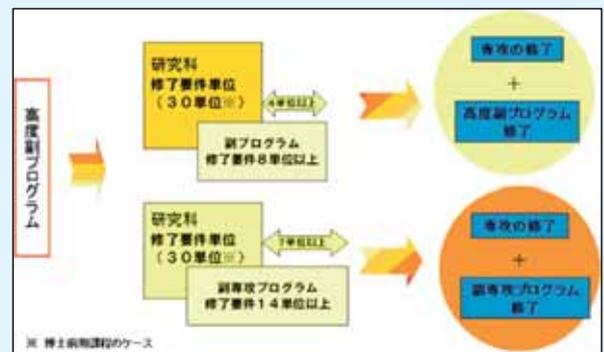
学際融合教育シンポジウムの開催

学際融合教育研究センターによる、「学際融合教育シンポジウム」が12月3日(金)に開催され、「大学院副専攻プログラム」に関心のある学生や教職員が多数参加しました。

このシンポジウムは、大阪大学で平成23年度から始まる「大学院副専攻プログラム」の目的や制度について考え、他大学のモデルとなる「副専攻教育制度」の確立を目指して企画されました。

学内外から講演者を招き、「大学院副専攻教育の在り方と望ましい実施形態」をテーマとしてパネルディスカッションを行い、大きな成果のあるシンポジウムになりました。

時間	内容
13:00-13:30	開会式(司会: 鷲田 清一 総長)
13:30-14:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
14:00-14:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
14:30-15:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
15:00-15:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
15:30-16:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
16:00-16:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
16:30-17:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
17:00-17:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
17:30-18:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
18:00-18:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
18:30-19:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
19:00-19:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
19:30-20:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
20:00-20:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
20:30-21:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
21:00-21:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
21:30-22:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
22:00-22:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
22:30-23:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
23:00-23:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
23:30-24:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
24:00-24:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
24:30-25:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
25:00-25:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
25:30-26:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
26:00-26:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
26:30-27:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
27:00-27:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
27:30-28:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
28:00-28:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
28:30-29:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
29:00-29:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
29:30-30:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
30:00-30:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
30:30-31:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
31:00-31:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
31:30-32:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
32:00-32:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
32:30-33:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
33:00-33:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
33:30-34:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
34:00-34:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
34:30-35:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
35:00-35:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
35:30-36:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
36:00-36:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
36:30-37:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
37:00-37:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
37:30-38:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
38:00-38:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
38:30-39:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
39:00-39:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
39:30-40:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
40:00-40:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
40:30-41:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
41:00-41:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
41:30-42:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
42:00-42:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
42:30-43:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
43:00-43:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
43:30-44:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
44:00-44:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
44:30-45:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
45:00-45:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
45:30-46:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
46:00-46:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
46:30-47:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
47:00-47:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
47:30-48:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
48:00-48:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
48:30-49:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
49:00-49:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
49:30-50:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
50:00-50:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
50:30-51:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
51:00-51:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
51:30-52:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
52:00-52:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
52:30-53:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
53:00-53:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
53:30-54:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
54:00-54:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
54:30-55:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
55:00-55:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
55:30-56:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
56:00-56:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
56:30-57:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
57:00-57:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
57:30-58:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
58:00-58:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
58:30-59:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
59:00-59:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
59:30-60:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
60:00-60:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
60:30-61:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
61:00-61:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
61:30-62:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
62:00-62:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
62:30-63:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
63:00-63:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
63:30-64:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
64:00-64:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
64:30-65:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
65:00-65:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
65:30-66:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
66:00-66:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
66:30-67:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
67:00-67:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
67:30-68:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
68:00-68:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
68:30-69:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
69:00-69:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
69:30-70:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
70:00-70:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
70:30-71:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
71:00-71:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
71:30-72:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
72:00-72:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
72:30-73:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
73:00-73:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
73:30-74:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
74:00-74:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
74:30-75:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
75:00-75:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
75:30-76:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
76:00-76:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
76:30-77:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
77:00-77:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
77:30-78:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
78:00-78:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
78:30-79:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
79:00-79:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
79:30-80:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
80:00-80:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
80:30-81:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
81:00-81:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
81:30-82:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
82:00-82:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
82:30-83:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
83:00-83:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
83:30-84:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
84:00-84:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
84:30-85:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
85:00-85:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
85:30-86:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
86:00-86:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
86:30-87:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
87:00-87:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
87:30-88:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
88:00-88:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
88:30-89:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
89:00-89:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
89:30-90:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
90:00-90:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
90:30-91:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
91:00-91:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
91:30-92:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
92:00-92:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
92:30-93:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
93:00-93:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
93:30-94:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
94:00-94:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
94:30-95:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
95:00-95:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
95:30-96:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
96:00-96:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
96:30-97:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
97:00-97:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
97:30-98:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
98:00-98:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
98:30-99:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
99:00-99:30	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)
99:30-100:00	講演 学際融合教育の推進(司会: 西田 正吾 理事)



「大学院副専攻プログラム」とは?

平成20年度から始まった高度副プログラムをさらに発展させたものが副専攻プログラムで、平成23年度から実施する計画です。下図のようにまとまりのある単位を8単位から14単位に引き上げ、より密度の濃い教育プログラムとなります。

(学際融合教育研究センター)

平成22年度 基礎工学研究科英語特別コース入学式挙

英語による科目履修及び研究指導により修士号及び博士号を取得できる基礎工学研究科英語特別コース博士前期課程及び博士後期課程の入学式が、10月20日(水)に基礎工学研究科において挙行されました。

式では、佐藤宏介教育担当副研究科長の司会のもと、戸部義人研究科長から式辞が述べられました。続いて、平成22年4月及び10月に入学した9カ国31名のうち代表者4名による記念スピーチがあり、意気込みが語られました。



(基礎工学研究科・基礎工学部)

第60回 藤原セミナー『Zinc signal and cellular functions』開催

日本で初めての亜鉛シグナル・亜鉛生物学に焦点をあてた国際会議、第60回藤原セミナー『Zinc signal and cellular functions』が、本学生命機能研究科、医学系研究科、免疫フロンティア研究センター免疫発生学および藤原科学財団の主催、日本免疫学会の後援をいただき今年10月29日(金)～10月31日(日)の日程で大阪国際会議場、特別会議室にて開催されました(オーガナイザー；平野俊夫医学系研究科長、事務局長；村上正晃生命機能研究科准教授)。

亜鉛シグナル・亜鉛生物学はまだ非常に若い研究領域で、関連の国際学会としても2007年にInternational Society for Zinc Biologyが結成されたばかりです。まだ世界中で数百名しか研究者がいない、新しい分野です。いままでの経緯で、栄養学や神経生物学者の研究者が主ですが、最近、免疫、発生、がん、ウイルス、皮膚、骨、糖尿病、自己免疫疾患やアレルギーなどの研究者も徐々に亜鉛シグナル・亜鉛生物学研究に興味を持ち始めています。最近、亜鉛は単なる栄養素として重要であるばかりではなく、カルシウムのように細胞内シグナル伝達因子としての重要さも注目されつつあります。本会議でもこの点が非常に大きなトピックスでした。



24名の外国人研究者と10名の日本人研究者、合計34名による講演が行われました。その中には1960年代に世界で初めて亜鉛欠乏症を発見し、亜鉛



研究のバイオニアであるDr. Ananda S. Prasad (Wayne State 大学)をはじめ、本学からは、平野俊夫医学系研究科長、審良静夫免疫学フロンティア研究センター拠点長、菊地和也工学研究科教授、村上正晃生命機能研究科准教授が講演者として参加して日頃の研究成果が報告されました。さらに、ポスター講演として外国人によるもの16と日本人によるもの20の発表も行われました。一般参加者68人を加えた合計137人が参加し、連日朝8時半から夜7時前後(最終日は1時半すぎ)まで活発な討論と情報交換が行なわれました。

今回の会議を通じて新たな内外の共同研究も多数生じ、各研究者は亜鉛がシグナル因子であるという新たな視点から、今後の亜鉛生物学研究に対する新しい発想が得られたとの声が多数寄せられました。2012年にはInternational Society for Zinc Biology主催による第3回亜鉛生物学国際会議がメルボルンにて開催される予定で、今回の会議への出席者はその会議での再会を誓っていました。今回の藤原シンポジウムを機会に、日本のみならず世界の亜鉛生物学・亜鉛シグナル研究が飛躍的に発展する事が期待出来ます。

(医学系研究科・医学部)

平成22年度 学術情報リテラシー教育担当者研修(大阪大学会場)開催

附属図書館と国立情報学研究所との共催による平成22年度学術情報リテラシー教育担当者研修(大阪大学会場)が、10月20日(水)から10月22日(金)の3日間にわたり、総合図書館を会場として開催され、全国から国公私立大学の図書館職員53名の受講者がありました。

この研修は講義やグループ討議を通じて、各大学等の研究機関において学術情報リテラシー教育を企画・運営するための知識と技術を習得し、より効果的な実施を目指すことを目的としており、平成15年度から実施されています。(平成16年度からは大阪大学が西日本会場を担当)

今年度の研修は帝京大学の松下鈞教授と愛知淑徳大学の伊藤真理准教授をコーディネータとして、「大学生を教えるノウハウ」等の教育的なアプローチを中心とした様々な講師の講義を受講した後、事前に選択されたテーマに焦点を絞ったグループ討議が活発に行われ、最終日にその成果が発表されました。



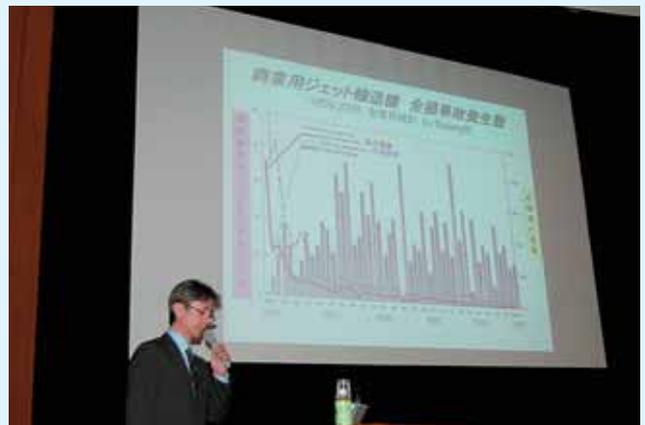
グループ討議の様子

(附属図書館)

平成22年度 大阪大学安全衛生講演会の開催

10月26日(火)医学部銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて、平成22年度大阪大学安全衛生講演会を開催しました。この講演会は、全国労働衛生週間及び大阪大学安全週間(いずれも10/1~10/7)にあわせて、教職員、学生の安全衛生意識向上を図ることを目的に毎年開催しているものです。

今年度は、日本航空機長の小川良氏をお招きして、「日本航空における安全・危機管理について」と題して、日本航空における安全への取り組み、ヒューマンエラー対策などをご紹介いただきました。現役機長のお話を伺える大変貴重な機会であり、参加者は熱心に耳を傾けていました。当日は、約150名の参加がありました。



(安全衛生管理部)

理学研究科・理学部
消防訓練実施

理学研究科・理学部において、10月27日(水)13時30分から消防訓練を実施しました。

この訓練は、例年、秋季全国火災予防運動に因んで行っているものであり、併せて、本学部化学科3年生の化学実験の授業の一環として実施しているものでもあります。

今回行った訓練は、まず避難訓練として本学部本館b棟の4階にある数学談話室が出火したことを想定し、火災報



粉末消火器による消火器訓練の風景



消火栓による放水訓練の風景

知器が作動したあと、非常放送の流れの中、実際の119番通報も行い、担当者の避難誘導に従って屋外へ避難し、同時に出火元の初期消火訓練を行いました。

このあと場所を移して、消火栓を使った放水訓練、模擬火災による水消火器・粉末消火器・二酸化炭素消火器を使った消火器訓練及び教育ビデオを用いた講習を行いました。

訓練には教職員・学生約400名が参加しました。

(理学研究科・理学部)

国立大学附置研究所
センター長会議第1部会シンポジウム開催

国立大学附置研究所・センター長会議第1部会(理工学系)シンポジウムが、10月28日(木)、29日(金)の両日、千里阪急ホテル(大阪府豊中市)においてレーザーエネルギー学研究センターを当番機関として開催されました。

1日目は、同会議第1部会長の松見 豊名古屋大学太陽地球環境研究所長及び西尾章治郎理事・副学長による挨拶の後、「人と自然にやさしい科学技術」をテーマにシンポジウムが開催され、東京理科大学藤嶋 昭学長、東京大学生産技術研究所加藤信介教授及びレーザーエネルギー学研究センター西村博明教授による講演が行われました。

シンポジウム終了後、文部科学省研究振興局学術機関課森田正信課長、土井大輔専門官及び永友光太郎係員出席のもと第1部会が開催された。森田課長から予算関係、政策コンテスト、事業仕分け関係及び科学技術・学術審議会の動向等について説明があり、活発な質疑応答が行われました。

2日目も引き続き、松見部会長の議事進行により第1部会が行われ、平成22年度常置委員会の報告や来年度の部会長等の選出のほか、今後の国立大学附置研究所・センター長会議の在り方等について活発な意見交換が行われ、盛会のうちに終了しました。



シンポジウムの様子



文部科学省からの説明



第1部会の様子

(レーザーエネルギー学研究センター)

第8回 「市民フォーラム」開催

大阪大学大学院歯学研究科では、10月30日(土)に毎日新聞社ビル地下1階のオーバルホール(大阪市北区)において「市民フォーラム」を開催しました。

今年で8回目となる今回のフォーラムでは、米田俊之研究科長の開会の挨拶の後、総合テーマ『インプラントを正しく知ろう』に基づいて、同大学院教員ら5名が、インプラントの初歩的な知識、処置の実例、手入れの仕方などを題材に講演を行いました。

約450名の参加者が講演を熱心に聴講し、講演後の討論では活発な質疑応答により、歯科治療を行う側と受ける側の双方向の情報交換が行われました。最後に、森崎市治郎歯学部附属病院長からの挨拶があり、盛況のうちに閉会しました。

参加者からは、「各講演者から歯科医療の興味深い話が聞けてとても参考になった」、「今後も是非このフォーラム



を継続して開催してほしい」といった意見が数多く寄せられ、有意義な講演会となりました。

(歯学研究科・歯学部)

平成22年度 大阪大学特志解剖体追悼法会実施

去る11月1日(月)午後1時から四天王寺本坊(大阪市天王寺区)において、平成22年度大阪大学特志解剖体追悼法会が執り行われました。

この追悼法会は、系統解剖及び病理解剖のために大阪大学に御献体いただいた方々を追悼するもので、毎年四天王寺で実施しているものです。

当日は曇り空の中、過去1年間に献体された方々の御遺族をはじめ医学部及び歯学部の解剖学関係各教員並びに本年度解剖実習をした両学部の学生等、関係者約五百名の参加者がありました。

追悼法会では、平野俊夫医学部長、米田俊之歯学部長、及び両学部の学生代表が慰霊の詞を捧げた後、僧侶の読経



慰霊の詞を捧げる平野医学部長



納骨法要にてご遺族へ挨拶する原田教授

の中、両学部教員代表、御遺族代表、大阪大学白菊会会長及び両学部学生代表の焼香に続いて参加者の焼香が行われました。次に、細胞生物学講座の原田彰宏教授から参加者に対して挨拶があり、厳粛な雰囲気の中に午後2時閉会となりました。

また、追悼法会終了後、大阪市北区長柄の大学墓地において、昨年度の解剖実習のために献体された方々のうち、大学墓地に埋葬を希望されていた方々の納骨法要が営まれ、御遺族及び大学関係者の見守りの中で29柱の御遺骨が納骨され、午後3時半頃滞りなく予定の行事が終了しました。

ここに改めて御遺族の方々に感謝を申し上げますとともに、故人の御冥福を心からお祈りいたします。

(医学系研究科・医学部、歯学研究科・歯学部)

国費学部留学生への大学進学説明会開催

日本語日本文化教育センターでは、11月5日(金)に、国費学部留学生への大学進学説明会を開催しました。

学部留学生は、本年4月に来日し、本センター又は東京外国語大学において1年間、大学進学前予備教育として日本語及びそれ以外の専門領域科目の集中教育を受けた後、文部科学省により国立大学法人の大学に配置され、4年間または6年間の大学(学部)教育を受けることになっています。

本センターでは、このプログラムで学習する国費学部留学生に対して、留学生本人の希望を踏まえた大学(学部)への進学指導を行っています。その一環として、毎年大学進学説明会を開催しています。これは国立大学法人各大学から説明者を招き、留学生に直接各大学の特色ある専門分野や地域の特徴などを説明いただくとともに、質疑応答の機会を通じて生きた詳しい情報の提供をお願いしているものです。



個別説明



全体説明

今年度も留学生たちが自らの留学目的に合致した専門分野(学科)や進学先の選択ができるように開催し、30大学から63名の教職員の参加がありました。

当日は、午前中に文部科学省高等教育局学生・留学生課 留学生交流室 長川英樹専門官及び奥西峻介センター長の挨拶に引き続き、参加大学による大学紹介が行われ、午後からは大学ごとに個別会場に分かれて説明及び質疑応答が行われました。

留学生は各大学の説明に熱心に耳を傾け、学ぶことのできる教育内容や日頃から疑問に感じている事柄について積極的に質問を行っていました。また、参加大学の側も個別会場をポスター等で装飾し、教育環境や生活面のサポート体制について丁寧な説明をしていただき、留学生からは今後の進学先大学を考える上で大いに参考になったと好評でした。(日本語日本文化教育センター)

平成22年度 秋季安全衛生集中講習会の実施

11月8日(月)~12日(金)にかけて、平成22年度秋季安全衛生集中講習会を実施しました。

この講習会は、本年5月から6月にかけて実施した春季安全衛生集中講習会と基本的に同じ内容で、新たに研究室に配属になった方等を対象に開催しました。安全関係では化学物質、高圧ガス、低温寒剤、酸素欠乏事故防止等につ



いて、健康管理ではメンタルヘルスに関して講習を行いました。参加者は、全日程で約220人でした。

安全衛生管理部では、今後も春季と秋季の年に2回本講習会を実施しますので、多数の方に参加いただけますようよろしくお願いします。



(安全衛生管理部)

第51回まちかね祭

11月5日(金)~7日(日)の3日間にわたって、大阪大学豊中キャンパスにて第51回まちかね祭が開催されました。今年のテーマは「本気(マジ)かね!!」。昨年第50回を迎えたまちかね祭が大学祭として新たな区切りを歩み始めるにあたり、昨今のどことなく暗い世相を吹き飛ばし、阪大生の「本気(マジ)」が来場者の皆様をあっという間に驚かせ、少しでも明るい気持ちに出来たならば、という願いを込めたテーマです。

できるだけ多くの方に阪大生の「本気(マジ)」を体感していただくため、O+PUSでの広報動画の放映、大阪大学ホームページへのバナーの掲載、ポケットティッシュの配布、学内外の情報誌への広告の掲載等々、様々な形での事前広報を行いました。その甲斐もあってか、3日間とも好天に恵まれた第51回まちかね祭は学内外を問わず非常に多くの方にご来場いただきました。

メインストリートには模擬店が立ち並び、共通教育棟や

学生交流棟などでは多くのサークルが多種多様な企画を催し、この日のために準備してきた成果を発揮しようとする学生や様々な模擬店、企画を巡る来場者の方々と賑わいました。

ステージでは、サークルによる演奏や演技の他、実行委員企画として替え歌選手権、お笑いNo.1を決定するO-1グランプリ、阪大一の美女・女装美女を決めるHANDAI CINDERELLA COLLECTION、ウイニングイレブン大会、レーザーショーなど休む間もなく企画が行われ、来場者の皆さまには楽しんでいただけたかと思います。

その他にも大学構内の至る所で様々な企画が行われ、第51回まちかね祭は大変な盛況の中、無事に終わることができました。

最後になりましたが、この場を借りて第51回まちかね祭にご協力いただいた関係者の皆様方に改めてお礼を述べさせていただきます。



(大学祭中央実行委員会 広報局長 小野田昂司)

「西靖アナトークライブ」開催

11月6日、土曜日。空は快晴!!

第51回まちかね祭2日目の目玉企画である阪大OB・毎日放送西靖アナウンサーのトークライブが開催されました。当日の朝から実行委員会本部にはたくさんの問い合わせがあり、お客さんも幾分そわそわして見えました。13時半開場、14時開演にも関わらずなんと12時から並ぶ方もおられました。開場の13時半には約350人しか入らない会場に500人も並び、急遽2回開催するほどの盛況ぶりでした。



トークライブの内容は毎日放送60周年企画「西靖60日間世界一周取材旅行」について、インドでの出来事や、オーロラの話など様々な地域の様々な話をしていただきました。トークの後には質問タイムでは、多くの質問が寄せられ、西アナウンサーには、「大学生の時にどのような生活をしてきたか」や「アナウンサーを志望した理由」など熱く語っていただきました。深い言葉もたくさんあって、一阪大生として本当に参考になりました。2回目のトークライブでは中・高・大と出身が同じ阪大生と熱い抱擁を交わす場面もあり、とにかく非常に楽しく、熱い内容となりました。



母校である阪大に来てくださった訳ですが、また来て欲しいですね!!またのお帰りを、お待ちしております。

(大学祭中央実行委員会企画局ゲスト企画担当 村上和史)

第51回 まちなね祭「学生選書ビブリオバトル」開催

まちなね祭2日目の11月6日(土)に豊中キャンパス大講義室で、「学生選書ビブリオバトル」が開催されました。

ビブリオバトルとは、学生団体のサイエンスルーが主宰する書評イベントで、今回は、特に附属図書館が6月に実施した「学生選書」をテーマに行われました。当日は、「学生パトラー」3名と、本学教員である浅田稔教授(工学研究科)、大竹文雄教授(社会経済研究所)、菊地誠教授(サイバーメディアセンター)が「ゲストパトラー」として参戦するという豪華な布陣で実施され、大竹教授の『誘惑される意志』が見事チャンプ本に選ばれました。

また当日は、特別ゲストとして鷲田総長が出席されお薦



めおすすめ本の紹介が行われ、さらに鷲田総長とゲスト教員による「本と交流」についての討論が行われました。

「本」への関心を改めて高めることができた「読書の秋」らしい有意義なイベントでした。

(協力:大阪大学附属図書館、大阪大学未来基金(大学)、大阪大学生生活協同組合、株式会社ジUNK堂書店)
(基金室)



まちなね祭で防災・防犯に関する特設ブースを出展

11月5日(金)~6日(土)にかけて、豊中キャンパスのまちなね祭において、関係行政機関の協力を得て、防災・防犯に関する意識啓発のため、特設ブースを出展しました。当日は本学学生、教職員だけではなく、地域住民の方々にも多数参加いただきました。

特設ブースの概要

- 防災啓発(池田土木事務所・豊中市消防本部)
・災害に備えて普段からの心得や取組みについて

- ・救命講習、AEDの使用方法に関する説明会
- 防犯啓発(池田土木事務所・豊中警察署・豊中保健所)
- ・街頭犯罪及び交通事故防止対策について
- ・シートベルトの重要性を認識してもらう体験コーナーの設置
- ・薬物乱用防止等の啓発及びキャラバンカーを使用した体験コーナーの設置



(安全衛生管理部)

第3回革新的研究教育基盤機器開発整備事業ならびに リユース研究教育基盤機器整備報告会開催

科学教育機器リノベーションセンターは、去る11月10日(水)に「第3回革新的研究教育基盤機器開発整備事業ならびにリユース研究教育基盤機器整備報告会」をコンベンションセンターにおいて開催しました。

革新的研究教育基盤機器開発整備事業は、学内公募で厳選された7件の開発プロジェクトを文部科学省に概算要求を行い、平成20年度から5年間の開発事業として認められ、市販品に比べて低コスト、高性能な阪大“only-one”の汎用機器開発を目指すものであり、当センターの先端機器開発室が支援を行っています。そして平成20年度より開発が始まった2件のプロジェクトにつきましては、ほぼ完成に向かっており、機器運用準備が科学教育機器リノベーションセンター吹田プラザ(産業科学研究所インキュベーション棟4階)で着々と行われています。

一方、リユース研究教育基盤機器整備は、「大阪大学に



おける設備整備に関するマスタープラン」に基づき、学内にあるリユース可能な研究教育機器を修理・復活再生させ、汎用性研究教育基盤機器として広く学内の教員や学生に共同利用させることを目的に、学内経費である教育研究等重点推進経費の要求を行い、平成19年度から順次実施しているもので、当センターのリユース促進室が担当し、現在63台のリユース機器が登録されており、そのうち4台の機器が学外開放されています。

報告会は、西田正吾理事・副学長による開会挨拶の後、中嶋英雄科学教育機器リノベーションセンター長の挨拶及び革新的研究教育基盤機器開発整備事業についての概要説明が行われ、各プロジェクト担当教員から機器開発の進捗状況及び開発計画について報告が行われました。

午後からは、勝谷透(独)産業技術総合研究所関西産学官連携センター総括主幹による「研究機器開放利用の現状と課題」と題した講演に続き、石塚副センター長からリユース整備の概要説明が行われた後、各部署のリユース機器担当者によるリユース整備状況、共同利用状況等について報告が行われました。

当日は、教職員、学生を含め約82人の参加者があり、特にリユース事業の積極的な展開のための具体策等の貴重な意見が出されるなど活発な質疑応答が行われたほか、同センターの活動内容を広く理解していただく大変有意義な機会となりました。

(科学教育機器リノベーションセンター、研究推進部研究推進課)

知的財産センター・法学研究科附属法政実務連携センター主催 公開講義「情報の送り手から学生へのメッセージ」

11月15日(月)、知的財産センター・法政実務連携センターでは、NHK報道局「おはよう日本」チーフ・プロデューサーの松木昭博氏を講師としてお迎えし、公開講義「情報の送り手から学生へのメッセージ」を開催しました。松



木先生の記者としての体験談、特に、どのようにニュースを受け取って欲しいかを考えて記事を書き、番組を編集しているかのお話をいただきました。具体的には、最近の尖閣諸島問題のニュースや、札幌放送局で担当された北海道拓殖銀行破たん事件、報道局経済部でたずさわった電気・通信業界のニュースを、実際の映像を用いて分かりやすく説明していただきました。聴衆は100名を越え、様々な学部からの参加者からは、「ニュース番組に対して、新しい視点が得られたと思う。」「当事者意識を持ってニュースを受け取ってほしいという松木先生の言葉に熱い思いを感じた。」「NHK独自の存在意義、公共放送のあり方について考えさせられた。」「今後私たちが日本人として何か変化をおこし、なにか一つでも問題を解決しなければならない。」等の感想が寄せられました。

(知的財産センター、法学研究科・法学部)

高等司法研究科・法学研究科附属法政実務連携センター主催
税法講演会「税務行政の現状と取組み - 所得税を中心にして - 」

11月10日(水)に、大阪国税局課税第一部長の金沢孝志氏を講師としてお迎えし、公開講義「税務行政の現状と取組み 所得税を中心として」を開催しました。講義では、租税の意義・目的、国税の分類と種類、申告納税制度を支える2つの柱、国税組織の機構、所得税の仕組みについてお話していただきました。IT化を中心とした取り組みを行うことで納税者サービスを充実させている点や、適正・公平な税務行政の推進のために、近年の経済取引のIT化・国際化や課税・徴収の複雑・困難化に対応した、所得税調査を行っている点等をいくつかの具体例を用いてお話していただきました。資産運用益の計上漏れ事例や所得の無申告であった事例等、所得調査の結果判明した事例を分かりやすく説明していただき、国税局の仕事について学生たちの理解が深まりました。

参加者からは、「IT化や国際化によって、所得税調査の重要性がさらに高まっていることがわかった。」「国税局の



仕事、現場を見て対応している点が非常に多いと感じた。」「国税局の役割が拡大している中、その問題や取り組みを聞けてとても有意義な時間だった。」等の感想が寄せられました。

(高等司法研究科、法学研究科・法学部)

平成22年度
大阪大学「感謝の集い」開催

大阪大学未来基金(大学)では、11月8日(月)大阪大学中之島センターで、「大阪大学 感謝の集い」を開催しました。この催しは、今までに大阪大学に対して高額のご寄付をいただいた皆様をお招きして、感謝の意を示すとともに、大学の近況を報告する場として企画されたもので、遠方からのお客様も含め、14名の方にご出席をいただきました。

まずは大学の近況報告が行われ、鷲田総長の挨拶に続き、高杉理事より大学の研究成果や社会学連携の取組み状況、課外活動の様子など大学が報告されました。さらに課外活動研究報告として歯学部5回生の坂口晃平君からの発表が行われ、最後に門田理事より大阪大学未来基金(大学)の近況について報告が行われました。

引き続き、懇談会が行われ、軽音楽部 Swing の学生4名によるJAZZの生演奏も披露される中、ご出席者の皆様と本学関係者が交流を深めることができました。



基金室では、大阪大学のさらなる発展のためにも、ご寄付をいただいた皆様のご意見を直接お伺いする場として、今後ともこのような催しを開催していきたいと考えております。



(基金室)

イシバシ・ハンダイ映画祭



石橋商店街と大阪大学キャンパスの両方を必ずどこかのカットに含む10分以内のショートフィルム。そんな条件で作品を集め、小さな映画祭を行いました。それが「イシバシ・ハンダイ映画祭」です。6月末から9月末までを募集期間とし、11月19日(金)に前夜祭、20日(土)に授賞式を行いました。

なぜ大学で映画祭をやるのでしょうか。そこには、いろいろな教育的効果と社会学連携の効果が期待されるからです。映画作りには芸術的センスはもちろんのこと、コンピュータ・リテラシー、知的財産その他についての法的な知識が必要です(法的な問題については、知的財産センターの教員と院生の方に解説をお願いしました)。また映画作りを通じてチームワークの重要性を知ってもらうということも狙いの一つです。

それではなぜ石橋商店街なのでしょう。この映画祭の基盤として、コミュニケーションデザイン・センターが提供しているCSCD科目「地域コミュニケーションデザイン・コーディネータ入門」という授業があります。この科目は、大学と地域との関わりについて、いろいろなイベント企画を通じて実践的に学んでいくことを目的としています。この授業の受講生が、「イシバシ・ハンダイ映画祭」の企画・運営に当たる運営委員会の中核メンバーとなりました。受講生や映画制作に当たる学生は、映画祭の企画や映画作りを通して社会との接し方を身につけるでしょうし、また商店街を映した映像はインターネット等を通じて広く公開されるので、地元にとってもプラスの効果が十分期待されます。

このように、ユニークなビジョンのもとに始まった「イシバシ・ハンダイ映画祭」でしたが、肝心の作品の応募が



最優秀作品賞を受賞したチーム「ハローワールド」とともに

なければ、すべては絵に描いた餅に終わってしまうでしょう。幸い14作品というはるかに予想を上回る作品が集まり、しかもいずれもヴァリエーションに富んだ力作揃いであったことは、スタッフにとって望外の喜びでした。審査には、映画批評や映像制作を専門にしている文学研究科、CSCD、ウェブデザインユニットの教員に当たっていただき、また審査員のお知り合いの韓国の映画制作者や地方映画祭プロデューサーの方もコメントを寄せてくださいました。また、前夜祭では、参加した方々にも一般審査員として投票をお願いしました。

前夜祭はステューデントコモンズ開放型セミナー室で行い、制作者のコメントを交えながら、14作品すべてを上映しました。17時から開始してからどんどん聴衆が増え、最後に石橋商店街の皆様と阪大生とが協力して作った「イシバシ ハンダイ7番勝負～学生証をかけた戦い」では会場全体が大爆笑の渦となり、大盛り上がりでした。

翌日、ステューデントコモンズ・マッチング型セミナー室で、記念イベント(平田オリザ脚本・演出、ロボット版『森の奥』上演記録の上映会)に引き続き行われた授賞式では、映画の作成者、池田市や、メダルのご寄付をいただいた榎ココティエの代表の方ほか、50名余りの方々が見守る中、優秀作品賞、審査員特別賞、石橋商店会賞、その他各賞が発表され、和やかな雰囲気の中に賞状や記念品の授与が行われました。最優秀作品賞には、チーム「ハローワールド」による「最終兵器熟女」が選ばれました。高い技術とユーモア溢れるストーリーで、すべての審査委員から高い評価が与えられました。その他の作品も、いずれも高い水準にあったと、審査員の皆様からコメントをいただきました。

不安の内に準備を進めてきた「イシバシ・ハンダイ映画祭」でしたが、予想以上の成功を収められたのではないかと考えます。ご協力・ご後援くださいました総ての皆様へ感謝申し上げます。また来年度への続行を検討中ですので、ぜひ皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

(金水 敏コミュニケーションデザイン・センター長)

平成22年度 永年勤続者表彰式挙行

平成22年度永年勤続者表彰式が、11月22日(月)午前11時からコンベンションセンター会議室1において、被表彰者42名のうち38名の出席のもとに挙行されました。

式は、鷲田清一総長から被表彰者一人一人に表彰状が授与された後、式辞が述べられ、続いて、被表彰者を代表して産業科学研究所の鎌谷明氏が答辞を述べ閉式しました。

今年度表彰された方は、次のとおりです。



山中 正(本部)	井口 和江(医病)
中川 貴由(本部)	千賀 ゆかり(医病)
波多野 恒男(本部)	糺 桂子(医病)
柳生 弘和(本部)	鈴木 尚代(医病)
渡邊 年男(本部)	長岡 淳子(医病)
荻野 正之(本部)	畑 伸顯(医病)
嶋 篤子(法)	本田 育子(医病)
笠 学(法)	浮田 弘美(医病)
鴨川 誓志(法)	東尾 和司(医病)
田島 優(医)	鋤崎 信男(医病)
中島 武司(医)	小谷 哲也(医病)
馬場 猛(医)	松崎 礼子(歯病)
清水 朋子(医)	西川 喜紀(歯)
重松 弘子(医病)	岩井 嘉之(工)
松本 稔子(医病)	松好 克彦(工)
中村 歩(医病)	鎌谷 明(産)
天野 美希(医病)	栗林 貞弘(産)
武智 久恵(医病)	村上 康雄(社)
須藤 昌子(医病)	千鳥 哲哉(実践)
片山 知子(医病)	田宮 滋(リノ)
佐藤 浩美(医病)	藪 田 豊(リノ)

(総務部人事課)

蛋白質研究所 平成22年度防災訓練実施及び防災講習会開催

平成22年度蛋白質研究所防災訓練を11月24日(水)に教職員・学生約150名が参加して実施しました。

訓練では、今年度、消防法に基づいて新たな消防計画を作成し、地震発生(直下型震度6強)後、本館2階給湯室から火災が発生したこと及び、本館3階で1名が負傷したことを想定し、「通報・連絡訓練」、「避難・誘導訓練」、「救護訓練」、「消火訓練」、「防護訓練」、「搬出訓練」を行いました。

引き続き、避難場所となった蛋白質研究所共同研究拠点棟北側の空き地にて「消火器を使用しての初期消火訓練」

を行い、併せて本館6階にて「屋内消火栓を使用しての放水訓練」を行いました。

訓練後、本館1階講堂にて吹田市北消防署東畑隊長から、迅速かつ適正に訓練が実施されていたとの講評があり、長谷俊治所長から今回の訓練を踏まえてより一層防災についての意識を高め十分に対応していきたいとの挨拶のあと、続いて防災講習会を開催しました。

参加した教職員・学生全員が、万が一の備えとして、最後まで真剣に訓練に取り組み、防災講習会では、熱心に講演を聴講していました。



消火器を使用しての初期消火訓練



吹田市北消防署による講習

(蛋白質研究所)

初芝富田林中学校による校外学習について

11月2日(火)に、初芝富田林中学校の生徒160名が、校外学習の一環として豊中キャンパスに来校しました。中学生に大学の講義を体験してもらうために、理学研究科下田正教授が「自然界をめぐる旅へのいざない」と題した物理化学体験学習と、国際公共政策研究科小原美紀准教授が「デキル人とできない人が生じるのはなぜか？：人間を「経済学」で分析してみよう」と題した座学講義をスチューデントコモンズで行いました。



当日は、初芝富田林高等学校卒業生の学部学生3名のガイドのもと、総合学術博物館内を見学したり豊中キャンパス内を散策しました。ガイド役の学生へ「学生生活について」などについてインタビュー形式でのアンケートを実施するなど、貴重な時間を過ごしました。

参加した中学生からは、「大学の授業を受けることができて良かった」、「現役の大学生の話が聞けて良かった」などの感想がよせられました。



(企画部広報社学連携事務室)

第3回 適塾講座開催

適塾記念会会員を対象に、第3回適塾講座が、9月7日(火)、10月5日(火)及び11月2日(火)に大阪大学中之島センターにおいて開講されました。

この講座は、適塾顕彰事業の一環として、洪庵と塾生の足跡をたどり、適塾が果たした歴史的役割を考えるため、平成20年度から開講しているものです。

今回は、「幕末期の『大坂地域』と適塾」をテーマに、適塾記念会評議員の村田路人文学研究科教授のコーディネ

イトのもと、山中浩之大阪府立大学教授が「幕末大坂の私塾と適塾」、藪田貫関西大学教授が「政事と文事 - 武士たちの大坂 -」、そして村田教授が「幕末期大坂周辺地域の医師と医療活動」と題してそれぞれ講演を行いました。

約20名の受講生は毎回熱心に聴講し、活発な質疑応答が行われ、最終日には受講生に対し修了証書が渡されました。



山中教授



藪田教授

(企画部広報・社学連携事務室)

公開講座フェスタ2010開催

大阪大学・適塾記念会が参画する「阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット（HSN ネット）」による市民向け文化・生涯学習講座「公開講座フェスタ2010」が、11月1日（月）から11月20日（土）まで、「新たな一歩～関西から世界を知る～」をメインテーマに「さいかくホール」（大阪府新別館北館1階）において開催されました。



本学と適塾記念会は、11月4日（木）に「ドイツ人が見た江戸時代の関西」と題して中直一言語文化研究科教授が講演を行い、元禄時代に来日したドイツ人医師ケンペルが残した京都・大坂の興味深い記録の紹介がありました。

約120名の受講者が熱心に聴講し、大変盛況な講座となりました。

（企画部広報・社会学連携事務局）

平成22年度 適塾記念講演会開催

適塾顕彰事業の一環として毎年開催している適塾記念講演会が、今年も本学と適塾記念会との共催で、11月24日（水）に大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホールにおいて開催されました。

緒方洪庵生誕200周年の年である今年の講演会は、その記念講演会として「洪庵の学問を育んだもの」をテーマに、大阪大学創立80周年記念事業イベントとしても開催されました。

当日は、鷲田清一総長（適塾記念会会長）の挨拶に始まり、多田羅浩三先生（大阪大学名誉教授・放送大学教授）

が「洪庵の学問を育んだ心」、脇田 修先生（大阪大学名誉教授・大阪歴史博物館長）が「洪庵先生と大坂」と題して講演を行いました。

約190名の受講者は熱心に聴講し、活発な質疑応答が行われました。

また、会場では、適塾記念会の記念事業として進められていた「緒方洪庵全集」が、先日他界された芝 哲夫名誉教授のご尽力により第1巻、第2巻が刊行されたことの報告が行われ、緒方洪庵の業績を再認識する大変有意義な講演会となりました。



多田羅先生による講演



脇田先生による講演

（企画部広報・社会学連携事務局）

ミッションマネジメント研修を実施

大阪大学職員研修「大学に関する諸課題についての研修」の一環として、ミッションマネジメント研修を、11月24日(水)にステューデント・コモンズ セミナー室1で行いました。

本研修は、「意識改革を行うための方策として、本学のモットー及び教育理念を確認したうえで、それぞれの担当部署におけるミッションを検討し、それを実現するための戦略を展開するまでの考え方を学ぶことにより、自立的に考える力を身につける」ことを目的として実施したものです。

本学の事務改革を支援していただいているコンサルタント会社より講師をお招きし、ミッション(=組織理念、存在意義) 戦略(=差別化要因の抽出) 戦略マップ(=戦略実現に向けた改善視点の展開)について、それぞれ講義グループ検討 発表を繰り返すという形式で、進行していただきました。

参加者23名は、あらかじめ6つのグループ(広報・社会学連携、研究推進1・2、国際、情報、教務)に分けられ、その際、メンバー構成を現在の職務内容と同じ職員、異なる職員の混成としたため、多様な視点から活発な議論を行うことができました。また、本来であれば数日を必要とす



る内容でしたが、各々が最大限の集中力を発揮し、一日という短い時間の中で全グループが最後の発表までやりきりました。

受講後のアンケートでは、「業務や自分の役割の再確認ができた。」「現状に落ち着こうという気持ちがあるが、それでは駄目だと改めて理解できた。」「今後の業務に活かしたい。」といった意見が多く、研修の目的が少なからず達成されたと感じられました。

(総務部秘書課PMO準備室)

意識改革に関する講演会を開催

大阪大学職員研修「大学に関する諸課題についての研修」の一環として、意識改革に関する講演会を、11月26日(金)にコンベンションセンターMOホールで開催しました。

本講演会は、「職員が、大学の理念を理解・共有し、教員と共にミッションを達成していく存在となるための意識改革を行う」ことを目的として実施したものです。

講師には学校法人関西大学理事・法人本部長の五藤勝三



氏をお招きし、「大学事務職員という仕事 ~私学事務職員の業務への取り組みと人材育成の例~」と題し、関西大学における業務への取り組み、人材育成などについてご講演いただきました。

講演会では、五藤氏の豊富な経験に基づく仕事の取り組み、その時々の仕事に対する姿勢や気持ちを、多くの事例を交えながらお話しいただきました。また、仕事の先には学生がいることを意識すること、コミュニケーションの重要性、大学職員として心がけたいことなど、大学職員にとって大切なことを熱く伝えていただきました。

アンケートでは、「どのポジションにいても努力を続けていかなければならないと感じた」「学生のためにどうしていくかという意識改革につながった」「働く中で目的を持つこと、コミュニケーションを図ることの必要性が理解できた」「専門職業人(プロフェッショナル)への意識転換が必要だということがわかった」といった非常に前向きな意見が多く、この講演会が参加者(180名)にとって、非常に有意義なものとなったことが伺えました。

(総務部秘書課PMO準備室)

「業務改善アイデア賞」表彰式開催

「業務改善アイデア賞」表彰式が11月22日(月)、総長室において行われました。

これは、「国立大学法人大阪大学における業務改善方法の公募及び表彰に関する要項」及び「業務改善アイデア公募要領」に基づき、本学教職員から業務改善の提案を募り、本学における業務の効率化の促進を図るとともに、優れた提案を行った教職員に対し「業務改善アイデア賞」を授与することにより、業務改善への参画意識を高めることを目的とするものです。

今回は、平成21年10月から平成22年9月までに応募のあった13件のうち採用が決定された2件の提案に対して業務改善アイデア賞が授与されました。



所属	氏名	提案題名
薬学研究科	宮武 知子	入構証業務の簡素化について
	三吉 範子	
	高岸 美治	
	澤田 智子	
人間科学研究科	越智 学	授業料(入学科)免除申請者の授業料(入学科)債権計算の確認の削減

(所属は提案のあった当時のもの)

表彰式では、鷲田総長、西田理事・副学長(事務改革推進本部長)、尾山理事・副学長(業務改善WG議長)の出席のもと、鷲田総長から表彰状が手渡されました。

なお、今年度も引き続き業務改善に資する提案を募集し

ていますので、総務部総務課事務改善推進室(soumu-soumu-jimukaizen@office.osaka-u.ac.jp)までお寄せください。

(事務改善推進室)

ワニ博士の着ぐるみが完成しました

大学教育実践センターのロゴマークに使用されているイメージキャラクター「ワニ博士」が、更なる広報及び地域貢献活動等に取り組むため、着ぐるみになりました。

11月29日(月)~12月3日(金)に実施されるステューデント・コモンス開設1周年記念イベントでデビューしました。

なお、要件を満たせば貸出し可能となっています。詳細については、大学教育実践センターHPをご覧ください。



工藤大学教育実践センター長とワニ博士

(大学教育実践センター)

総長への表敬訪問

サウジアラビア・King Abdulaziz大学の表敬訪問について

10月6日(水)サウジアラビア King Abdulaziz 大学 Adnan Hamza Zahed 副学長が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、澤芳樹医学系研究科教授も同席し、両大学間の将来的な学術交流協定の締結に向けての懇談が行われました。



右:贈呈品を受けとる辻毅一郎理事・副学長
左:King Abdulaziz大学Adnan Hamza Zahed副学長

ベトナム保健省ら御一行の表敬訪問について

10月12日(火)Trinh Quan Huan ベトナム保健省次官、Nguyen Cong Khan 同省食品安全管理局局長、Le Thi Hop 国立栄養院院長、Pham Ngoc Khai 保健省食品安全衛生専門家育成事業責任者・タイビン医科大学副学長、Dang Bich Thuy 同医科大学講師が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、平田收正薬学研究科副研究科長、山本容正医学系研究科教授、池道彦工学研究科教授、住村欣範グローバルコラボレーションセンター准教授、上田晶子同センター特任准教授、亀岡雄国際部長、江藤靖弘国際交流課長が同席し、主に双方の食品安全衛生の取り組みについて意見交換が行われました。



Huan 次官（前列中央左）をはじめとする
ベトナム保健省訪問団

中国・武漢大学の表敬訪問について

10月14日(木)中国武漢大学 Li Fei 副学長、Tan Guangming 学長補佐・水資源/水力発電エンジニアリング部長、Zhao Shiju 中国語/中国文化部長、Wu Ping 学務部長、Yan Jinzhu 入試雇用事務部長、Li Xiaoshu 国際部次長が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、古川裕言語文化研究科教授、石川真由国際企画推進本部准教授、大谷順子人間科学研究科准教授、亀岡雄国際部長、江藤靖弘国際交流課長、石野隆志学生交流推進課長が同席し、両大学の国際化に向けた対策や手段についてや、両大学間の今後の学生交流の促進について意見交換が行われました。



前列左:辻毅一郎理事・副学長
右:Li Fei 武漢大学副学長

スリランカ教育文化使節団の表敬訪問について

10月26日(火)Bandula Gunawardena スリランカ民主社会主義共和国文部大臣、Senevirtne Ranhoti Gamage Jagath 国立スリジャワルダナプラ大学教授、Galagama Dhammaransi Thero 大統領宗教倫理アドバイザーが、鷲田清一総長を表敬訪問されました。本学からは、辻毅一郎理事・副学長、高橋明世界言語研究センター長、常田夕美子グローバルコラレーションセンター特任助教、亀岡国際部長、石野隆志学生交流推進課長が同席し、本学の学术交流および高等教育について懇談を行いました。その後、現在本学に在籍しているスリランカ民主社会主義共和国からの留学生との懇談を行いました。



前列左：鷲田清一総長
右：Bandula Gunawardenaスリランカ民主社会主義共和国文部大臣

フランス・ストラスブール大学の表敬訪問について

10月28日(木)フランスストラスブール大学 Alain Beretz 学長、Anne Klebes-Pelissier 国際担当副学長、Marie-Claire Lett 生物学部教授・フランス同窓会会長・日仏大学会館館長が、鷲田清一総長を表敬訪問されました。本学からは、近藤滋生命機能研究科教授、和田章男文学研究科教授、林高史工学研究科教授、有川友子国際教育交流センター副センター長、松川正毅高等司法研究科教授、江藤靖弘国際交流課長、石野隆志学生交流推進課長が同席し、ストラスブール大学との今後の大学間協定について懇談が行われました。



写真中央左：Alain Beretzストラスブール大学学長
右：鷲田清一総長

中国教育部・中国大学教職員団の表敬訪問について

11月4日(木)中国天津大学 Zhang Shujun 国際教育学院長をはじめとする教職員団9名と文部科学省の同行員が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは菊野亨国際教育交流センター長、有川友子同副センター長、山内直人国際公共政策研究科教授、石川真由美国際企画推進本部准教授らが出席し、大学の国際化やグローバル30についての意見交換が行われました。また、懇談後には、サポートオフィス、IRISの概要説明及び見学が行われました。教職員団からは、多くの質問が寄せられ、本学への関心の高さが窺われました。



冒頭で歓迎の挨拶をする辻毅一郎理事・副学長

イギリス・リーズ大学の表敬訪問について

11月11日(木)イギリスリーズ大学 Michael James Paul Arthur 学長、Mark Williams 日本学教授、Judith Lamie 国際部長、Adam Getliff 国際プログラムマネージャーが、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、兼松泰男産学連携推進本部教授、米田俊之歯学研究科長、脇坂聡歯学研究科教授、村上伸也歯学部附属病院副病院長、江藤靖弘国際交流課長、石野隆志学生交流推進課長が同席し、将来的な大学間協定の締結に向けての意思確認が行われました。その後、御一行は、歯学研究科および歯学部附属病院、未来医療センターを訪問し、本学の高度先進医療の研究をご覧になりました。



前列左：辻毅一郎理事・副学長
右：Michael James Paul Arthur リーズ大学学長

平成22年秋の叙勲受章者一覧

叙勲

大阪大学名誉教授（元法学部長）	中西正明	瑞宝中綬章
大阪大学名誉教授（元工学部長）	大路清嗣	瑞宝中綬章
大阪大学名誉教授（元基礎工学部長）	辻三郎	瑞宝中綬章
大阪大学名誉教授（元医学部教授）	藤田尚男	瑞宝中綬章
大阪外国語大学名誉教授	吉田秀太郎	瑞宝中綬章
元大阪大学医学部附属病院看護部副看護部長	米谷良美	瑞宝単光章
元大阪外国語大学事務局長	本田虔司	瑞宝小綬章
元大阪大学産業科学研究所事務部長	辰巳賢	瑞宝双光章
元大阪大学工学部事務部長	南岡伸一	瑞宝双光章
元大阪大学医学部附属病院臨床検査部医療技術助手	松本富美子	瑞宝単光章

以上

なお、上記は本学より申請した者に限りますので、ご了承願います。

（総務部人事課）

田中克典助教「第13回日本糖質学会奨励賞」受賞

理学研究科化学専攻の田中克典助教が、「第13回日本糖質学会奨励賞」を受賞しました。本奨励賞は毎年、糖質科学の進歩に寄与する優れた業績を上げ、将来の活躍が期待される化学系と生物系の各1名の若手研究者に対して贈られる賞です。

田中助教の受賞題目は、「N-結合型糖鎖の実用的合成手法と生体内イメージング技術の開拓」であり、(1)新規なデバイスを積極的に活用した力強い糖鎖合成の実現と、(2)革新的結合形成反応を駆使して、生きている動物内で糖鎖を可視化する画期的な成果が評価されました。

授賞式は、平成22年8月1日(日)開催の日本糖質学会総会において行われ、賞状や記念品などが贈呈されました。

なお、受賞講演は、平成23年第30回日本糖質学会年会にて行われる予定です。



左より深瀬浩一教授、田中克典助教

（理学研究科・理学部）

安達悠子さん「IEEE Reliability Society Japan Chapter 学術奨励賞」受賞

人間科学研究科人間行動学講座博士後期課程3年・日本学術振興会特別研究員の安達悠子さんが、平成21年8月24日に開催された電子情報通信学会安全性研究会にて行った発表に対して、2009年度IEEE Reliability Society Japan Chapter 学術奨励賞が授与されました。

この賞は、IEEE Reliability Society Japan Chapterの主催・共催・協賛による国内シンポジウム、研究会において発表されたもののうち、IEEE Transactions on Reliabilityでの情報発信に値する成果をおさめた35歳以下の若手研究者に贈るといふものです。

受賞対象となった発表タイトルは「看護における違反事例の収集と心理的要因の関わり」(共同発表者白井伸之介・篠原一光・松本友一郎)ですが、本研究では155名の現役看護師を対象に、業務中におかした違反の内容と理由を質問紙で尋ね、その発生頻度とリスク評価やベネフィット評価等の心理的要因との関連を明らかにしています。



授賞式ならびに受賞記念講演会は平成22年9月18日(土)に日本大学経済学部にて行われました。

(人間科学研究科・人間科学部)

山本浩二君「Dalton Transactions Award」受賞

基礎工学研究科・物質創成専攻・機能物質化学領域の山本浩二君(博士前期課程2年)が、錯体化学国際会議「60th Anniversary Conference on Coordination Chemistry in Osaka」(大阪国際交流センター、9月27日～30日)においてDalton Transactions Award(イギリス化学会の無機化学部門のジャーナルであるDalton Transactionsから提供された賞)を受賞しました。この賞はポスター賞に選ばれた6名の中から、最も優れた発表者1名に授与された賞です。

山本君の受賞した発表タイトルは“C-H Bond Activation of Heteroaromatic Substrates by a Hafnium Alkyl Complex Bearing a Nitrogen-based Bidentate Ligand”であり、前周期遷移金属アルキル錯体を用いた配位不飽和な錯体の合成法とそれらを用いた複素芳香環化合物の炭素-水素結合活性化の反応性についての最新の内容を発表しました。酸素や水に対して不安定であり取り扱いが難しい前周期遷移金属アルキル錯体の合成にとどまらず、反応の各段階の錯体を単離し構造の決定を行うことにより、反応機構を明らかにした点が高く評価された結果であり、錯体化学や有機金属化学など幅広い分野に影響を与えるとして、学術的に高く評価されました。



表彰は9月29日、シェラトン都ホテルにおける懇親会の中で行われ、錯体化学討論会・国際会議実行委員の本学工学研究科の伊東忍教授から賞状が贈られました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

藤原康文教授、寺井慶和講師、西川 敦助教、古川直樹君
「第32回応用物理学会優秀論文賞」受賞

工学研究科マテリアル生産科学専攻（マテリアル科学コース）結晶成長工学領域 藤原康文教授、寺井慶和講師、西川 敦助教、博士前期課程2年古川直樹君が平成22年9月14日に「第32回応用物理学会論文賞（応用物理学会優秀論文賞）」を受賞しました。

この賞は応用物理学の進歩と向上に多大の貢献をなした優秀な原著論文を対象とし、今回は2008年と2009年に、機関誌「応用物理」、JSAP-International、または「Japanese Journal of Applied Physics」、Applied Physics Express」に発表された大凡5,000編の論文から8編が選ばれました。

受賞の対象となった論文は“Room-temperature red emission from p-type/europium-doped/n-type gallium nitride light-emitting diodes under current injection 無”（A. Nishikawa, T. Kawasaki, N. Furukawa, Y. Terai, and Y. Fujiwara: Applied Physics Express 2, 071004 (2009)）で、有機金属気相エピタキシャル法によるGa_N層へのユロピウム（Eu）添加に成功し、世界に先駆けてEu添加Ga_N層を活性層とする発光ダイオードの室温電流注入発光を実現したことが評価されました。



なお、本研究は科学研究費補助金学術創成研究費「希土類元素添加の精密制御による物性・機能性の開拓」（研究代表者：藤原康文教授）とG-COEプログラム「構造・機能先端材料デザイン教育研究拠点」（拠点リーダー：掛下知行教授）のもとで推進されました。

（工学研究科・工学部）

平田克樹君μTAS国際会議で「Widmer Award」受賞

情報科学研究科バイオ情報工学専攻博士前期課程1年の平田克樹君が、10月にオランダ・グローニンゲンで開催された国際会議「The 14th International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences（通称μTAS 2010）」において、Widmer Awardを受賞しました。この賞は、本国際会議における大学院生のポスター発表の中で、最優秀発表者に授与されるものです。授賞式は10月6日に本国際会議のアワードセレモニーで行われ、賞状とメダルが授与されました。

受賞対象となった研究タイトルは、「Measurement of nonlinear biochemical reaction in microdroplets using the fractal-shaped micro channel」です。化学や生化学の分析・計測機器を微細化し、オンチップで行うマイクロ流路システムの研究が注目を浴びて久しいですが、本研究は、マイクロ流路中における反応の経時変化を効率的に観測するための技術開発です。反応物質がマイクロ流路中を一定速度で流下する場合、流路の位置が反応時間に対応します。流路形状をフラクタル様にすることで、様々なタイムスケールに対応した反応経時計測が簡便になり、非線形反応の高解像度検出も可能になります。本研究の成果は、今後様々



なマイクロ流路をベースとした反応計測機器に応用される可能性を秘めています。

参照 URL: <http://www.microtas10.org/>

（情報科学研究科）

林田雅至教授「メリト勲章」受章

コミュニケーションデザイン・センター、コミュニティ部門の林田雅至教授が、ポルトガルと日本の友好に貢献したとしてポルトガル大統領からメリト勲章を授与されました。今回の授章は、(1) 過去30年余年にわたるポルトガル語・文学などの教授(高等教育機関など)(2) ポルトガル文化を代表する装飾絵タイル(アズレージョ)研究:ポルトガル国立アズレージョ博物館と国際共同研究によるカモンイス研究機構監修『ポルトガルの装飾絵タイル・アズレージョ芸術』(2001年)翻訳出版(3) 石見銀山世界遺産登録プロジェクト(限界集落大森町復興支援)における歴史文献調査(近世ポルトガル語による貿易文書史料発掘及び分析調査ならびに石見銀山特別展監修)、1997-2007年(4) 欧州言語検定試験制度(ポルトガル語)責任者(大阪)(5) 国際交流基金による招聘ポルトガル文化人との学術交流事業等、林田教授の長年にわたる教育研究、社会学連携活動が評価されたものです。また、今年は日本ポルトガル修好条約150周年にあたり、記念事業委員会には、本学から鷲田清一総長、国際公共政策研究科星野俊也教授とともに



勲章を受けた林田雅至教授(左)
右はジョアン・ペドロ・ザナッティ駐日ポルトガル大使
林田教授が参加しています。10月25日には、東京の駐日ポルトガル大使公邸で授与式が行われ、林田教授夫妻及び鷲田総長代理として金水敏コミュニケーションデザイン・センター長が出席しました。

(コミュニケーションデザイン・センター)

石水毅講師「日本生化学会奨励賞」受賞

理学研究科化学専攻(有機生物化学研究室)の石水毅講師が、日本生化学会奨励賞を受賞しました。この賞は、昭和30年に創設された伝統ある賞で、生化学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、なお将来の発展を期待しうる40歳未満の研究者に授与されるものです。

受賞対象になった研究は「植物N-結合型糖鎖の分解機構の解明」です。石水毅講師は、植物の受精を制御する自家不和合性に関わる糖タンパク質に、特異な構造のN-結合型糖鎖を発見しました。この糖鎖の生成機構の考察から、未同定の糖鎖分解酵素があることを予見し、ユニークな特異性をもつ酵素を発見しました。そして、この酵素が関与する植物特有の糖鎖分解経路があることを世界に先駆けて報告しました。さらに、糖鎖分解が単なる代謝過程でなく、植物成長に重要であることを示しました。糖鎖構造の発見から、未同定酵素の発見、糖鎖分解経路の解明、植物工学へと発展を見せています。今回の受賞はこれらの成果と将来性が高く評価されたものです。

授与式は10月25日(月)に東京大学で開催された日本生



化学会総会において行われました。受賞講演は12月9日に神戸ポートアイランドで開催された第33回日本分子生物学会年会・第83回日本生化学会大会合同大会において行われました。

(理学研究科・理学部)

森浩亮講師、北河康隆助教「第4回PCCP Prize」受賞

工学研究科マテリアル生産科学専攻の森浩亮講師と、理学研究科化学専攻の北河康隆助教が、「第4回PCCP Prize」を受賞しました。PCCP Prizeは、英国Royal Society of Chemistry、PCCP (Physical Chemistry Chemical Physics) and Faraday Discussion が制定 (日本化学会に選考を委託) した賞で、日本化学会会員の中でも、物理化学、光化学、理論化学、触媒化学、電気化学、コロイド・界面化学、ナノテク・材料、分析化学などPCCPがカバーする領域で傑出した研究成果があり、将来の活躍が期待される若手研究者に贈られる賞です。本年は計3名の受賞者のうち、大阪大学から2名が受賞しました。

受賞題目はそれぞれ、「Precise Architecture of the Highly Active and Selective Nanostructured Heterogeneous Catalysts and Photocatalysts」(森) および「Quantum Chemical Studies of Polynuclear Metal Complexes: Molecular Structures, Electronic Structures and Properties」(北河) で、日本化学会第90回年会会期中に、それらの成果の一部が発表されました。



左端：森講師、右端：北河助教
Richard Pike 博士、岩澤康裕日本化学会会長らとともに

なお、授賞式は、年会の国際シンポジウムレセプションにおいて行われ、賞状や記念品などがRoyal Society of Chemistry, Chief Executive, Richard Pike 博士より贈呈されました。

(工学研究科・工学部、理学研究科・理学部)

岩崎俊樹君「日本材料学会第10回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム優秀論文賞」受賞

工学研究科地球総合工学専攻社会基盤設計学領域博士前期課程1年の岩崎俊樹君が、10月29日に京都で開催された日本材料学会第10回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウムにおいて論文発表を行い、優秀論文賞を受賞しました。

受賞対象となった論文タイトルは、「衝撃応答解析を援用した衝撃弾性波法に基づく道路橋切り出しRC床版の水平ひび割れの評価手法」です。この研究では、評価の対象となる部材を模擬したモデルに対して、解析を用いて構造物での非破壊計測の種々の条件をあらかじめ決定し、得られた条件下で精度の高い推定結果を得る画期的な手法を提案しました。非破壊試験と解析を併用してコンクリートの内部欠陥を検出する方法に関する提言が、従来のプロセスとは異なる斬新なアイデアであり、欠陥検出性能の向上に貢献できる点が、特に高く評



価されました。

なお、本研究は、国土交通省道路局 新道路技術会議 技術研究開発プロジェクト「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(研究代表者：鎌田敏郎教授)と文部科学省科学研究費補助金 若手研究(スタートアップ)「弾性波シミュレーションを組んだ次世代型コンクリート非破壊欠陥探査システムの開発」(研究代表者：内田慎哉特任助教)のもとで推進されました。

(工学研究科・工学部)

熊ノ郷淳教授「第28回大阪科学賞」受賞

免疫学フロンティア研究センター／微生物病研究所（医学系研究科呼吸器・免疫アレルギー内科学招へい教授）の熊ノ郷淳教授が、第28回大阪科学賞を受賞しました。受賞理由は「免疫セマフォリン分子群の同定による新規免疫制御機構の研究」です。表彰式は10月29日（金）大阪科学技術センターで行われ、表彰式と受賞講演の様子はNHKニュースでも放送されました。

大阪科学賞（Osaka Science Prize）は、理学、情報科学、工学、医学、薬学、生物学、農学とそれらの学際的な分野において、科学および新技術の発展に著しく寄与した研究者を毎年2名選り表彰する1983年に創設された賞です。

セマフォリンは、神経ガイダンス因子とされてきた分子群ですが、熊ノ郷教授は世界で初めて免疫系で必須のセマフォリン Sema4D の存在を明らかにするとともに、その後も免疫に関わるセマフォリンを次々と発見しています。現在セマフォリンは種々の病気の鍵分子であることが明らかになり、新たな創薬ターゲットとしても注目を集めています。更に熊ノ郷教授は、最新の可視化技術により、免疫細



胞が体内を移動する際にセマフォリンがナビゲーター役を果たしていることを発見しています。熊ノ郷教授の研究によって、免疫細胞やがん細胞の「動き」を標的とした新しい治療法・薬剤開発が期待されています。

（免疫学フロンティア研究センター）

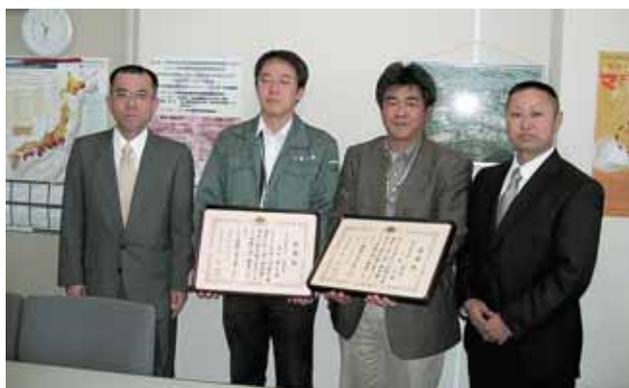
広島刑務所から「感謝状」を頂きました

10月29日（金）、安全衛生管理部の山本教授、富田講師が広島刑務所から感謝状を授与されました。

昨年来、広島刑務所における作業現場の巡視や、安全教育における意見交換、そして、広島県において行われた第44回管内職員矯正研究会における広島刑務所作業部門からの発表「現場の視点に立った安全管理の重要性～教育と矯正の比較によるアプローチ～」について協力を行ったことから、“刑務作業運営に対し深い御理解と多大な御支援を寄せられその功績は誠に顕著である”として感謝状を頂きました。

この一連の活動は、安全衛生管理という観点から意見交換が始まり、相互の巡視、現場見学等を行って来ました。客観的に関連性がないとされる刑務所と大学という各組織体において、安全衛生を比較、検証することで、相互に共通する「現場目線からの安全管理、運営」に係る認識を考察し、特に安全教育に必要なことは何なのかをお互いに意見を出し合いながら、推敲し、現場での実施、研究発表に至ったものです。

我々も、改めて現場の大切さを感じることができ、大変実りのある交流となりました。今後もこういった交流を通じ、大学のため、そして社会のために貢献できればと思っています。



（安全衛生管理部）

第4回^{かきみ}高賞授与式挙行

情報科学研究科では、11月4日(木)に第4回高賞授与式を行いました。

この高賞は、故嵩忠雄先生の業績を記念し、若手研究者育成の一助として、本学で博士の学位を取得した優秀な若手研究者を表彰するもので、情報科学研究科長が実施責任者となり、大学院基礎工学研究科の協力を得て、大阪大学後援会の助成のもとで実施している事業で、今回が4回目の表彰となりました。

高賞の選考は、平成22年7月と8月に開催した選考委員会において慎重に審議され、情報科学またはシステム科学の分野における、実用化を見通した基礎理論の確立、基礎的分野の問題に関する優れた成果、問題に対する鋭い洞察に基づく解法、あるいは将来的にこれらに結びつく可能性のある研究を行ったこと等を総合的に評価した結果、3名の本研究科出身者（荒瀬由紀 Microsoft Research Asia 研究員、更田裕司 東京大学生産技術研究所助教、小泉佑揮 情報科学研究科助教）が選出されました。



左から菊野亨教授（高賞選考委員会委員長）、小泉助教、更田助教、今瀬研究科長
荒瀬さん海外在住のため、授賞式欠席

表彰式では、今瀬真研究科長から表彰状と記念品の授与が行われ、参列者一同が、受賞者を祝福しました。

（情報科学研究科）

渡邊翔大君「第49回NMR討論会 優秀若手ポスター賞」受賞

大学院基礎工学研究科システム創成専攻電子光科学領域博士課程前期2年渡邊翔大君が、平成22年年11月に開催されました第49回NMR討論会において優秀若手ポスター賞を受賞しました。この賞は、ポスター発表および口頭発表において優れた研究結果の発表に授与されるものです。

受賞対象となった研究は「地磁気NMRを用いたボトル内液体物の検査」です。本発表では、核磁気共鳴に地磁気を利用したユニークな方式を用いたNMR装置を開発し、アルミ缶等の光が透過しない容器において内容物検査が可能であることについて報告し、研究のユニーク性、また将来性を高く評価されました。



（基礎工学研究科・基礎工学部）

林結希子さん「第98回有機合成化学シンポジウム優秀ポスター賞」受賞

基礎工学研究科・物質創成専攻・機能物質化学領域・有機金属グループの林結希子さん（博士後期課程1年）が、第98回有機合成化学シンポジウムで優秀ポスター賞を受賞しました。

林さんは“亜鉛四核クラスターの配位子効果の検討による反応機構研究”のタイトルで口頭発表とポスター発表を行いました。同グループにより開発された亜鉛四核クラスターは、エステル交換反応の優れた触媒となるだけでなく、アミノ基を保護することなく水酸基のみをアシル化できるという特異な化学選択性を持つ触媒です。今回の発表では、この亜鉛四核クラスターを用いる触媒反応機構解明の一貫として亜鉛の配位子効果を検討し、エステル交換反応においては基質の同時活性化による協奏的反応が強く示唆される結果を得ています。

さらに、エステル交換反応とエステル-アミド交換反応において基質活性化の反応機構が異なることを見出し、本触媒の最大の特徴といえる水酸基選択性についても反応機構を解明する上で重要な知見を得ることに成功しました。



本研究は学術的興味にとどまらず、企業からの関心も大きく今回の受賞につながりました。

（基礎工学研究科・基礎工学部）

森教授「平成22年度日本医師会医学賞」受賞

医学系研究科外科系臨床医学専攻の森正樹教授が、平成22年度日本医師会医学賞を受賞しました。

森教授は消化器外科医として診療と教育にあたる一方、難治性消化器癌の治療法開発研究にあたっています。癌がなぜ難治であるかとの問題に癌幹細胞の概念を導入し、研究を推進しています。現在までにヒト大腸癌、肝臓癌を始めとする消化器癌に癌幹細胞が存在することを世界で初めて示し、これらは腫瘍形成能、多分化能、抗癌剤耐性能を示すことを明らかにしました。肝臓癌、大腸癌の癌幹細胞の特異的マーカーをそれぞれに同定し、これを治療標的すると、従来より格段に治療成績が上がることを示しました。さらに、癌幹細胞にiPS遺伝子を導入すると癌細胞の類正常化が起こることより、癌の新規治療法の一つになる可能性を示しました。これらの成果は消化器癌の治療にブレイクスルーをもたらすことが期待されるため、平成22年度日本医師会医学賞を授与されることになりました。



（医学系研究科・医学部）

新部局長紹介

芹澤成弘 (せりざわ しげひろ)

社会経済研究所長



【略歴】

- 昭63. 3 筑波大学第一学群社会学類卒業
- 平 5.10 Ph.D. (経済学) (ロチェスター大学)
- 5. 4 大阪大学助手社会経済研究所
- 6.10 滋賀大学講師経済学部
- 9. 4 滋賀大学助教授経済学部
- 11. 4 東北大学助教授大学院経済学研究科
- 16. 4 大阪大学教授社会経済研究所
- 21. 4 大阪大学社会経済研究所副所長 (~平22.9)
- 22.10 大阪大学社会経済研究所長 (~平24.3)

新教授紹介

今田勝巳 (いまだ かつみ)

大学院理学研究科



【略歴】

- 昭62. 3 大阪大学理学部高分子学科卒業
- 平元. 3 大阪大学大学院理学研究科高分子学専攻博士前期課程修了
- 4. 3 大阪大学大学院理学研究科高分子学専攻博士後期課程修了
- 4. 4 財団法人高輝度光科学研究センター
- 5.11 松下電器産業株式会社中央研究所
- 9.10 科学技術振興事業団
- 14. 4 大阪大学助教授大学院生命機能研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院生命機能研究科
- 22.10 大阪大学教授大学院理学研究科

所 属：大学院理学研究科高分子科学専攻高分子凝集系科学講座
 専門分野：生体高分子構造、生物物理学

高原淳一 (たかはら じゅんいち)

大学院工学研究科



【略歴】

- 平 2. 3 大阪大学基礎工学部電気工学科卒業
- 4. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士前期課程修了
- 4. 4 日本学術振興会特別研究員(DC) (平7.3まで)
- 7. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士後期課程修了
- 7. 3 博士(工学) (大阪大学)
- 7. 4 大阪大学助手基礎工学部
- 9. 4 大阪大学助手大学院基礎工学研究科
- 15. 4 大阪大学助教授大学院基礎工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院基礎工学研究科
- 22.10 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科精密科学・応用物理学専攻応用物理学講座
 専門分野：ナノフォトンクス

新教授紹介

藤 崎 泰 正 (ふじさき やすまさ)

大学院情報科学研究科



【略歴】

- 昭61. 3 神戸大学工学部システム工学科卒業
- 63. 3 神戸大学大学院工学研究科システム工学専攻修士課程
修了
- 63. 4 株式会社神戸製鋼所電子技術研究所研究員
- 平 3. 4 神戸大学助手工学部
- 6. 4 博士(工学)(神戸大学)
- 8. 4 神戸大学助教授工学部
- 19. 4 神戸大学准教授大学院工学研究科
- 22. 4 神戸大学准教授大学院システム情報学研究科
- 22.10 大阪大学教授大学院情報科学研究科

所 属：大学院情報科学研究科情報数理学専攻
計画数理学講座

専門分野：制御工学、システム工学

小 口 多美夫 (おぐち たみお)

産業科学研究所



【略歴】

- 昭58. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了
- 58. 3 理学博士(東京大学)
- 58. 5 ノースウェスタン大学物理天文学科助手
- 61. 4 科学技術庁金属材料技術研究所研究員
- 平 5. 8 広島大学助教授理学部物性学科
- 8. 8 広島大学教授理学部物性学科
- 10. 4 広島大学教授大学院先端物質科学研究科
- 22. 8 大阪大学教授産業科学研究所

所 属：大阪大学産業科学研究所附属産業科学
ナノテクノロジーセンターナノ機能予
測研究分野

専門分野：物性理論

芝哲夫名誉教授(理学研究科)逝去



本学名誉教授芝哲夫先生は、平成 22 年 9 月 28 日(火)にご逝去されました。享年 86 歳でした。

芝先生は、昭和 21 年 9 月大阪帝国大学理学部化学科を卒業後、昭和 24 年に同大学院理学研究科を修了され、昭和 25 年に大阪大学理学部助手となり、助教授を経て、昭和 46 年に教授に就任し、天然物有機化学講座を担当されました。昭和 63 年 3 月停年により大阪大学を退官され、大阪大学名誉教授となりました。同年 4 月からは、財団法人・蛋白質研究奨励会理事、同ペプチド研究所所長としてご活躍されました。

芝先生はアミノ酸・ペプチドから糖質、脂質に及ぶ広範な天然物有機化学の領域において卓抜した多くの独創的成果を挙げました。中でも細菌複合糖質の免疫活性化作用に関する研究において、世界で初めて活性本体の化学的解明に成功されるなど、自然免疫機構について分子レベルの研究の礎を築かれました。これらの業績に対して、昭和 57

年に日本化学会賞、昭和 62 年 9 月には米国 NIH からフォガティー賞が授与されました。

また芝先生は、日本の科学の黎明期の歴史について多くの調査研究を行われました。大阪大学の適塾記念会の理事を務められ、適塾建物の修復再建に貢献し、緒方洪庵とその門下生に関する業績の調査、研究、顕彰を続けられました。また明治初年オランダ人化学者ハラタマ博士によって大阪に開かれた舎密局の歴史の顕彰を行うなどの蘭学研究を進められ、日本とオランダの友好に尽くした功績により、平成 13 年にはオランダ王国よりオラニエ・ナッソウ勲章が授与されました。

これらの生物有機化学研究、適塾研究、日蘭文化交流など数々のご業績により、平成 17 年には大阪文化賞を受賞されました。

大学行政や大学の管理運営のみならず、文部省学術審議会専門委員や日本学術会議会員として、わが国の科学教育や科学行政に大きく貢献されました。日本化学会副会長、同近畿支部長などを始め、多数の学協会の理事や評議員を歴任され、ペプチド学会、糖質学会、国際内毒素学会など国内外の学会の創設にもご尽力されるなど、学術の発展にも多大な貢献をされています。

芝先生は、学生の教育及び研究指導に極めて熱心で、数多くの門下生を育てられました。また退官後も、多くの講演会や講義をご担当いただき、本年 11 月刊行の『緒方洪庵全集第 1 巻・2 巻』の編集にもご尽力をいただくなど、本学に多大な貢献をされました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

(理学研究科・理学部)

第4回大阪大学・京都大学・神戸大学連携シンポジウム 21世紀を“みず”と暮らす

毎年新春に3大学が連携して開催しているシンポジウムです。

今回は、大阪大学が幹事校となり、『21世紀を“みず”と暮らす』をメインテーマとして開催します。

本シンポジウムでは、さまざまな“みず”の問題を理解し、人と“みず”の関係を深く考える契機とすることで、かつての人と水との密な関係を取り戻し、さらに、より良いものとしていく方向を参加者の皆さんと一緒に探りたいと考えています。

琵琶湖 淀川という日本最大の流域圏、灘の宮水や京都の伏水で知られる豊かな地下水、市民とともに水都復興を目指す大阪、それらを要する関西地区3大学にふさわしいテーマとして企画しました。

【日 時】平成23年1月21日(金) 13:00 ~ 17:30

【場 所】大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール

- プログラム -

3大学の総長・学長挨拶

基調講演「水なくして生命(いのち)なく、水なくして文化(くらし)なし」

川那部 哉(滋賀県立琵琶湖博物館前館長、京都大学名誉教授)

話題提供・総合討論「持続する“みず”と人の関係を目指して～現在過去未来～」

司 会：池 道 彦(大阪大教授)

話題提供者：田中丸 治 哉(神戸大学教授)

藤 井 滋 穂(京都大学教授)

白 井 大 造(大阪市水道局長)

内 貴 研 二(サントリーホールディング㈱エコ戦略部長)

小 浦 久 子(大阪大学准教授)

古武家 善 成(神戸大学客員教授)

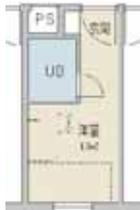


プログラムの詳細・参加登録等はシンポジウムホームページ (<http://www.3univ.jp/>) をご覧ください。

この三大学連携シンポジウムは、京都大学、大阪大学、神戸大学が相互に連携して科学技術、文化・芸術等の振興に関する共同教育・研究事業としてシンポジウムを実施することにより、高度な研究者及び技術者の人材育成に貢献し、もって関西地域の活性化に資することを目的として、平成19年度から平成24年度に至る6年間にわたって大阪大学、京都大学、神戸大学の順に幹事となり輪番で実施しているものです。

Osaka University Kasugaoka House

外国人研究者長期宿泊施設				
type-A	type-B		type-C	
家具・家電付き	家具・家電なし	家具・家電付き	家具・家電付き	宿泊料
¥70,000/月 ¥28,000/週	¥100,000/月	¥120,000/月 ¥52,500/週	¥180,000/月 ¥77,000/週	
セミダブルベッド 1 机 1、イス 1		ダブルベッド 1 机 1、イス 1 テーブル 1、イス 4 ソファ 1 AVボード 1	ダブルベッド 1 シングルベッド 1 机 2、イス 2 テーブル 1、イス 6 ソファ 1 AVボード 1	家具
オープンレンジ トースター テレビ (26インチ) 冷蔵庫・電気ポット 洗濯機・掃除機 アイロン・ドライヤー	食器洗い乾燥機	オープンレンジ トースター 食器洗い乾燥機 テレビ (32インチ) 冷蔵庫・電気ポット 洗濯機・掃除機 アイロン・ドライヤー	オープンレンジ トースター 食器洗い乾燥機 テレビ (37インチ) 冷蔵庫・電気ポット 洗濯機・掃除機 アイロン・ドライヤー	家電
食器・調理器具 傘立て・ゴミ箱		食器・調理器具 傘立て・ゴミ箱	食器・調理器具 傘立て・ゴミ箱	雑貨
25	4	12	4	室数
23年4月 7室	23年4月 2室	23年4月 7室	23年4月 4室	←空室数 平均稼働率→
32㎡	65㎡		97㎡	面積
				間取り
外国人研究者 阪大病院患者・家族 本学医員・研修医				利用資格
中庭(1F) スカイ・ガーデン(3F)				専用施設
入居者が直接契約、支払い				光熱水 電話 インターネット
敷金・礼金 なし 退去時にリフォーム、クリーニングが必要にたつた場合はご負担いただきます				その他
入居期間と同日数前からオフィスにてメールで受付 mail <kasugaoka-house@ml.office.osaka-u.ac.jp>				予約

研究者等短期宿泊施設
type-S
<hotel type>
¥3,000/1泊
シングルベッド 1
机 2、イス 2
ズボンプレス機無料
テレビ (17インチ) 冷蔵庫・電気ポット 共用洗濯機無料 アイロン・ドライヤー
アメニティ有料販売 浴衣有料レンタル
21
75% (22年9月実績)
12㎡

シングルルーム
日本人・外国人研究者 阪大病院患者・家族 本学・他機関職員
ラウンジ (簡易キッチン有)
宿泊料を含む フロント直通電話のみ 利用可 (無料)
check in 15:00~ check out ~10:00
1ヶ月前から ホームページにて受付→

map



access

- ◆ 大阪モノレール 彩都線 stNo. 52阪大病院前 徒歩5分
- ◆ 阪急バス 千里中央発 阪大医学部病院前 徒歩5分
- ◆ 近鉄バス JR茨木駅・阪急茨木市駅発 阪大病院前 徒歩5分

front desk

phone 072-626-6228 fax 072-627-1337

office

大阪大学本部事務機構 施設部企画課専門職員
mail <kasugaoka-house@ml.office.osaka-u.ac.jp>
phone 06-6879-7948 fax 06-6879-7139



homepage

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/facilities/BandB/kasugaoka_house/index.html>

記念講義

平成23年3月31日限りで定年等により退職される教授の記念講義を、日程等が決まったものについてお知らせします。

部局（講座・部門等）	氏名	日時・場所	講義題目
法学研究科	末永敏和	平成23年1月28日（金） 10時30分～12時 法経講義棟2番講義室	私の商法遍歴
国際公共政策研究科	高阪章	平成23年2月18日（金） 13時～14時30分 国際公共政策研究科 講義シアター（2階）	Money and Capital: We're Not in Kansas Anymore
生命機能研究科 （生体ダイナミクス講座 非平衡物理学研究室）	木下修一	平成23年3月11日（金） 17時～18時 生命機能研究科ナノバイオロ ジー棟3階セミナー室	「光と緩和の揺らぎ」

訂正とお詫び

阪大NOW No.120（2010年10月号）の掲載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正するとともにお詫び申し上げます。

P.15 「役員室だより」の『平成22年度卒業式・学位授与式』本文中
3行目（誤）平成22年3月25日 （正）平成23年3月25日



INTERVIEW

北野 有希子

歯学研究科業務課医事係

歯学研究科業務課医事係の北野さんは、声楽家の顔を持っています。クラシック音楽のソプラノ歌手としてどのような活動をされているのか、お話を伺いました。ちなみに、好きな言葉は「継続は力なり」。

声楽を始めたきっかけは？

母親から、「産声がすごく大きく、産声を聞いたときから、この子は声楽の道にすすむと思っていた」と幼いころから言われていたことや、たまたま、近所に大学で歌を教える先生がおられ、その先生の下で中学2年生から指導を受け始めたことがきっかけとなった。

中高時代は水泳部に所属。水球で全国大会に出場するほどの活躍と並行して、歌のレッスンは続いた。

大学は音楽学部の声楽専攻に進み、本格的な指導を受けた。しかし、音楽学部に進んだからといって誰でも舞台上で活躍できるわけではない。「良い成績を修めないと演奏会に出演できなかったのが、すごくがんばりました。最後には一番をとって学校代表で演奏会に出演することができました。」

卒業後は大阪大学大学院工学研究科の非常勤職員として勤める傍ら、オペラの研修生としてレッスンを継続し、様々な演奏会やオペラに出演するなどしてきた。

仕事と声楽

昨年、試験を受けて常勤職員になったことで、環境と考え方に変化があった。「以前と比べると、なかなか練習時



間のやりくりが難しくなりました。職員として、仕事に対する責任が増したと同時に、やりがいや自信も増しました。新たな環境で、自分が歌を続けることの意味を問い直すことになりました。」

昨年の歯学部附属病院で行ったコンサートでは、訪れた観客の方が涙しながら自分の歌を聴いている姿が見えたときに、改めて歌の素晴らしさ、自分の歌を続ける意味を感じ、「大きな舞台でなくても自分の歌に感動してくれる人に歌を届けたい」と素直に考えられるようになった。

音楽学部出身の事務職員というのは珍しい。しかし、自分ならではの違った視点があるはずだと考え、音楽を長年続けてきたこだわりを仕事にも活かしている。だからこそ、歌の活動に取り組んでいる姿を多くの人に知ってもらうことについては前向きにとらえている。

これから

声楽の魅力について尋ねると、「人の心に一番響くのは人の『声』であり、人の声が音楽として相手に届くことが声楽の魅力だと思っています。」と説明してくれた。

今後も、自分の「声が届く距離」を大切に、仕事と両立させながら、様々な演奏会に出演したり、学内はじめ、学外の病院や老人ホームなどの施設で歌う活動も計画している。「舞台でたくさんの拍手も良いですが、聴きたいと思ってくれる人、喜んでくれる人に直接歌を届けられる機会を大事にしたいですね。」

上海教育研究センター開所式とその他の活動について

上海教育研究センター長 末 永 敏 和(法学研究科)

平成22年2月1日(月)に開所されました上海教育研究センターの業務は、1. 中国からの優秀な留学生、及び本学学生の中国への留学支援、2. 中国の大学等との研究交流の支援、3. 中国における本学の教育研究上のプレゼンス向上のための広報及び情報収集、4. 中国内の大阪大学同窓会の活動支援を主要内容としています。開所後間もなくの3月21日(日)に、辻理事・副学長(国際交流担当)をお迎えし、上海に在住する大阪大学及び旧大阪外国語大学卒業生をお招きして、センター内で仮開所式及び祝宴を挙行了しました。

上海教育研究センター開所式



仮開所式のちょうど7ヵ月後の10月21日(木)に、上海教育研究センター近くにあるホテル「衡山賓館」において、センター開所式、講演会、レセプションを開催しました。出席者は、中国の大学では、遠くは大阪大学の学術交流協定締結校である北京大学、西安交通大学、武漢大学の外事弁公室代表、及び上海の著名大学の学長、副学長、さらには日本のJSPS(日本学術振興会)等、在中国日本教育関係機関代表、在上海日本国総領事館、大阪府、大阪市現地事務所の代表、大阪大学・大阪外国語大学OB等130名程度であり、日中関係の微妙な情勢の中、予定通り式典を挙行できたのは幸いでした。また、式典には、かつて海外拠点の設置に尽力された4名の名誉教授も日本から招待されました。

以下、式次第に従って開所式の模様を紹介します。

- 1 15:00 ~ 15:45 開所式典
(司会・大谷順子人間科学研究科准教授)
辻理事・副学長の開会の辞に続き、鷲田総長から大阪大

学を代表して上海教育研究センターの正式開所の挨拶がなされました。続いて、上海センターが出張所の名義を借りており、大阪大学と最も縁の深い中国の大学である上海交通大学のZHANG副学長、及び本開所式を機会に本学と学術交流協定を締結する同済大学のDONG副学長から祝辞をいただきました。祝辞は引き続き、名古屋大学・渡辺副総長、大阪府上海事務所・田中所長からもいただきました。最後に、平松大阪市長からのメッセージ代読がありました。

- 2 15:50 ~ 17:10 記念講演会
(司会・石川真由美国際企画推進本部准教授)

開所式記念講演会として、総長を始め、文科系、理科系を代表して、以下の2名の教授が講演を行いました(日中同時通訳)。

まず、鷲田清一総長から「大阪大学の原点と未来」と題して講演がありました。ここでは、大阪大学の歴史と未来が分かりやすく、かつ力強く示されました。続いて、山内直人国際公共政策研究科教授による、「相互理解を深めるために - 日中共同世論調査からみた意識変化」では日中間の意識の違いが分かり、双方に意義のある報告がなされました。斗内政吉レーザーエネルギー学研究センター教授から、「テラヘルツが拓く新しい架け橋」について講演があり、テラヘルツが将来的に無限の可能性を持っていることが分かりました。それぞれ興味深い内容で、出席者に感銘を与えました。

- 3 18:00 ~ 20:00 レセプション
(司会・古川裕言語文化研究科教授)

記念講演会終了後、レセプションが開始されました。まず、片山文学研究科長から開会の辞の後、改めて鷲田総長から挨拶があり、その後、上海外国語大学 CAO 学長、華東師範大学 LUO 副学長からそれぞれ祝辞をいただき



鏡開き

ました。

続いて、壇上で鏡開きがありました。登壇したのは、総長、辻理事・副学長、



「和響」による和太鼓演奏

招待された4名の名誉教授、出席された上海の各大学の学長、副学長、それに上海教育研究センター長でした。さらに、乾杯（発声は濱口智尋名誉教授）の後、歓談に移りました。

しばらくの歓談後、余興として、上海在住日本人を中心としたボランティアグループ「和響」による和太鼓演奏が盛大に行われました。グループの1人は阪大OB（元中国人留学生）でした。最後に上海教育研究センター長より閉会の挨拶があり、一本締めをして、盛会のうちにレセプションは無事終了しました。

上海交通大学との学術交流セミナー、同済大学との学術交流協定調印及び中国国際教育展出展

翌22日(金)・23日(土)は、上海交通大学において第15回大阪大学・上海交通大学学術交流セミナーが開催され、22日のオープニングセッションには、驚田総長、辻理事・副学長など両大学から100名を超える関係者が参加しました。総長は開会挨拶、辻理事・副学長は大阪大学の国際交流についての報告をされました。その後は、各分科会に分かれて熱心な報告討論が行われました。なお、来年のセミナーは、創立80周年を迎える大阪大学において、ゴールデンウィーク中に行われることが確認されました。

また、同日午後には、上海市内の同済大学を訪問し、両大学長により大学間学術交流協定及び学生交流覚書の調印式が行われました。同済大学は、上海では復旦大学、上海交通大学と並ぶ中国有数の著名大学であり、同大学からは大阪大学に対して熱いエールが寄せられました。なお、この調印式とその後の夕食会には前述の大阪大学名誉教授の先生方も参加されました。



大阪大学ブース

を出展し、2日間で100人を超える学生・保護者の留学相談に対応しました。

更に、23日(土)・24日(日)は、上海東亜展覽館を会場に開催された中国国際教育展に本学のブース

上海教育研究センターのその他の活動

上海教育研究センターは、土日を除く毎日、現地時間（日本との時差1時間）午前8時半から午後5時15分まで業務を行っています。現地スタッフの姜曉燕さんが、常駐して、電話での問い合わせや訪問者に日本語と中国語で対応しています。センター長は出張ベースで執務しており、出張は原則月2回、1回5日程度です。

センター長が出張したときは、協定大学の外事オフィスへの訪問、上海の有力大学へのご挨拶やこれからの協力関係に向けての話し合いをしています。OB会への出席や大阪府・大阪市の上海事務所、在上海日本国領事館等、日本関係の事務所や上海にある日本の大学の出張所を訪問することもあります。

また、海外拠点本部の下に、山内教授（国際公共政策研究科）を座長、古川教授（言語文化研究科）を副座長として、文系・



留学説明会の様子

理系、及び国際部から13名の教職員を委員とした上海教育研究センター支援WGが発足し、協力・連携を得ながら諸活動を積極的に実施しております。

これまでの活動といたしましては、4月に大阪府及び大阪市の上海事務所、華東政法大学、復旦大学、同済大学、5月に浙江大学、上海財経大学、上海外国語大学、8月に華東師範大学、華東理工大学、9月に東華大学、東京大学及び早稲田大学の北京事務所、11月に上海進才中学国際部などを訪問し、交流協定に基づく交流推進、或いは交流協定の新規締結に向けた具体的な協議などを行ってきました。

また、設置と同時に「希平会」（日中高等教育交流連絡会）に加入し、2ヶ月に一度ほどのペースで北京で開催される定例総会で日中間の教育・研究に関する情報交換、意見交換を行ったり、中国各地で開催される日本留学説明会に参加しています。本年度は、現在までのところ、中国人民大学（北京市）、上海交通大学・復旦大学（上海市）、中国海洋大学（山東省青島市）、山東大学（山東省済南市）、東北師範大学（吉林省長春市）、吉林大学（吉林省長春市）、赴日予備学校（吉林省長春市）などでの留学説明会に参加しました。

そのほか、9月に北京大学と大阪大学の学術交流会が開催され、上海教育研究センターからもこれを支援するため参加するなど、中国での行事に積極的に参加・支援を行い、さらに、大阪大学上海同窓会及び咲耶会（大阪外国語大学同窓会）上海支部の代表者との懇談を行うなど同窓会活動の活性化の推進や、現地でのネットワーク拡充に努めています。

ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学 フランクフルト・アム・マイン(ドイツ)

Johann Wolfgang Goethe Universität Frankfurt am Main



ゲーテ大学はフランクフルト市民からの寄付金をもとに1914年にフランクフルト市に設立されました。1932年には、ドイツを代表する文豪であり、フランクフルト市の最も有名な市民でもあるヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ（1749-1832）に因んで、大学の名称がヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学 フランクフルト・アム・マインに改称されました。また、1967年には、ゲーテ大学は私立の大学からヘッセン州の州立大学に移管されました。

設立以来、ゲーテ大学はドイツ有数の総合大学であり、目下16の専門分野において、36,000人以上の学生が学んでいます。そのうち4,400人以上は外国人留学生です。大



学には、ポツケンハイム・キャンパス（大学本部、教育学・社会科学、心理学、スポーツ科学、数学、コンピューター・サイエンス）ヴェストエント・キャンパス（法学、経済学・経営学、歴史学、哲学、神学、言語学、文化）リートベルク・キャンパス（地球惑星科学・地理学、生化学、化学、薬学、物理学）ニーダーラート・キャンパス（医学部、歯学部、大学病院）の4つのキャンパスがあります。6億ユーロが投じられる包括的な整備計画のもと、州政府の意向により、キャンパスの建物は2014年までにヨーロッパで「最も進んだ大学」に改築される予定です。

ゲーテ大学と大阪大学の大学間協定は、2010年9月に締結されました。締結以前から大学院文学研究科（哲学講座）の舟場保之准教授、核物理研究センターの谷畑勇夫教授、社会経済研究所のチャールズ・ユウジ・ホリオカ教授が相互訪問、共同研究などの形でゲーテ大学と交流していますが、今回の協定締結により、より広い分野での交流が期待されます。

（メインコンタクトパーソン・

チャールズ・ユウジ・ホリオカ社会経済研究所教授）

ウェブサイト：<http://www.uni-frankfurt.de/>

編集後記

師走を皆様いかがおすごでしょうか。12月のはじめまであった小春日和も無くなり、本格的な冬の到来を感じます。忘年会等が多く催される時期ですが、くれぐれも飲みすぎにはご注意ください。

さて、大阪大学創立80周年プレYearも終わり、年が明

けるといよいよ80周年記念Yearの幕開けとなります。さまざまなイベント、シンポジウムのほか、改修中のイ号館が大阪大学会館として生まれ変わるなど、ますます注目が必要です。

（柿木）

体操部

「Artistic Gymnastics」



みなさんは器械体操をご存知でしょうか。男子はゆか、鞍馬、吊輪、跳馬、平行棒、鉄棒の6種目、女子は跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆかの4種目の総合得点を競う競技です。先日の世界選手権では日本代表が男子団体に準優勝、男子個人総合では内村選手が見事優勝し、メディアでも大きく取り上げられ、注目を集めました。「体操って難しそう...」と思われがちですが、私たち阪大体操部は現役部員22人中、大学から体操を始めた部員が10人もいます。



今年の七大戦では昨年に続き見事男子団体に2連覇を達成しましたが、団体メンバー6人のうち2人は大学から体操を始めた部員でした。そう、体操は決して敷居の高いスポーツではないのです！

そんな体操部は週3回豊中キャンパスで練習しています。阪大は器具に恵まれており、非常にいい環境で練習させていただいています。監督などはいませんが、新しい技に挑戦するときなどは部員同士で教えあったり、練習に来て下さるOB・OGさんに教わったりして、日々励んでいます。練習風景は、サークルにはない、体育会所属の部活ならではの真剣な雰囲気でありながら、人数が多くないせいもあってとてもアットホームです。今年で団体メンバーを担っていた現4回生が多く引退されるため、来年の大会には新しいチームで挑むことになり、不安もありますが、練習を積み重ねて、先輩方の栄光を絶やさず新たな記録を築いていきたいと思います。

興味を持たれた方はぜひ一度体育館にいらしてみてください。部員一同、心から歓迎いたします。

団長 河村 圭悟(法2年)

コメント

2009・2010年の七大戦で2年連続優勝を果たしました。次の目標である七大戦3連覇と全日本インカレ団体出場に向けて日々練習に励んでいます。応援よろしくをお願いします!!



練習場所：豊中キャンパス第一体育館
練習日時：月・水曜日 17時～20時
土曜日 12時半～17時

部員数：22人

連絡先：主務 飯田あゆ里

laekyryfskidlabo@docomo.ne.jp

ホームページ

<http://www.eonet.net.jp/ougc117/index.html>

トピックス

第49回全国七大学総合体育大会優勝報告会



大阪大学の総合優勝で幕を閉じた第49回全国七大学総合体育大会の優勝報告会が、大阪大学体育会主催により、10月15日(金)に豊中キャンパスカフェ&レストラン「宙」に於いて、大会参加選手の他、大学役員、学生生活委員会委員、体育系クラブ顧問教員・学生、大阪大学育友会役員等の出席のもと開催されました。

最初に、鷲田清一総長から大会の役員並びに競技者に対し、祝福と慰労の言葉が述べられました。

前田裕明前体育会委員長の挨拶に引き続き、鏡割り和小泉潤二理事・副学長の発声により乾杯が行われた後、



会場外のテラスに移動し、100名を超える学生の歓喜の輪の中で鷲田総長、小泉副学長の胸上げが行われました。また、主管校である名古屋大学より参加のあった奥川望大会実行委員長から祝辞が述べられ、鷲田総長からは大会の成功に対して謝辞が述べられました。

その後も、各クラブの代表者によるスピーチや応援団のエールも行われ、会場はおおいに盛り上がり、最後には参加者全員で肩を組んで大阪大学全寮歌を歌い、優勝の喜びを分かち合うとともに、次回大会での連覇に向けてさらに意気を高めました。



阪大NOW No.121 2010 12月号 2010年12月20日発行

編集 大阪大学広報・社会学連携室
 発行 大阪大学企画部広報・社会学連携事務室 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1
 TEL: 06(6879)7017 FAX: 06(6879)7156
 ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp/>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせにつきましては、下記までお寄せ下さい。
 E-mail: ki-kousyagaku-kouhou@office.osaka-u.ac.jp